

平成26年度指定
スーパーグローバルハイスクール
研究報告書・第4年次

平成30年3月
静岡県立三島北高等学校

はじめに

静岡県立三島北高等学校
校長 齊藤 浩幸

平成 29 年 4 月に着任した私は、報告書等を活用しながらの過去 3 年間、自らの目で見ただけの今年度の事業を通して、独自に設定した 5 つの観点で 4 年間の事業を振り返ってみました。まず前提となるのは、この 4 年間の成果を踏まえ、研究指定が終了する場合であっても、グローバル人材育成に向け、継続的・持続的に取り組むことができる体制をどのように作り出していくかということです。

1 点目は、本校生徒に身に付けさせたい資質と S G H 事業による育成したい資質について、整合性がとれているか。2 点目は、学校設定科目、課題研究などがその資質の育成に効果的であるか。3 点目は、方法や手法がその資質を育成するものとしての確実であるかを検証し得る明確なエビデンスや客観的指標があるかです。これら 3 点を複合的に考えれば、本校の全ての教育活動が目標（身に付けさせたい資質）に向かっているかであり、エビデンスや指標結果に基づき改善方法を見出す「正のスパイラル」的な教育活動となっているかの検証であると言えます。これは、まさに次期学習指導要領の示す方向性であり、S G H 事業を次期学習指導要領の先行と捉えるならば、成果を積み上げていくことで、教職員の共通理解を得、円滑に移行することを可能にすると考えます。

4 点目は地域還元・発信が人材の育成に繋がっているかです。

「安全な水の確保」をテーマに課題研究に取り組んでいる本校が設置されている三島市は富士山の湧水に恵まれ、綺麗で透明感のある湧水を活用した街づくりに取り組んでいます。1 年生が「L W I (Local Water Issues)」のフィールドワークで活用する「源兵衛川」もかつては悪臭漂う川であったと聞いていますが、今では清流の流れる市民憩いの場となっています。この再生への取組は 2 年次で学ぶ「G W I (Global Water Issues)」の対象地である東南アジアなどの国・地域の水問題を解決する 1 つの切り口になります。S G H 事業を通して、本校の生徒たちがグローバルな課題に挑む力をつけることはもちろん、地域の方々に、水のありがたさ、その維持の難しさ、そして、世界には安全な水の確保に困っている国・地域が多く存在していることを知っていただくとともに、小中学生への課題意識を継承していくことも重要であると考えます。その意味では、三島市立山田小学校での本校生徒による出前授業は意義深いものです。

5 点目は予算です。

予算の縮小に伴い事業の規模を縮小しながら継続してきました。専門性を有する外部人材による授業支援や海外研修は実情を知る上で重要であるが、予算の確保は大きな課題となります。少ない予算で同じ教育効果が期待できるものはないかと考える毎日です。

この 5 点を踏まえ、平成 31 年度以降を見据えながら、平成 30 年度研究指定最終年に臨みたいと考えています。

最後に、本校の S G H 事業にご支援くださいました多くの皆様方に御礼を申し上げます。

目 次

巻頭言「はじめに」

平成29年度SGH研究開発完了報告書（別紙様式3）	1
---------------------------	---

第1章 平成29年度SGH研究開発の成果と課題の分析と検証

1 自己評価	12
(1) GTEC、英語検定試験、コンテスト参加実績等から見える成果	
(2) アンケート結果から見える生徒の変容	
(3) 教員対象アンケート及び保護者対象アンケートの結果及び分析等	
2 外部評価及びそれに対する改善・対応状況等	18
(1) 平成28年度中間評価結果を受けた今年度の改善・対応状況	
(2) 運営指導委員会の記録	
(3) 平成30年度に取り組みたい課題	

第2章 実施報告書

1 全生徒対象プログラムの開発	19
(1) 指導体制と指導方法	
(2) 論理的思考力テストについて	
2 外国語教育等に関する取組	25
(1) 英語によるポスター制作とポスターセッションに向けた指導方法	
(2) 「英語表現Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅱ」での指導の流れ	
(3) ALTからのコメント	
3 全教科における授業実践～ルーブリックを利用した評価～	27
4 国内外の大学・企業、国際機関等との連携	33
(1) 教員支援	
(2) 1年生課題研究支援	
(3) 2年生課題研究支援	
(4) 海外研修での連携	
5 海外研修	35
(1) シンガポール修学旅行（2年生全員）	
(2) ベトナム海外研修（1・2年希望者）	
6 教育課程外の取組内容	39
(1) 異文化理解講座	
(2) エンパワーメント講座	
(3) ワールドランチ（学校食堂との連携）	
(4) 英語ディベート大会参加	
(5) 海外進学・留学情報の提供と海外短期留学支援	
(6) 留学生等の受け入れ	
7 校外への活動の広がり 他	43
(1) 三島・世界の水問題を考えるワークショップ	
(2) ラジオ出演	
(3) 清水町「泉のまちカレッジ」でプレゼンテーション発表	
(4) 地元小学校での講座	
(5) SGHフォーラム、甲子園等への参加	
(6) 墨田区水の循環講座	
(7) SGH報告会	

<参考資料>

1 平成29年度教育課程表	48
2 学校設定科目シラバス	49
3 生徒対象アンケート	53
4 教員対象アンケート	61
5 論理的思考力テスト	63
6 SGH国際交流だより・新聞記事	71

(別紙様式3)

平成30年3月 日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 静岡県静岡市追手町9番6号
管理機関名 静岡県教育委員会
代表者名 木苗 直秀 印

平成29年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

平成29年4月3日～平成30年3月30日

2 指定校名

学校名 静岡県立三島北高等学校

学校長名 齊藤 浩幸

3 研究開発名

「国際的な視野から地域課題を解決できるグローバルな人材の育成」

4 研究開発概要

世界的な課題である「安全な水の確保」をテーマにした課題研究を通じ、大学・企業・行政・NPO法人・国際機関・海外学校等との連携の下、コミュニケーション能力、発信力、問題解決力、課題設定力、行動力など、グローバルな課題に対応できる能力を育成するための、全生徒を対象としたプログラムを開発する。課題研究では、アクティブ・ラーニングやプロブレム・ベースト・ラーニング等、生徒の主体的学びを促す方策や、フィールドワークを取り入れると同時に、グローバルな視点を持って社会に貢献できる実践力を培う。

5 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ア 授業支援 (ALT等派遣)	←											→
イ 運営指導委員会												

(2) 実績の説明

ア 授業支援

(ア) 学校設定科目GWI支援

日 程 平成29年4月～平成30年2月

支援者 県庁ALT, 県総合教育センターALT、県立三島長陵高校ALT

内 容 個人英語レポート・英文レジュメ・英語ポスター作成及び英語プレゼンテーション指導

対 象 2年生生徒全員(289人)

(イ) 英語表現 支援

日 程 平成29年4月～7月

支援者 県総合教育センターALT、県立三島長陵高校ALT

内 容 個人英語レポート評価補助

対 象 3年生生徒全員(288人)

(ウ) SGH授業担当者指導等

日 程 平成29年11月18日(土)

支援者 総合教育センター高等学校支援課課長

イ 運営指導委員会の開催

(ア) 第1回SGH運営指導委員会

日 時 平成29年11月2日(木)

場 所 県立三島北高等学校会議室

出席者 松本副委員長、委員3人、校長、副校長、教頭、SGH推進室職員

内 容 ・前回から今回までの事業報告、昨年度の反省を受けた改善・対応状況
・今後の活動に向けての指導・助言

(イ) 第2回SGH運営指導委員会

日 時 平成30年2月7日(水)

場 所 三島商工会議所

出席者 三浦委員長、委員3人、校長、副校長、教頭、SGH推進室職員

内 容 ・本年度の事業報告
・次年度計画及び次年度以降の活動に向けての指導・助言

6 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ア 学校設定教科等	←												→
イ 国内における研修・フィールドワーク													
ウ 課題研究の発表(SGH校)													
エ 課題研究の発表(その他)													
オ 海外研修	事前研修							事後研修					
カ 国際交流部の活動推進	←												→
キ 事業成果の公表	←												→
ク 教員研修	←												→
ケ 生徒評価の改善													

(2) 実績の説明

ア 学校設定教科等

(ア) 学校設定科目LWI、GWIの実施

- ・シラバス見直し

初期指導の内容やプレゼンテーション作成の流れを改善した。

- ・評価シートの見直し

教員と生徒が、年間シラバスの中でどの段階の作業を行っているかがわかる評価シートを作成した。

(イ) 外国語教育に関する取組

1・2年次の学校設定科目の課題研究を受け、3年次「英語表現」で、生徒が個別にテーマを設定し、1,000語程度の英文エッセイライティングを実施

イ 国内における研修・フィールドワーク

- ・NPO法人グラウンドワーク三島、NPO法人三島フォレストクラブ、沼津河川国道事務所がフィールドツアーを実施
- ・1年生生徒が課題研究に関し、出身中学校の生徒を対象にアンケート等を実施
- ・他県SGH校生徒対象にアンケートを実施

ウ 課題研究成果の発表(SGH校対象)

(ア) 第3回全国SGH校生徒成果発表会(平成29年11月9日(木))

参加者 4人

(イ) 2017年度SGH全国高校生フォーラム(平成29年11月25日(日))

参加者 5人

(ウ) 第2回関東・甲信越静地区SGH課題研究発表会(平成29年12月23日(土))

参加部門等 英語ポスターセッション部門2チーム参加、金賞・銀賞受賞

(I) SGH甲子園(平成30年3月24日(土))

参加部門等 研究成果ポスタープレゼンテーション部門 2チーム出場

エ 課題研究成果の発表・地域への還元(本校及び外部団体等主催)

(ア) コミュニティFMラジオ出演

日 程 平成29年9月30日(土)、12月30日(土)いずれも12:00~12:30
収録会場 コミュニティFMみしま・かなみ ボイス・キュースタジオ
協力団体 NPO法人ウォーター・ビジョン(静岡県駿東郡清水町)
参加生徒 ベトナム研修に参加した1年生2人ずつ計4人
内 容 毎週土曜日のNPO法人ウォーター・ビジョンの番組のうち、第5土曜日の番組に、平成29年8月にベトナム研修に参加した生徒が2人ずつ出演し、本校の取組やベトナム研修の感想を述べる。

(イ) 小学生対象ワークショップ

日 程 平成29年10月13日(金)、16日(月)
場 所 三島市立山田小学校
参加生徒 カンボジア・トンレサップ湖の課題に取り組む2年生チーム4人
内 容 三島市立山田小学校6年生2クラス、4年生1クラス、希望者を対象とした水問題の授業を実施

(ウ) 三島・世界の水問題を考えるワークショップ

日 程 平成29年10月22日(日)
場 所 三島北高校紫苑荘会議室
主 催 NPO法人ウォーターエイドジャパン
参加生徒 1・2年生生徒20人
出 席 者 一般市民24人
内 容 三島北高校のSGHの取組紹介及び日本や三島の水事情と世界の水事情に関する生徒によるオリジナル授業

(I) ウォータースピーカー講習会

日 程 平成29年11月12日(日)
場 所 三島北高校紫苑荘会議室
主 催 NPO法人ウォーターエイドジャパン
参加生徒 ウォータースピーカージュニアスピーカー資格取得生徒
内 容 ウォータースピーカー育成講座にファシリテーターとして参加

(オ) 第207回泉のまちカレッジ「三島北高生が見てきたベトナム・水問題を通じて」

日 程 平成30年1月13日(土)
場 所 清水町地域交流センター
主 催 清水町教育委員会、NPO法人ウォーター・ビジョン
参加生徒 ベトナム研修に参加した1・2年生生徒12人
内 容 清水町民を対象としたシリーズ教養講座で、生徒4チームがそれぞれの課題研究の内容を、海外フィールドワークの感想等も交え発表

(カ) 静岡県環境教育推進フォーラム・環境学習フェスティバル

日 程 平成30年1月25日(木)
場 所 静岡コンベンションアーツセンターグランシップ
主 催 静岡県環境政策課
内 容 1~2月に県内で実施する環境学習プログラムをまとめた「環境学習フェスティバル」事業に本校報告会を登録。また期間中の静岡県環境教育推進フォーラムで、本校生徒の課題研究ポスターを展示。

(キ) 課題研究開発商品の販売

期 間 平成30年2月5日(月)～12日(月)
場 所 Buddy Café(三島市三嶋大社前「大社の杜」内)
内 容 1年生LWIで三島の水を利用したスイーツを開発しているチームが、Buddy Caféに開発商品の調理販売を依頼し、期間限定で販売

(ク) 墨田区水の循環講座(全6回シリーズ講座の第6回)

日 程 平成30年3月11日(日)
場 所 すみだリバーサイドホール
主 催 墨田区、NPO法人ウォーターエイドジャパン
参加生徒 ウォータースピーカージュニアスピーカー資格取得生徒
内 容 水の授業「すみだと世界の水循環について考える授業をしよう!」と題し、生徒が一般の方を対象に授業を実施

オ 海外研修

(ア) シンガポール修学旅行

日 程 平成29年10月8日(日)～10月12日(木) (第1団)
平成29年10月9日(月)～10月13日(金) (第2団)
参加者 2年生全員288人 引率教員16人
訪問先 リバーバレー高校、ジュロンウエスト中等教育学校、ニアンポリテクニク、ニューウォータービジターセンター
内 容 高校では、事前研修で研究した水問題について互いに英語でプレゼンテーションを実施。ニューウォータービジターセンターでは、シンガポールの水事情に関する施設見学。

(イ) ベトナム海外研修

日 程 平成29年8月20日(日)～8月24日(木)
参加者 生徒13人(1年生11人、2年生2人)引率教員2人
訪問先 ベトナム社会民主主義共和国 ハノイ市
内 容 チュウバンアン高校で水問題に関する相互の英語プレゼンテーション
在ベトナム日本国大使館訪問、ホン河水上市生活者の村訪問、
水資源大学での大学教授による講義の聴講と同大学学生との質疑応答
JICA専門家指導によるハノイ市街水環境フィールドワーク

(ウ) 事前・事後研修

日 程 平成29年4月～平成30年2月
対象者 ベトナム研修参加者11人、シンガポールプレゼン代表者14人 計25人
内 容 研究課題設定、研究、プレゼン練習、研修報告会、各種ポスターセッションへの参加準備

カ 国際交流部の活動推進

(ア) 異文化理解講座(世界各国の現地事情等について、留学生等から話を伺う。)

第1回 ベトナム(留学生)
第2回 シエラレオネ(留学生)
特別編 カンボジア(トピタテ!留学JAPAN参加者が現地で知り合った方)
第3回 ウガンダ(現地でフィールドワークを行っている日本人学生)

- (イ) 全国高校生英語ディベート大会参加（平成29年12月16日（土））
静岡県大会（10月30日実施）で第2位となり出場権獲得
- (ウ) 新聞での紹介
ディベート大会のテーマ「日本は、移民政策を大幅に緩和すべきである」に係り「ニッケイ新聞」に4回のシリーズ記事で活動を紹介
- (I) 学校食堂との連携
平成29年12月より月2回、学校食堂運営委託業者に世界各国の郷土料理メニューを提案し、昼食時に生徒と職員を対象に調理販売を開始

キ 事業成果の公表

- (ア) 本校SGH特設ウェブサイト更新30回（平成29年4月1日～平成30年2月8日）
- (イ) SGHサイト提供記事29件
- (ウ) 平成29年度報告会
日 時 平成30年2月7日（水）午前10時から午後2時40分
場 所 三島市商工会議所
参加者 静岡県教育委員、静岡県総合教育課職員、県内外高等学校教員他
内 容 本年度事業・成果報告
講演（静岡銀行国際営業部国際営業統括グループ長 齋藤一史氏）

ク 教員研修

- (ア) 授業・学習支援クラウドサービス・ポートフォリオ導入研修会
日 時 第1回 平成29年11月14日（火）
第2回 平成30年2月23日（金）
講 師 ベネッセコーポレーション 初等中等教育事業本部 加納 学氏
- (イ) 学校設定教科振返り
日 時 毎週水曜日6・7時限
参加者 学校設定教科担当教員、海外交流アドバイザー、SGH推進委員

ケ 生徒評価の改善

- (ア) 論理的思考力テスト
 - ・試 行 日時 平成29年8月18日（金）
方法 Classi（授業・学習支援クラウドサービス）配信
対象 全学年希望生徒 284人
 - ・第1回 日時 平成29年9月6日（水）7日（木）午前8時10分～20分
方法 マークシート式
対象 全学年生徒 838人
 - ・第2回 日時 平成30年1月11日（木）12日（金）午前8時10分～20分
方法 マークシート式
対象 1・2年生全生徒 556人開発にあたり、静岡大学教育学部・河崎美保准教授の指導を受ける
- (イ) 3年生卒業時の成績記載
各生徒が1・2年時に実施した課題研究の内容について、生徒成果集を利用することで3年次担任が共有し、調査書や推薦書に記載した。また生徒も、大学側が求める活動実績証明書等に課題研究の概要や成果を記入した。

7 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 本構想において実現する成果目標の進捗状況

「自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数」は昨年度の138人から100人増え、240人となった。これは全校生徒の27.7%にあたり、当初の目標だった25%を達成した。「公的機関から表彰された生徒数等」は、昨年応募したコンテストが今年度実施されなかった経緯もあり、昨年度の25人から17人と減少しているが、JICAエッセイコンテストに参加した生徒のうち1人入賞、静岡県スピーチコンテストでは東部地区1位・2位を独占するなど、高い評価を得た生徒が多かった。

「卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベル（英検2級から準1級・TOEFL57点程度以上）の生徒の割合」は、28年度の22%から35%と10ポイント増加し、当初の目標だった20%をはるかに超す結果となった。

(2) 指定4年目以降に検証する成果目標の進捗状況

「海外大学へ進学する生徒の人数」は当初からあまり伸びるものとは考えておらず、平成29年度の卒業生で希望している生徒はいない。その他の項目は、今年度卒業生の追跡調査（平成30年9月～10月）を実施する予定。

(3) グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標の進捗状況

「課題研究に関する国外の研修参加者数」の微増分は「トビタテ！留学JAPAN」でカンボジアやフィリピンでのボランティア活動に参加した生徒によるものである。また「課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数」は、シンガポールのニースポリテクニクと、青年海外協力隊の協力により科学部と共同研究を行うことになったカメルーンのバズー技術専門校が加わり6校となったが、連携の内容がより専門的になり質的な向上も見られる。

(4) 育みたい資質・能力の伸長

3か年の伸びや入学年度ごとの比較が容易になるよう、昨年度と同一項目でアンケートを実施した。そのアンケート結果から「発信力」「問題解決能力」「課題設定力」「コミュニケーション能力」「行動力」の5つの資質・能力の経年分析を行うと、いずれの学年も入学時からの伸びが見える。中でも、平成27年度入学生は学校設定教科SGHの本格実施の対象学年にあたり、特に「課題設定力」は1年次の肯定的な評価47.9%が、3年次9月には65.2%と20ポイント近く増加している。

また、3学年の1年度後期のアンケート結果を比較すると、平成29年度入学生の資質・能力が最も高い数値となっており、平成27年度、28年度の反省が、今年度のシラバスに有効に活かされたことがわかる。

< 添付資料 > 目標設定シート

8 次年度以降の課題及び改善点

(1) 海外への興味・関心を伸ばすための手立て

ア 課題意識

生徒の自己評価アンケートで「高校在学中に留学や、海外への研修に行きたい」「高校卒業後、留学や海外への研修に行きたい」に肯定的な回答をする生徒の数が伸びない。特に高校卒業後の留学や研修について積極的に考える生徒を増やしたい。

イ 改善点

国際交流に興味関心が高く、留学体験等のある卒業生による授業支援等を実施し、海外研修や留学といったキャリアが身近にあることを意識させる機会を増やすことで、短期留学の希望者増を目指す。

(2) 研究開発内容の広がりに向けた取組

ア 課題意識

報告会で伝えられる内容には限度があり、また生徒の様子など表面的な表れのみが評価され、研究開発の内容の普及にまで繋がっていない。

イ 改善点

- ・学校設定教科等の授業案や教材を汎用性のあるデータとして蓄積し、総合教育センターホームページ等で、県内公立学校教職員に公開する。
- ・年度末の事業報告会では、生徒によるポスターセッションに加え、地域の小学生対象のワークショップやこれまでの生徒課題研究のポスター展示等を行う。
- ・年間を通じて、学校単位で静岡県グローバル人材育成事業に取り組んでいる高校や県内のSSH校等と連携を図り、先進的な取組の標準化に向けた協議を行う。

(3) 生徒評価の改善の方向性

ア 課題意識

論理的思考力テスト本体及び自己評価アンケートとの相関分析の精度向上を図る必要がある。また課題研究の結果を継続的に残していくシステムが必要である。

イ 改善点

- ・大学入学共通テスト試行問題等を参考に、より普遍的なテスト作成を目指す。
- ・自己評価としてのアンケート結果の効果的な活用を探りながら、個々の生徒の変容を定性的に測るポートフォリオのシステムを構築する。

(4) S G H指定期間終了後の活動について

ア 課題意識

S G H指定期間が終了しても地域に期待される高校である続けるために、普遍的な魅力につなげていくための手立てを検討する必要がある。

イ 改善点

S G H事業により伸びた能力と、事業後も引き続き或いは新たに育みたい能力の整理により、グローバルな課題に対応できる能力の普遍性を検証しながら、それらの定量評価の開発をさらに進め、大学入学共通テストや新学習指導要領への迅速な対応に繋げる。また、S G H後継事業の情報収集に努め、継続の可能性を探る。

【担当者】

担当課		TEL	
氏名		FAX	
		e-mail	

ふりがな	しずおかけんりつしみきたこうがっこう	指定期間	26～30
学校名	静岡県立三島北高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		150人	(138人)	138人	240人		200人
	SGH対象生徒以外:		人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 授業改善の取組が学年進行にしたがって進み、研究開始後3年で意欲関心を持つ生徒が全校の25%を占めることを目標とする。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		21人	19人	20人	22人		30人
	SGH対象生徒以外:		8人	6人	人	人	人	人
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		-	35%	49%	51%		70%
	SGH対象生徒以外:		50%	50%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 留学意識調査に基づき推計だが、大学在学中の留学意識は現在でも高い。大学入学後に高くなることが推測される。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		2人	6人	25人	17人		20人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 具体的にどのような大会があるかが調査不十分であるが、数値目標は3%とする。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベル(英検2級～準1級・TOEFL57点程度以上)の生徒の割合								
e	SGH対象生徒:				22%	35%	%	60%
	SGH対象生徒以外:		(20%)	(20%)	—	—	—	%
目標設定の考え方: 研究が全校体制となる4年目以後は割合が安定すると考えられる。								

1 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(34年度)
文部科学省が支援する国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:							50%
	SGH対象生徒以外:		20%	20%				0%
目標設定の考え方: 現状卒業生の約2割程度であるが、主体的な学習により学力が付き、国際化重点大学への進学率が高まると考えられる。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		0人					10人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人				人
目標設定の考え方: 治安、経済的な理由から国外大学への進学意欲はほとんどないが、研究の結果、意欲を見せる生徒が出ると考えられる。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		53%					60%
	SGH対象生徒以外:		-	-				%
目標設定の考え方: 研究開始から卒業生が出るのは4年後である。従って、32年度以後は飛躍的に高まると考えられる。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		149人					100人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
目標設定の考え方: 例年約10名前後の卒業生が短期を含めて海外大学に研修に行っているが、研究実施後は飛躍的に増えると考えられる。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(31年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	0人	0人	12人	298人	303人	301人		300人
	目標設定の考え方：2年目までは課外活動が中心。3年目以後修学旅行で研修に参加する。短期留学への意欲も高まると考えられる。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	0人	0人	80人	162人	168人	138人		600人
	目標設定の考え方：初年度は課外活動が中心。2年目以後学年進行で研究事業に参加する。最終学年は40名前後に対象生徒を絞り込むため。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	0校	0校	2校	4校	4校	6校		6校
	目標設定の考え方：現地協力校から始め、毎年協力相手校を1校ずつ拡充していく。							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	0人	0人	39人	125人	60人	38人		100人
	目標設定の考え方：初年度は教員研修が中心。2年目以後は教員、1年生。3年目以後に1,2学年で大学教員、学生と協力する。							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	0人	0人	35人	25人	98人	71人		50人
	目標設定の考え方：企業との探究・体験活動を軸とするため複数回の研修機会が必要である。							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	0人	0人	114人	150人	160人	189人		20人
	目標設定の考え方：高校生英語ディベート大会、スピーチコンテストが中心。国連機関主催事業への応募が見込まれる。							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	12人	2人	0人	3人	2人	5人		20人
	目標設定の考え方：初年度から各クラス1名程度までの留学生の受け入れが可能である。							
h	先進校としての研究発表回数							
	0回	0回	1回	3回	3回	2回		1回
	目標設定の考え方：毎年の県内対象と隔年の全国対象発表会を実施する。視察は随時受け入れる。							
i	外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	×	×	△	○	○	○		○
	目標設定の考え方：初年度中に課外活動で準備を進め、2年目以後は完成し、随時更新する。							
j								
	目標設定の考え方：							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	843	844	874	869	866	865	
SGH対象生徒数			287	576	866	865	
SGH対象外生徒数			587	293	0	0	

第1章 平成29年度SGH研究開発の成果と課題の分析と検証

1 自己評価

(1) GTEC、英語検定試験、コンテスト参加実績等から見える成果

ア GTEC技能別スコア

平成28年度入学生は平成27年度入学生と比較し、3技能合計で1年次の平均点が15ポイント近く高く、2年次も同程度の違いが見られる。技能別では、リーディングの平均スコアが1年次から23ポイントも伸びているのに対して、ライティングの伸びはあまり大きくない。今後の指導のポイントと考えられる。また、平成29年度入学生は、平成28年度入学生よりは3技能合計は低いものの、平成27年度入学生よりもリスニングとライティングで上回っており、結果的に3技能の計では平均点が高い。今後リーディングスコア向上に向け、多読・速読等が必要と考えられる。

(R：リーディング、L：リスニング、W：ライティング、T：左記3技能計、S：スピーキング)

	H27入学生					H28入学生					H29入学生				
	R	L	W	T	S	R	L	W	T	S	R	L	W	T	S
H27.12	168.7	185.0	117.1	470.8	96.5										
H28.12	181.3	204.7	121.9	508.3	102.7	170.8	191.1	123.3	485.3	96.8					
H29.12						193.2	206.7	123.6	523.5	113.5	164.3	188.9	120.9	474.0	105.7

イ 実用英語検定試験結果（合格者数／受検者数）

「卒業時の英語検定2級以上合格者60%」を目標とし、2級の筆記及びリスニング試験の準会場となり校内受検を実施している。また、全生徒の在学中の2級受検を推奨していることから、受検者数と合格者数は増加傾向にある。

級	準2級			2級			準1級		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
～前年度		18	27		13	74		0	0
第1回	2/2	8/10	-/-	3/5	8/20	16/41	0/1	0/5	2/18
第2回	6/13	-/-	-/-	1/3	4/10	6/12	0/1	1/3	1/7
第3回	21/27	4/5	-/-	7/26	62/200	0/1	0/2	0/8	0/2
小計	29/42	12/15	-/-	/34	74/230	22/54	0/4	1/16	3/27
計	41/57			107/316			4/47		

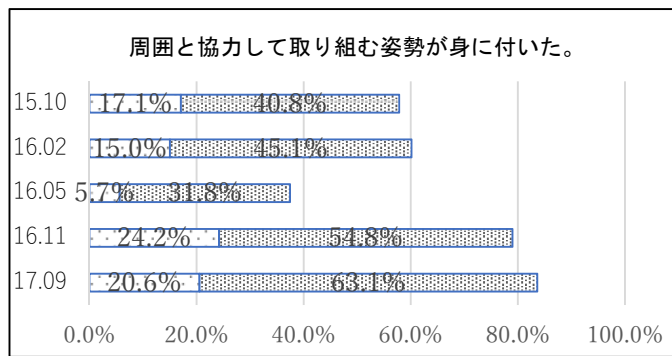
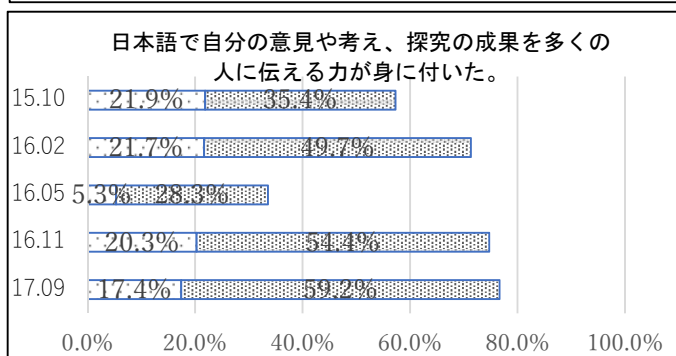
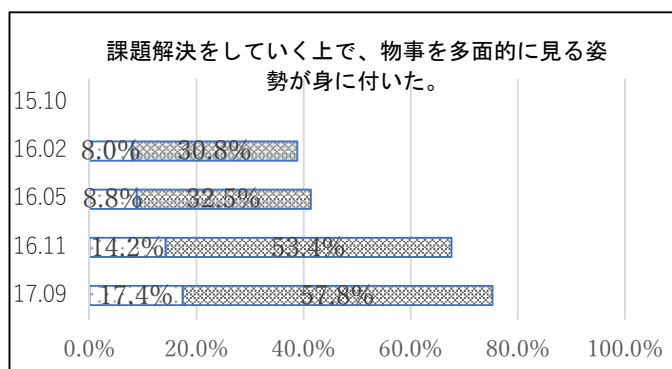
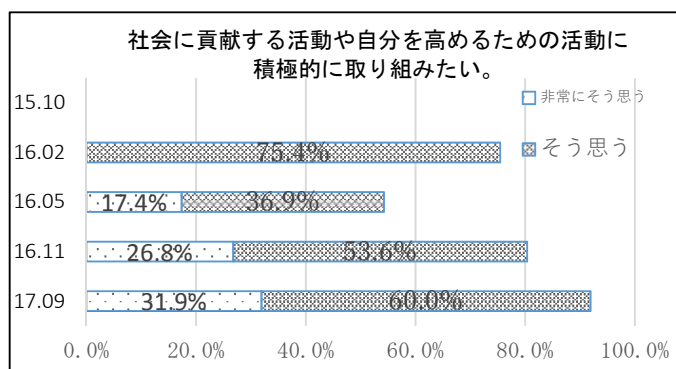
ウ コンテスト参加実績他

- (ア) 静岡県高校生英語スピーチコンテスト 東部地区大会 1位、2位 県大会 6位
- (イ) 第1回関東・甲信越静地区スーパーグローバルハイスクール課題研究発表会
英語によるポスターセッション発表部門 金賞 銀賞
- (ウ) JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2017高校生の部 学校賞 国際協力特別賞
- (エ) 全国英語ディベート連盟主催 高校生英語ディベート大会 静岡県大会2位
全国大会出場

(2) アンケート結果から見える生徒の変容(cf. pp. 53-60)

ア 3年生(平成27年度入学生)の結果

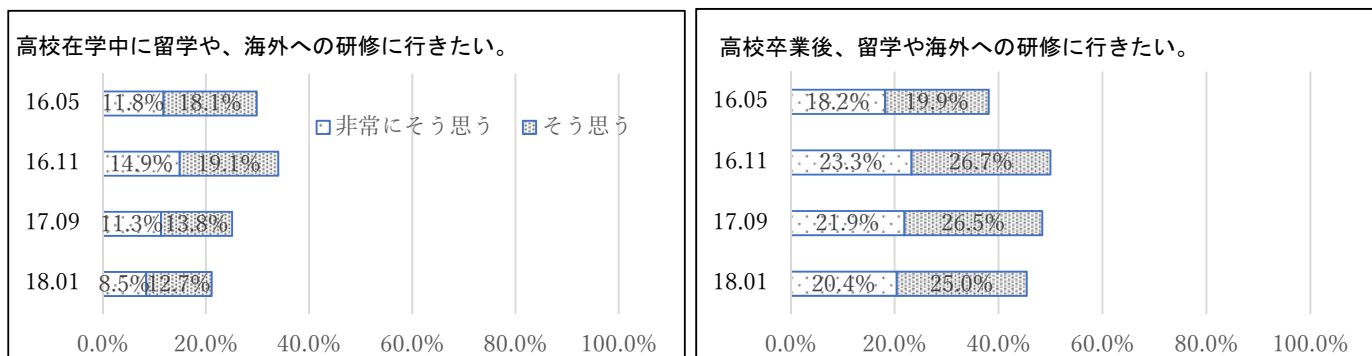
1年次から学校設定科目で課題研究に取り組んできたこの学年の生徒は「高校在学中に留学や、海外への研修に行きたい」「将来、国際関係や英語を使う職業に就きたい」の2項目以外の項目で肯定的な回答が増加した。このうち、高校在学中の留学希望については、在学期間が残りわずかなことを考えれば当然の結果といえる。また、将来の進路に関する項目は、0.2ポイント減に過ぎない。特筆すべきは、16のアンケート項目のうち11項目で、平成29年9月にとったアンケートの肯定的な回答の割合が、それまでのすべてのアンケート結果より高かったこと、そして「社会に貢献する活動や自分を高めるための活動に積極的に取り組みたい」「課題解決をしていく上で、物事を多面的に見る姿勢が身に付いた」「日本語で自分の意見や考え、探究の成果を多くの人に伝える力が身に付いた」「周囲と協力して取り組む姿勢が身に付いた」の4項目は、肯定的な回答をした生徒の割合が75%を超えていることである。特に肯定的な回答割合が90%を超えた「社会に貢献する活動」の項目は、本校学校設定科目の目標のひとつである「社会課題に対する関心」や、SGH構想において実現する成果目標「自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数」に関連しており、本校の取組がSGH事業の当初の目的を達成するものとなったことが示されたものと考えられる。



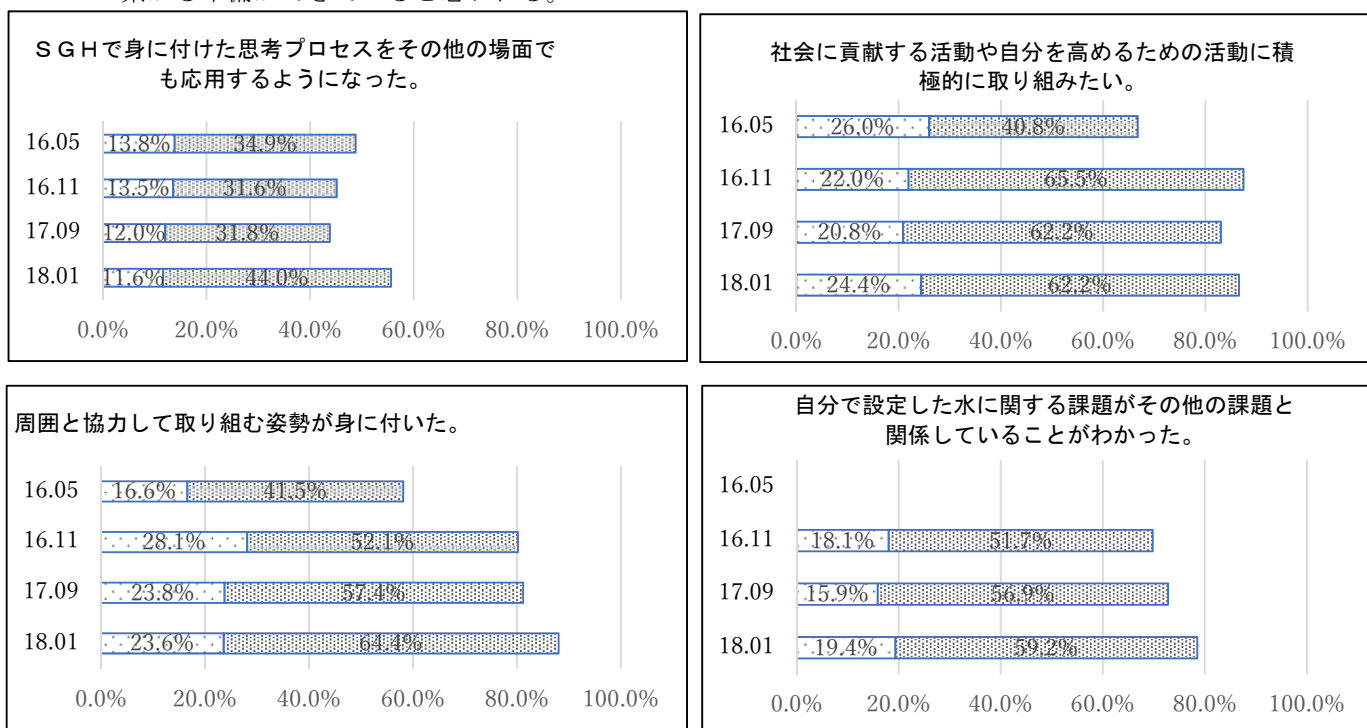
この学年の生徒については、卒業式直前に最終アンケートをとり3年間の取組について振り返るほか、大学入学後追跡調査を実施する予定である。追跡調査では、SGHで身につけた考え方が大学の授業において役に立っているかどうか、また海外への留学や研修を考えているか、といった項目を質問したいと考えている。

イ 2年生（平成28年度入学生）の結果

2年生では、昨年度の結果と同様中間学年としての「中だるみ」が9月期のアンケートでは見られたが、1月のアンケート結果では回復傾向にある。なお、この学年も「高校在学中に留学や海外への研修に行きたい」「高校卒業後、留学や海外への研修に行きたい」に肯定的な回答をしている生徒の割合は減少している。高校在学期間が短くなるにつれ、在学期間中の留学への否定的な回答が増えるのは致し方ないが、卒業後の意識を高める手立てを考える必要があると思われる。

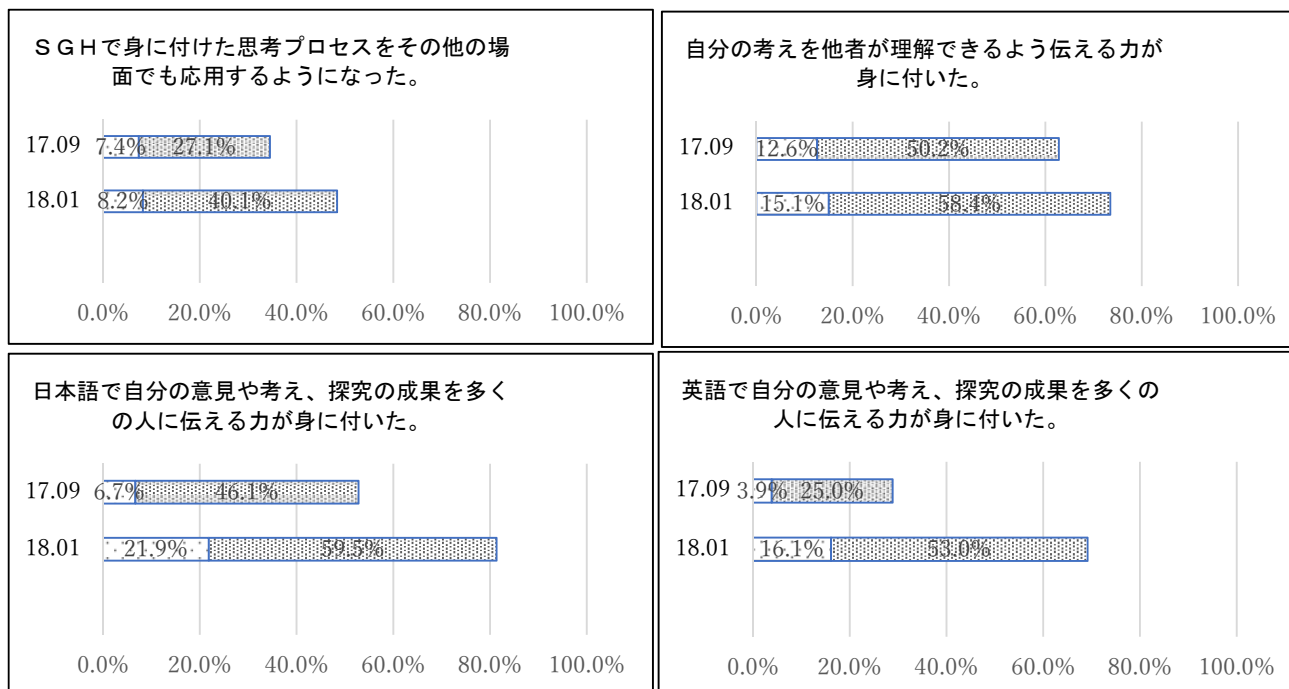
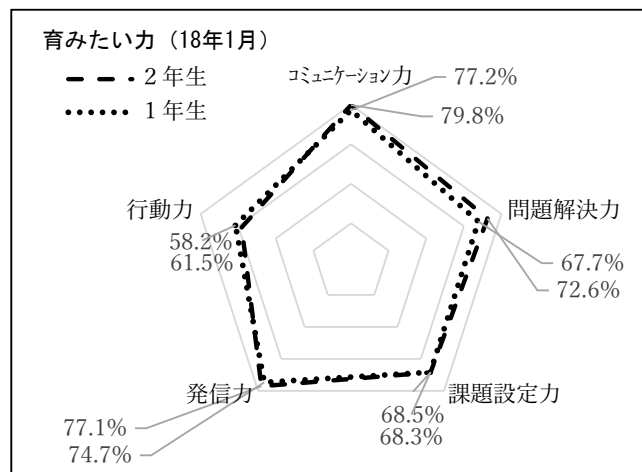


今回特徴的なのは、これまでは減少傾向だった「SGHで身につけた思考プロセスをその他の場面でも応用するようになった」の項目に対し肯定的な回答をした生徒が増加したことである。LWI・GWIと課題研究を繰り返し、レポートからポスターに仕立てる作業を経て、課題発見や、原因究明、仮説、立証といった流れが身に付いてきたと感じる生徒が増えたことが要因と考えられる。また「社会に貢献する活動や自分を高めるための活動に積極的に取り組みたい」「周囲と協力して取り組む姿勢が身に付いた」に肯定的に回答した生徒が9割に近づいており、社会課題に対する関心やコミュニケーション力といった、本校の教科SGHが目指す学力の育成が達成できたことがわかる。さらに「自分で設定した水に関する課題がその他の課題と関係していることがわかった」に肯定的な回答をする生徒も着実に伸びていることから、SDGsと関連づけて考える3年生の活動に繋がる準備ができていると思われる。



ウ 1年生（平成29年度入学生）の結果

9月と1月のアンケート結果を比較すると「SGHで身に付けた思考プロセスをその他の場面でも応用するようになった」「自分の考えを他者が理解できるよう伝える力が身に付いた」「日本語で自分の意見や考え、探究の成果を多くの人に伝える力が身に付いた」「英語で自分の意見や考え、探究の成果を多くの人に伝える力が身に付いた」の肯定的回答が、10ポイント以上の伸びを見せている。特に「英語で自分の意見や考え、探究の成果を多くの人に伝える力が身に付いた」の肯定的回答は、40.2ポイントも増加している。またこの学年の生徒のアンケート結果を「行動力」「コミュニケーション力」「発信力」「課題設定力」「問題解決力」の5要素で分析すると、2年生と比較し行動力では上回り、実際にSGHの授業だけではなく、普段の授業の教え合いや行事といった場面で協働的な姿が見受けられ、アンケート結果を裏付けている。

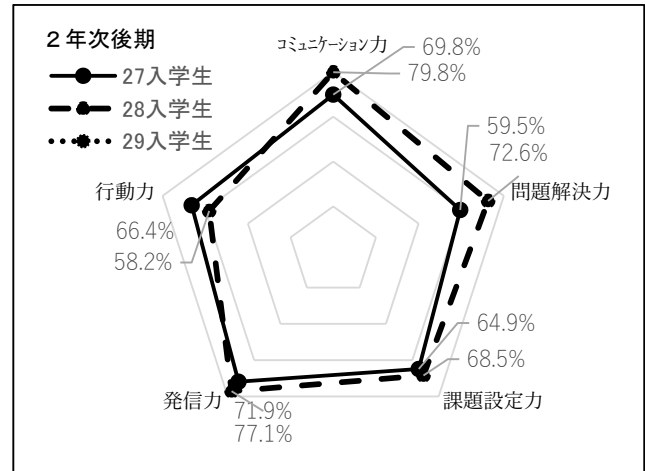
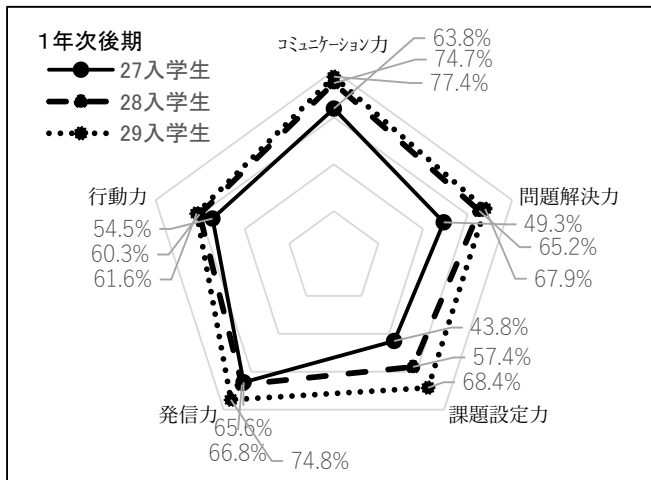


エ 3学年の比較

平成27年度から29年度の入学生の、1年次後期のアンケートを上記の5要素で比較してみると、レーダーグラフの五角形が年々大きくなっていることがわかる。教科SGHの課題研究が、毎年試行錯誤を繰り返しながらより洗練されてきたと同時に、先生方の中で5つの育みたい力への意識が高まり、他教科でも授業の工夫がされてきた結果ではないかと考えられる。

また、平成27・28年度入学生の2年次後期のアンケートを比較すると、工夫をしてきた課題設定力や問題解決力を伸ばすシラバスが有意だったことがわかる一方で、行動力の面では平成28年度入

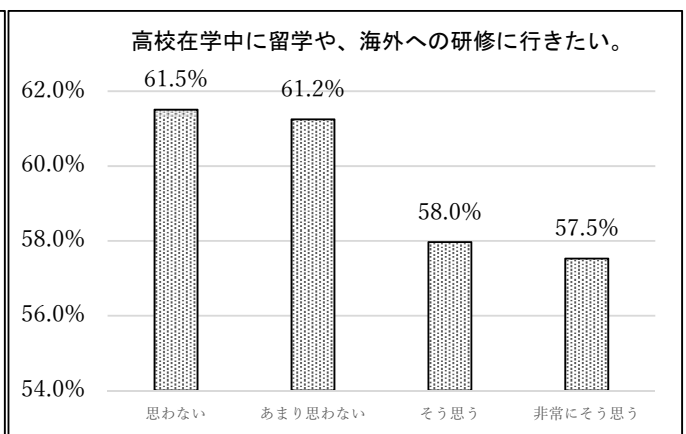
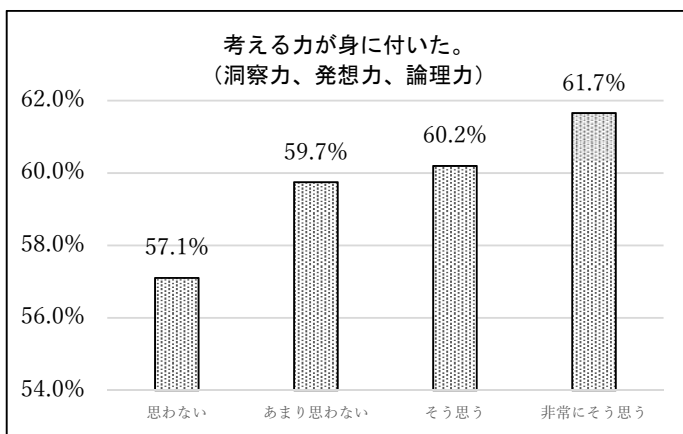
学生が下回っている。これは、行動力の要素として、海外留学への希望の有無を含めているためと考えられ、個別の学年での分析にもあるとおり、海外で学ぶことの意義を伝える取組の充実も図るべきではないかと考えられる。



オ 論理的思考力テストとの相関

今年度アンケート実施とほぼ同時期に論理的思考力テスト（cf. pp. 22-24/pp. 63-72）を実施し、その結果とアンケートとの相関をとってみた。まず第1回の論理的思考力テストとアンケート（平成29年9月実施）では、多くの項目で「そう思う」と回答した生徒の平均点が最も高かった。しかし、第1回の論理的思考力テストは、平均点が高く標準偏差も小さかった（1.33）ため、相関性もわかりにくくなっている。

第2回論理的思考力テスト（平成30年1月実施・標準偏差3.4）とアンケートでは、もう少しわかりやすい相関が見える。たとえば、アンケート項目「社会に貢献する活動や自分を高めるための活動に積極的に取り組みたい」「考える力が身に付いた」「周囲と協力して取り組む姿勢が身に付いた」に対し肯定的な回答を出した生徒集団の方が正答率は高く、正の相関が伺える。一方、「高校在学中に留学や海外への研修に行きたい」「高校卒業後、留学や海外への研修に行きたい」「地域課題に対する興味や関心を持ち、ニュースや新聞を意識してみるようになった」の項目は、否定的な回答を出した生徒集団の方が、正答率が高い傾向にある。データ数や問題の有意性とあわせ、留学や海外研修への興味関心が高い生徒にはどのような生徒が多いのかを改めて確認する必要がある。



(3) 教員対象アンケート及び保護者対象アンケートの結果及び分析等

ア 教員対象アンケートの結果(cf. pp. 61-62)

昨年度のアンケートとの比較では、「生徒が学習の価値を見出せるよう手助けをしている」「自分が生徒にどのような態度や行動を期待しているか明確に示している」と回答した教員の割合は8%前後減少している。これをSGHの授業担当歴で見ると、担当回数が多い教員の方が肯定的な回答をしている割合が高いため、教員の異動も要因として考えられる。一方、「生徒の多面的思考・批判的思考を促している」に対し肯定的な回答をした教員が50%から71.9%と大きく増加している。

質問項目	H29	H28
生徒が学習の価値を見出せるよう手助けをしている。	81.3%	88.6%
自分が生徒にどのような態度や行動を期待しているか明確に示している。	68.8%	77.1%
生徒の多面的思考・批判的思考を促している。	71.9%	50.0%

今年度は、教科SGHの担当経験がある教員が増えていることから、SGH担当者とは非担当者の比較は行わず、SGHの活動を通してどの程度の割合の生徒に、各項目に挙げる変化が見られたか訊ねた。いずれの項目も、「一部の生徒(10%~40%)」の生徒に変化があったと回答する教員が多く、生徒全員を対象として実施している学校設定教科が、一部の生徒の能力しか伸ばしていないのではないかと見る先生が多いことが伺われる。しかし、「周囲と協力して取り組む姿勢が身に付いた」生徒の割合が「ある程度(40%~70%)」「ほとんど(70%~100%)」と回答した教員は90%近く、記述回答には「クラスの中で意見を言ったり、行事の役割を決めたりスムーズにできるようになった」「グループワークや話し合いをするのにすぐ取り組める」「一昨年度の卒業生と比べると、授業等で不明な点を生徒同士で自発的に教え合う場面が増えたように感じます」といった言葉もあり、コミュニケーション力や発信力の点で、全体的な伸びを感じる先生方が多い。

イ 保護者対象アンケートの結果

昨年度と同じ3問につき、1年生保護者183人、2年生保護者121人、3年生保護者95人、計399人から回答をいただき、全体的な傾向としては、昨年度と同様、学年が上がるにつれ肯定的な回答が多くなっている。特に「本校でSGH事業に参加できたことは、お子様にとって良かったと思いませんか」に対する3年生保護者の肯定的回答のうち、「とてもそう思う」と回答した割合は41.1%で、昨年度3年生保護者や昨年度2年生保護者(同クラス)と比較しても大きく伸びている。

「とてもそう思う」「そう思う」の回答割合 ※()内は昨年度同集団の割合	1年生	2年生 (1年次)	3年生 (2年次)	(参)H28 3年生
お子さんは、SGH事業を通じて、地域や社会の問題に対する興味・関心が高まった	69.4%	62.8% (67.2%)	68.4% (70.0%)	42.3%
お子さんは、SGH事業を通じて、英語力や国際性が高まった	43.2%	50.4% (56.3%)	61.0% (60.3%)	47.9%
本校でSGH事業に参加できたことは、お子さんにとって良かったと思う	88.6%	82.5% (87.5%)	84.3% (80.0%)	67.6%

2 外部評価及びそれに対する改善・対応状況等

(1) 平成28年度中間評価結果を受けた今年度の改善・対応状況

- ア 3年「英語表現Ⅱ」でSDGsと絡めた個人レポート作成を課し、1学期成績の評価項目とした。
- イ 3年生担任には、推薦入試を受ける生徒の推薦文で、1・2年次の課題研究の具体的な内容や、それが入学を希望する学部や学科と結びついた経緯を可能な限り記載してもらうようにした。
- ウ グローバルな課題に対応できる能力として本校で育成したいと考えている「課題設定力」「問題解決力」を客観的に測るために、論理的思考力テストを開発・実施した。

(2) 運営指導委員会の記録

ア 第1回運営指導委員会における指摘事項等（平成29年11月2日実施）

(ア) 論理的思考力テストについて

- ・サンプルとして、SGHに取り組んでいない他校の生徒の結果と比較してはどうか。
- ・誤った回答をした生徒がどのように考え、この回答に至ったかを確認することも重要である。

(イ) 2年次学校設定科目シラバスと英語科の連携について

- ・英語の授業との連動が大切だが、通常の英語の授業ではスキルアップはできても、内容に関する語彙は補えない。1年生段階から、関連する文章や語彙をインプットすることが大切である。

イ 第2回運営指導委員会における指摘事項等（平成30年2月7日実施）

(ア) 論理的思考力テスト

- ・テストとアンケートの相関は、誤差の範囲なのか、実際に相関があるのかを考える上で、有意処理を行い、統計的に意味があるのかを検証する必要がある。
- ・論理的思考力テストの作成は、SGH事業と同程度の大きなプロジェクトとなる。改善を加えながらも、この方式を定点で実施してみるのも良い。また、他校比較をやると良い。

(イ) 高校生による講師や地域還元

- ・You Tubeなどにレッスンビデオや教材をアップロードしてはどうか。

(ウ) 平成30年度事業計画

- ・普通高校では課題研究のノウハウを持たない学校が多い。SGHの手法がマニュアル化され、各校に提供できることは非常に意義がある。
- ・留学を希望する生徒数が増加しないことを課題としているが、生徒は真剣に考えるほど慎重になるのではないか。高校在学中には短期留学の増加を目指す方が良いのではないか。
- ・ポートフォリオを作成する際は、感性を育てるように活用することが大切である。既存のデータを活用し、新しい発見につなげることも重要である。

(3) 平成30年度に取り組みたい課題（cf. p. 8）

- ア 海外への興味・関心を伸ばすための手立て
- イ 研究開発内容の広がりに向けた取組
- ウ 生徒評価の改善の方向性
- エ SGH指定期間終了後の活動について

第2章 実施報告書

1 全生徒対象プログラムの開発

(1) 指導体制と指導方法

ア 指導体制

(ア) S G H運営委員会

構成 教頭（責任者）、S G H推進室長、補佐2人

1・2年学年主任各1人 学級担任14人 ICT担当、評価担当、留学担当等

業務 学校設定科目の指導計画や授業実践、諸事業の立案実施

随時推進室を中心とした話し合いにより、確認の実施

(イ) 学校設定科目 L W I (Local Water Issues)、G W I (Global Water Issues)

	L W I (1年生) (コミュニケーション英語 I 1単位減)	G W I (2年生) (教科「情報と社会」 2単位代替)
時間	毎週水曜日 1時間 (次ページ時間割参照)	毎週木・金曜日 2時間連続 (同左)
担当者	ファシリテータ：1年担任と副担任のTT ※担当者の専門教科：数学、理科、国語、英語、保健体育、地歴、公民 水に関する知識： 本校S G H推進委員 橋本淳司氏	ファシリテータ：2年担任と理科・社会科の教員とのTTで 1時間担当 海外交流アドバイザーの補助 2時間目 ：教科「情報」担当教員が主担当 HR担任又は海外交流アドバイザーが補助
内容	テーマ：「地域の水課題」 ・初期指導において、2年生ファシリテータによる水に関するアクティビティを経験したり専門家による講義を聴いたりした後、4～6人程度のチームを編成し、探究学習を進める。 ・夏休みにフィールドワークを実施。 ・日本語レジュメ作りと平行し、まずは日本語紙芝居プレゼン、日本語ポスターセッション。次に英語版ポスターを作成し、セッションを実施する。 ・課題解決の手法で取り組んだ研究とSDGs (持続可能な開発目標)との関わりを考えながら、レポートを作成する。	テーマ：「世界の水課題」 ・L W I からG W I への橋渡しの講義を受講後、各自で興味のある分野について個人探究し、英語のレポートを作成。それに基づき4～6人のチームを編成し、テーマ決定後探究学習を進める。 ・英語版レジュメ、日本語プレゼンを作成した後、英語プレゼン、英語ポスターを作成し、セッションを実施。 ・2年間学んだ課題解決の手法を元に、SDGs (持続可能な開発目標)と169のターゲットの中から、「水」にとらわれず、進路に関して、時事問題に関して等興味に応じて、現状、課題、解決策、考察をする論文を作成する。
場所	図書室、地学室、及びパソコン室 (図書室、地学室にはWi-Fi環境整備済み)	1時間目：図書室及び地学室 2時間目：パソコン室

(ウ) 授業担当者打ち合わせ会議 <LWI水曜6時間目 GWI水曜7時間目>

出席者：推進室長、補佐、学年主任、全クラス担任、海外交流アドバイザー、教頭、橋本委員

内容：授業の振り返りと翌週の授業打ち合わせ

各クラスの進捗状況の確認、授業展開上の工夫、苦労した点など担当者が共有

時には授業案をモデル授業として行い、ファシリテータとしての技術向上も目的とした

その他：橋本推進委員は、担当教員への情報提供や生徒の取組状況の共有などを行う。外部支

援者（企業、NPO法人、大学関係者、大学(院)生など）による授業支援があったときは、

支援者も参加し、連携協力体制を深めている。

(エ) その他

今年度は3年生で「英語表現Ⅱ」において、前年度GWIのまとめで行ったSDGsに関わる論文の英語エッセイ作成を行った。また、進路実現に向けて、2年間行ってきた探究の成果を利用できる場面もあり、全学年通してSGHの指導を行うことができた。

(参考)平成29年度のLWI・GWIの時間割

	水曜日		木曜日		金曜日	
1限	2限以降の教室・板書準備、外部支援者を招聘する日は事前打ち合わせ					
2限	LWI 15HR		GWI 22HR		GWI 25HR	
3限	LWI 11HR	LWI 12HR	GWI 22HR	GWI 27HR	GWI 25HR	GWI 21HR
4限	LWI 13HR	LWI 14HR		GWI 27HR		GWI 21HR
5限	LWI 16HR	LWI 17HR	GWI 26HR		GWI 24HR	
6限	LWI ミーティング		GWI 26HR	GWI 23HR	GWI 24HR	
7限	GWI ミーティング			GWI 23HR		
放課後 (16:30-18:00)	海外研修（1、2年生合同） 事前事後研修					

イ 指導方法

(ア) 授業シラバス作成（参考資料）

- ・橋本委員の指導の下、SGH推進室担当者が年間シラバス作成（前年度2月中）
→SGH運営委員会での検討、LWI・GWIミーティングでの確認、修正

(イ) 授業案・教材の作成（参考資料）

- ・橋本委員の指導・助言を受け、SGH推進室担当者が毎時間の授業案・ハンドアウト・振り返りシートの原案作成
- ・ミーティングにおいて確認、修正

(ウ) 指導方法の特徴

- ・学習方法として問題基盤型学習(PBL)、アクティブ・ラーニングを活用。担当者はファシリテータの役割を担う。
- ・毎時間振り返りシートを記入し、成果物と共に保管。
- ・各チームに2～3台程度のタブレット整備(現在35台、来年度設置増加予定)

- 適切な時期に外部指導者との連携を図る
 - 課題設定、ポスター作成時：専門家指導
 - 英語レジュメ、ポスター作成、ポスターセッション時：大学（院）生、ALT(県、隣接高校)
 - 英文レポート作成時、英文レポート評価時：ALT（県、隣接高校）
- 反転学習や情報共有、個人の振り返りの蓄積のため、Classi(学校向け授業・学習支援クラウドサービス)を活用。

(参考)Classi上でのアンケート集計の例・・・生徒個人の振り返りがクラウド上に蓄積される

※ パソコン画面のコピー画像のため、データはわかりにくいですが、御了承ください。

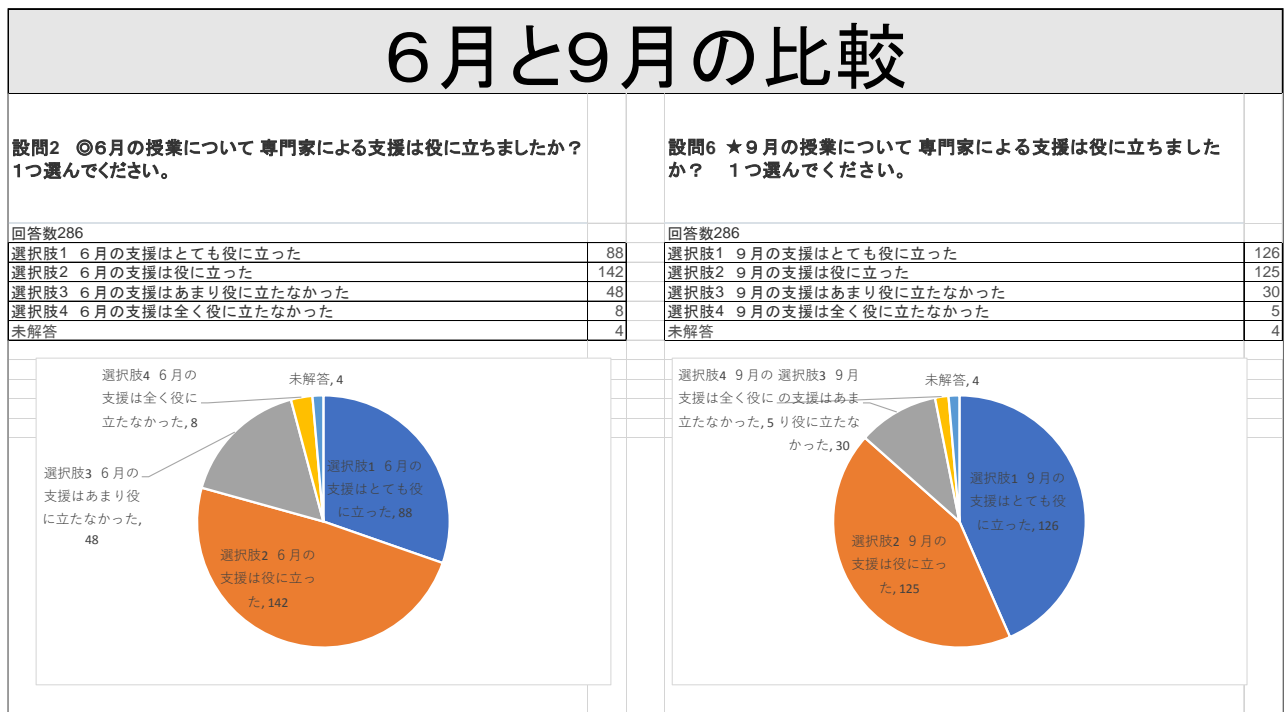


(1年生 大学生支援に関して)



(2年生 専門家指導に関して)

集計結果を簡単に共有でき、生徒の振り返りとして利用するだけでなく、次年度より適切な支援となるよう、時期や内容等を見直すこともできる。



(2年のアンケートより 6月と9月の取組の比較)

(2) 論理的思考力テストについて (cf. p. 16, pp. 63-72)

ア 開発の経緯

平成28年度の運営指導委員会において、生徒の伸びの定性評価と定量評価の必要性が指摘された。また、今年度第1回全国SGH校連絡協議会でも、様々なグローバル人材に必要とされる力が伸びたことを示す数値的なデータの必要性が指摘された。

生徒対象のアンケートは自分の能力の自己評価に過ぎないことから、その力を客観的に測るものが必要との認識は中間評価時点からあったため、まずは業者が実施する論理的思考力を測るテストの導入を検討した。しかし、①経済的な負担を保護者に強いること、また、②その結果をSGH事業の成果として利用する以外、現時点では使途が見当たらないこと、から業者テストの導入は断念し、SGH推進室独自でテストを開発することとした。

イ 試行テスト及び第1回論理的思考力テスト

(ア) 課題意識

今年度当初の課題は、まずは何を測ればよいのかであった。これについては、自己評価アンケートとの相関をとる必要があるため、本校でグローバル人材に必要とされる力として挙げている「行動力」「コミュニケーション力」「発信力」「課題設定力」「問題解決力」の5項目のうち、「課題設定力」「問題解決力」を中心に考えることとした。

次に、採点方法である。業者のテストは記述式で、観点のルーブリックにより採点が行われている。しかし、校内で採点をする場合、①客観的な判断はどの程度可能か、②手間と時間のかかる採点を先生方をお願いできるか、を鑑み、客観問題形式で実施することとした。

その次に課題となったのが、問題の内容である。そこで「LWIの課題設定の方法が身につけているか確認できれば、問題解決力や課題設定力は測れるのではないか」という仮説をたて、「LWIの初期指導に使う教材”A Grave Mistake”を参考に作成することとした。また客観問題とするため、「問題解決のためには何が足りないか」を3択で問うものとした。

(イ) 試行テスト実施状況

問題形式がこれまでにないものであることから、9月の第1回テスト実施に向け、試行テストを実施することとした。試行テストは平成29年8月18日、本校全生徒が登録している授業・学習支援クラウドサービスClassiで配信した。しかし、夏季休業中だったことや、Classiの利用率があまり高くなかったことなどから、実際に受検した生徒は全校生徒865人中284人しかなかった。また一旦始めると中断できず、最後の問題まで到達できなかった生徒もいた。

(ロ) 第1回テスト実施状況

A 基礎データ

	1年生	2年生	3年生
生徒数	286人	289人	288人
受検者数(欠席者を除く)	284人	284人	286人
相関分析有効データ数※	277	280	277
平均点/8点満点(得点率)	6.19(77.4%)	6.10(76.2%)	6.33(79.1%)

※ 相関分析有効データ数：出席番号のマークミス等で、アンケート結果との相関が取れないデータを省いた数

実施日 平成29年9月6日(水) 7日(木)

実施時間 午前8時10分から8時20分(毎朝設定している朝読書の時間を利用)計20分

配布物 問題A4 1枚/1日、マークカード1枚(2日間続けて使用)

B 分析

テスト結果全体の標準偏差は1.33となり、点差が広がっていないことが歴然となった。そもそも8点満点と差もつきにくいというえ、簡単な問題が多く8割近い得点率で、結果の有意性に疑問も残ったが、同時期に実施した自己評価アンケートとの相関分析を試みた。方法としては、自己評価アンケートの項目ごとに「非常にそう思う」「そう思う」「あまり思わない」「思わない」と回答した生徒の平均点を出すことで、自己評価が客観評価とあっているかどうかを見るものとした。結果は資料5(2)(cf. p. 69)のとおりである。

回答者の多い項目の平均点が高くなる傾向は見取れたが、「SGHの学習で身に付けた思考のプロセスを、他の学習や日常と言った様々な場面でも応用するようになった」「考える力が身に付いた」「周囲と協力して取り組む姿勢が身に付いた」といった項目で、肯定的な回答をしている生徒の方が、平均点が高いことがわかった。

C 反省

この結果も踏まえ、静岡大学教育学部の河崎美保准教授に問題分析を依頼し、以下の河崎准教授の指摘を、第2回テストの開発につなげることとした。

- ・何ができれば、「問題解決」なのか、明確になっているか。
- ・論理的思考のプロセスを踏襲できたことで、成果としていないか？
=生徒は、その考え方のプロセスが正しいとして使っているのか？
=プロセスは大切なのか？
- ・学校文化の中で「正しい」とされている価値観を問う問題になっていないか？
=「暗黙の前提」が必要とされているのではないか？
- ・例えば問題解決から一歩進んで「その問題解決の効果があつたか確かめるために、次のうち何を確認しなければならないか？」といった問題もできるのではないか？
- ・機械的に量産できるような問題ではなく、文脈の中で課題を見つけられるような問題が大切なのではないか。

ウ 第2回テスト

(ア) 課題意識とテスト問題への反映

第2回テストに向け、新たな課題となったのは「大切なのはプロセスではない」という点である。そこから、**普遍的に問える論理力とはなにか**を意識することになったが、定義も難しく開発の時間も限られることから、国際交流部の活動で頻繁に利用する**ディベートの評価観点を活用する方針**とした。それでもマークシート方式にこだわるため、ある主張に対する意見を「賛成論として有効だ」「賛成論だが、客観的な事実や論理的なつながりがないため、有効ではない」「賛成論とも反対論ともいえる/いえない」「反対論として有効だ」「反対論だが、客観的な事実や論理的なつながりがないため、有効ではない」の5種に分類することで、客観式の問題に仕立てた。また、河崎准教授の提案を受け、問題解決方法を一歩すすめた**データ確認の問題**も、どのように

すれば客観式のテスト問題にすることができるか検討し、課題解決のための「対策」と「データ」の組合せを問う問題を考えてみた。

(イ) テスト実施状況

A 基礎データ

	1年生	2年生
受検者数（欠席者を除く）	273人	283人
相関分析有効データ数	266	274
平均得点率※	60.1%	60.7%

※ 平均得点率：季節柄欠席者が多く、2日間にわたるテストを1日分しか受検できなかった生徒も多かったため、平均点ではなく、平均得点率で集計することとした。

実施日 平成30年1月11日（木）12日（金）

実施時間 午前8時10分から8時20分 計20分

配布物 問題A41枚／1日、マークカード1枚（2日間続けて使用）

B 分析

第2回テストは22点満点ということもあり標準偏差は3.44となり、点数の広がりがある程度見られた。また平均得点率も6割程度と、難度も学校のテストとして標準的なものとなった。

この結果を、第1回と同様、同時期にとった自己評価アンケートの結果と併せて分析したところ、今回は「考える力が身に付いた」「問題解決をしていく上で、物事を多面的に見る姿勢が身に付いた」「周囲と協力して取り組む姿勢が身に付いた」「社会に貢献する活動や自分を高めるための活動に積極的に取り組みたい」といった項目で正の相関が、一方「高校在学中に留学や、海外への研修に行きたい」「高校卒業後、留学や海外への研修に行きたい」「将来、国際関係や英語を使う職業に就きたい」「地域課題に対する興味や関心を持ち、ニュースや新聞を意識してみるようになった」の項目で負の相関が見られる。

C 反省

運営指導委員会でも指摘を受けたところだが、データ数の少なさ、項目ごとの差異の少なさ、など、分析の有意性は、まだまだ検討の余地がある。また、ディベートを経験している生徒にとって有利な問題になっていないか、或いは、人の意見を判断できることが自分で問題解決できることと等しいのか、という課題も感じている。

エ 平成30年度に向けて

第2回のテスト問題について、今後河崎准教授等専門家に検証を依頼し御指導いただく機会を設け、より洗練されたものにしていく必要がある。また、アンケート項目との相関については、その他の要因がないか、分析を深めることも大切だと考えられる。

大学入試共通テストや学習指導要領改訂を間近に控え、さらに重要視されるであろう「課題設定力」や「問題解決力」を校内で測定できる必要性はさらに高まってくるだろう。より精度の高いテストの開発が、こういった能力を測定できるテストも校内で作成・実施できる一例となればよいと考える。

2 外国語教育等に関する取組

(1) 英語によるポスター制作とポスターセッションに向けた指導方法

ア 1年次LWIの流れ

(ア) 論理的な表現方法を日本語で正しく習得させる。

- ① 各チームで取り上げた国内の水課題について「探究の目的（背景・課題・解決策）、方法・結果・考察・結論」といったプロセスで課題研究
- ② 日本語レジュメ、日本語プレゼン（紙芝居形式）、日本語ポスター作成
- ③ 日本語によるポスターセッションの練習と発表（クラス代表の決定）
- ④ 「三北ウォーターフォーラム」にてクラス代表が日本語でポスターセッション実施 →海外研修参加生徒のポスターは英語での発表：ゴールとしての手本となる。

(イ) 英語による発表へ向けて、資料作成させる。

- ① 英語ポスター、英語による発表原稿の作成
- ② 英語によるポスターセッションの練習と発表（クラス代表の再決定）
- ③ 「SGH事業報告会」にてクラス代表が英語によるポスターセッション実施

イ 2年次GWIの流れ

(ア) 年度当初より課題研究のプロセスに英語で取り組ませる。

- ① 英語による個人設定課題レポートの作成
- ② 各チームで取り上げた世界の水課題について「探求の目的（背景・課題・解決策）、方法・結果・考察・結論」といったプロセスで課題研究
- ③ 英語レジュメ、英語プレゼン、英語による発表原稿の作成
- ④ 英語によるプレゼンの練習と発表（クラス代表の決定）
- ⑤ 「三北ウォーターフォーラム」にてクラス代表が英語プレゼン実施

(イ) 英語ポスターセッションに向け、資料を作成させる。

- ① 英語ポスター作成、英語レジュメ、英語による発表原稿の修正
- ② 英語によるポスターセッションの練習と発表（クラス代表の再決定）
- ③ 「SGH事業報告会」にてクラス代表が英語によるポスターセッション実施

ウ 成果と課題

(ア) 成果

1、2年生全員が英語によるポスターセッションを実施することによって、英語による発信能力を効果的に身につける手立てになっている。また、2年生はレポート、プレゼンテーション、レジュメを英語で行うことによって、1年次より英語による表現をする機会が増え、「聞く・話す」の他、「書く」ことで、身につけた語彙や文法を適切に利用した作文ができるようになり、口頭発表の自信にもつながっている。

(イ) 課題

日本語ポスターから英語ポスターにする際に、翻訳ソフトに頼り切ったような単なる和文英訳ではなく、エッセンスを適切にかつ端的にポスターに表現するという発想の転換方法を身につけさせることが課題の1つである。また、指導担当は英語教員とは限らず、対象言語が英語に変わった際にどの程度の支援が必要か、英語の授業との連携も今後の課題となる。

(2) 「英語表現Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅱ」での指導の流れ

ア 1年次「英語表現Ⅰ」とSGHとの連携

- (ア) エッセイライティングの練習を開始（従来は英語表現Ⅱで実施）
- (イ) ポスター作成の手法を指導

イ 2年次「コミュニケーション英語Ⅱ※」とSGHとの連携

- ※ 内容としては「英語表現Ⅱ」で実施すべきだが、単位数の関係で「コミュニケーション英語Ⅱ」で実施
- (ア) 英文レポートの書き方、英文レジユメの書き方を指導（ハンドアウト例 下欄参照）
- (イ) GWⅠにおける課題研究の内容を個人でまとめさせ、スピーキングテストを実施

ウ 3年次「英語表現Ⅱ」とSGHとの連携

LWIとGWⅠで学んだ課題解決の手法をもとに、持続可能な開発目標（SDGs）をベースに個人で選んだ課題について「目的、現状分析及び課題、解決策の仮説、まとめ」のレポート作成の指導。20点満点で評価（平均11点）。

（参考：レジユメ指導に関するハンドアウト例）

HOW A RESUME LOOKS

TYPE A

Title
Your Names
Introduction Explain the purpose of your research. <ul style="list-style-type: none">• <i>What problems are you solving?</i>• <i>What is your hypothesis? What is the purpose of your experiment?</i>
Method Explain what did you do in your experiment. <ul style="list-style-type: none">• <i>What did you measure?</i>• <i>What were the variables and controls in your experiment?</i>• <i>What was the time span of your experiment?</i>
Results Write down the measurements you got from the experiment. Give a data analysis but <u>not</u> your opinion of the data. <ul style="list-style-type: none">• <i>Ex. of data analysis:</i> <i>50% less bacteria grew when temperature was increased by 10°C.</i>• <i>Ex. of opinion:</i> <i>This might be because the heat killed some of the bacteria.</i>
Discussion Write your opinion of the results.

エ ALTからのコメント

Because they chose their own topics, some were little bit confusing. There were many, many essays with poor English, but their central ideas were actually very strong.

From the broad range of topics that they wrote in their research reports, the third graders seem to be rather inquisitive and have their opinion on issues. I believe the third graders have matured a lot in their thinking, and this is certainly one of the aims of the LWI/GWI program. While occasionally, they slipped into making rather personal comments on broader issues, I believe this is more a problem of their lack of a wide knowledge of the world. However, they have acquired the ability to view things from different perspectives through the LWI/GWI program, and it would not be difficult for them to gain more general knowledge independently.

3 全教科における授業実践～ルーブリックを利用した評価～

地歴・公民科	授業者	佐野 範幸	日時	5月17日 第1限	学習集団	17HR
--------	-----	-------	----	-----------	------	------

- 1 単元名 「地球環境問題(砂漠化)」
- 2 本時のねらい 砂漠化による影響を理解する。
- 3 本時の授業展開

解決したい課題や問い	砂漠化によって、どのような問題が生じているか調べる。
【活動1】	プリントに記載されている気候変動と農業に関する2つのグラフをみて、どのようなことが読み取れるか、話し合う。
【活動2】	プリントに記載されている記事を読み、サヘル地域で起きていることを話し合う。
【活動3】	砂漠化を防ぐために、私たちはどのようなことができるか、話し合う。

4 本時の評価方法

観点 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
A	さまざまな活動において、主導的態度がみられた。	元の問題を変更、発展させた新たな問題に取り組み、課題解決に努めた。さらに、自ら新たな問題を設定し、取り組んだ。	2つのグラフを正確に読み取ることができ、砂漠化と結びつけて、その影響を考察することができた。	砂漠化の影響を多面的に理解することができた。
B	さまざまな活動に参加する態度がみられた。	元の問題を変更、発展させた新たな問題に取り組み、課題解決に努めた。	2つのグラフを正確に読み取ることができた。	砂漠化の影響について、1つあげることができた。
C	さまざまな活動に全く参加しなかった。	元の問題を変更、発展させた新たな問題を途中で投げ出し、課題解決に努めなかった。	どちらか1つのグラフしか正確に読み取ることができなかった。	その地域で起きている問題を砂漠化と結びつけて考えることができなかった。

5 授業設計の振り返り

ねらい	少人数での話し合い、クラス内での発表をとおして、砂漠化による影響を考察し、その内容等を共有・確認することができた。
解決したい課題や問い	プリントの記事により、影響が広がっていることを考察することができたが、そこまでに時間がかかり、自分たちに何ができるか考えさせるのに十分な時間がとれなかった。
活動	少人数での話し合いに積極的に取り組む姿勢がみられたが、意見等をまとめるのに時間がかかるグループがいくつか生じた。
学習の成果	教科書の内容だけでなく、資料を用いることにより、影響がさまざまなところに出ていることを認識させることができた。

数学科	授業者	山本 達也	日時	11月15日 第6限	学習集団	14HR
-----	-----	-------	----	------------	------	------

- 1 単元名 「場合の数と確率」
- 2 本時のねらい 条件付き確率を身近な問題の解決に活用する
- 3 本時の授業展開 4人程度のグループを作り、授業を始める。

解決したい課題や問い	袋の中に10本中3本当たりのあるくじがある。この袋からくじを1本引くとき、当たる確率を高くすることはできないか。
【活動1】	袋を2つ準備して5本ずつ小分けして入れるときの当たる確率を調べる
【活動2】	2つの袋に小分けするときのくじの本数をいろいろ変えて、当たる確率をできるだけ高くできないか調べる。
【活動3】	小分けする袋の数を増やして、当たる確率をさらに高くできないか調べる。

4 本時の評価方法

観点 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
A	様々な活動において、 <u>主導的</u> 態度が見られた。	元の問題を変更、発展させた新たな問題に取り組み、課題解決に努めた。さらに、 <u>自ら新たな問題を設定し、取り組んだ。</u>	/	/
B	様々な活動に参加する態度が見られた。	元の問題を変更、発展させた新たな問題に取り組み、課題解決に努めた。		
C	様々な活動に全く参加しなかった。	元の問題を変更、発展させた新たな問題を途中で投げ出し、課題解決に努めなかった。		

5 授業設計の振り返り

ねらい	与えられた問題を解くだけでなく、それを発展させ、自分たちで条件を設定し、課題を解決していく活動であったため、生徒たちは、終始意欲的に取り組んでいた。
解決したい課題や問い	問題の内容を全体で確認した後、【活動1】に取り組んだが、その段階で【活動2】や【活動3】の内容をグループで考え始め、課題解決に努めていたので、各グループへの助言を主にして、授業を進めた。また、確率が最大となる場合を導き出した（本時の活動内容が終了した）グループには、確率が最小となる場合について考えさせた。
活動	机をグループの形にして行ったため、個人で求めた確率や考えを友達同士で共有する姿があちこちで見られた。
学習の成果	最初は、確率の求め方がよく分からず、誤答が見られたが、周囲の生徒とのやりとりを通して、確率の求め方を理解し、正答が得られるようになった。

理科	授業者	高島 正仁	日時	6月14日 第1限	学習集団	24HR
----	-----	-------	----	-----------	------	------

- 単元名 化学「溶解と濃度」
- 本時のねらい 溶液の質量、体積、密度に関連した課題をグループワーク、実験により解決する。
- 本時の授業展開

解決したい課題や問い	色々な液体の体積、質量、密度を求める。また、2種類の液体を混合した時に体積、質量、密度がどのようになるか探究する。
【活動1】	グループ内での役割を決めさせる。メスシリンダー、自動天秤、洗びん、駒込ピペットを用いて、水と指定された溶媒の体積、質量、密度の求め方をグループワークによりシュミレーションさせる。→記録用紙に記入させる。
【活動2】	考えた方法で実験をさせ、密度を計算させる。 黒板に方法と結果を書かせる。他の班の板書を見て疑問に思えるところを探す。
【活動3】	①水と指定された溶媒を混合すると均一溶液になるのか。 ②混合した溶液の体積、質量は加算したものになるのか。 グループワークで予想させ、記録用紙に記入させる。
【活動4】	実験をさせ、確認させる。黒板に結果と結論を書かせる。
【活動5】	グループで振り返りとまとめをさせ、記録用紙に記入させる。体積、質量、密度を変える条件はあるのかを考えさせ、記録用紙に記入させる

4 本時の評価方法

観点 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
A	様々な活動において、主導的態度が見られた。	自身の考えを的確に表現でき、他者の考えに意見できる。	実験器具を的確に扱い、正確に記録できる。	データを基に計算でき、現象を的確に説明できる
B	様々な活動に参加する態度が見られた。	自身の考えを的確に表現できる。	実験器具を扱え、データを記録した。	データを基に計算でき、現象は説明されれば分かる。
C	様々な活動に全く参加しなかった。	自身の考えをもてず、他者の意見も聞くことができない。	実験に参加せず、記録もしない。	計算方法が分からず、現象も説明されなくても分からない。

5 授業設計の振り返り

ねらい	個人実験ではなく、グループワークで実施することにより話し合いの場における考えの表現、確認のための実験などができたことで、本時のねらいは達成できた。
解決したい課題や問い	実験では、全体の活動を見ているので、評価の観点から個人を評価することができないことが分かった。
活動	内容が易しかったので、どの生徒もよく活動していた。
学習の成果	各班毎にレポートを提出させたが、クラス全体では学習の成果は概ね良好であった。個人の様子はこの方法では分かりにくい。

理科	授業者	鈴木 剛志	日時	2月21日 第5限	学習集団	17HR
----	-----	-------	----	-----------	------	------

- 1 単元名 「生態系のバランスと保全」 地球の温暖化
- 2 本時のねらい 地球温暖化に起因する現象についてさまざまなデータを用いて検証する。
- 3 本時の授業展開 4～5人程度のグループを形成しそれぞれのグループで活動する。

解決したい課題や問い	地球温暖化によって台風の発生数が増え被害が増加するといわれるが本当なのか。海水面が上昇して海拔の低い土地が沈没してしまうといわれるが、本当なのか。
【活動1】	気象庁のサイトにアクセスして台風の発生数、上陸時の気圧、最大風速などを変化や過去の記録を調べる。
【活動2】	PSMSLのサイトにアクセスして、ツバルなどの太平洋の島国の海面潮位の変化を調べる。
【活動3】	得られたデータをグループ内で共有し、どのようなことが考えられるか話し合う。

4 本時の評価方法

観点 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
A	上記活動において主導的態度が見られた。	得られたデータから地球温暖化対策が無意味であると判断でき、それをグループ内で適切に発表できる。	パソコンから各種サイトへスムーズにアクセスすることができ、グループ内での検討に必要な資料を選ぶことができる。	台風の状況や海面潮位には変化がないことを理解し、一般に言われているような危険性はないことがわかる。
B	上記活動に積極的に参加する様子が見られた。	得られたデータから地球温暖化対策が無意味であると判断でき、自分なりの方法で表現できる。	パソコンから各種サイトへアクセスできる。	台風の状況や海面潮位には変化がないことを理解する。
C	AB に該当する様子が見られなかった。	AB に該当しない。	AB に該当しない。	AB に該当しない。

5 授業設計の振り返り

ねらい	パソコンなどを利用して外部のデータを取り込み、それをもとにさまざまなことを考え地球温暖化に対する適切な考え方を持たせる。
解決したい課題や問い	一般的によく言われていたり、教科書に書かれていたりする課題を選んでいるので、生徒が取り組みやすいものになっていると思われる。
活動	パソコンの操作、データの選択、グループ内での検討などそれぞれの場面で活動することになり、いわゆるアクティブラーニングの実践になると思われる。
学習の成果	データを正しく解釈できれば、十分な成果が得られると思われる。

英語科	授業者	稲葉亜矢子	日時	11月8日 第4限	学習集団	22HR
-----	-----	-------	----	-----------	------	------

1 単元名 PROMINENCE Communication English II

「Lesson5 Wonders Will Never Cease: Can the Loggerhead Survive?」

2 本時のねらい

(Part5のまとめの活動)

本文に出てきている例を読んだ上で、アカウミガメの置かれている環境を改善するための解決策をまとめ、伝えることができる。

3 本時の授業展開

解決したい課題や問い	「絶滅危惧種リストから除かれるため、日本ができる、つまり、私たちができる重要な役割とは何だろうか。」
【活動1】	グループになり、お互いの意見を共有する。(対話、思考)
【活動2】	グループメンバーの意見について、互いに質疑応答をする(対話、思考)
【活動3】	質疑で述べた意見を振り返りながら、改めて考えたことを書く(思考の深まり)

4 本時の評価方法

観点 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能(知識も含む)	知識・理解
A	相手の意見を尊重し、より良いアイデアを生むような質問ができる。	理由をきちんと説明したうえで、大きな枠組みの意見を書いたり、発表したりすることができる。	必要な語彙や文法を適切に用いて相手にわかりやすく表現できる。	
B	相手の意見を受け入れることができる。	自分の意見を、理由をつけて書いたり、発表したりすることができる。	必要な語彙を用いて伝えようとする。	
C	相手の意見を否定するような発言をする。	自分の意見を書いたり、発表したりすることができない。	必要な語彙が足りず書いても話しても表現できない。	

5 授業設計の振り返り

ねらい	授業開始直後の学習課題に対する考え	授業終了時の学習課題に対する考え
	<p>Aさん</p> <p>To show the situation about the loggerheads to people, and appeal to them to keep the ocean clean in order to help the loggerheads to be able to get a lot of habitats.</p> <p>誰が行うかは明確ではないが、現状を知らせる方法が必要だと考える。</p>	<p>Even though I listened to my friends' idea, I don't change my idea because it is realistic and effective. But I should think more about the situation so that many people cooperate with it.</p> <p>友達の意見を聞いた上で、自分の意見がより効果があるという思いを強くし、さらに自分の意見をサポートするための方法を付け足した。</p>
	<p>Bさん</p> <p>I think the Japanese government should make a new law regulating of tourist resorts.</p> <p>政府が観光リゾートを制限するための法律を作るべきだと考える。(誰かがやる)</p>	<p>I think the Japanese government should make a new law regulating development of tourist resorts and promoting of volunteer activities to save them.</p> <p>政府が法律を作るという意見は変えないが、ボランティア活動を推進するという意見を加えた。</p> <p>(→自分事にはなっていない)</p>
	<p>Cさん</p> <p>We should pick up bottles on the beach or in the water when we find them. And we should careful about not throwing garbage away.</p> <p>私たちがごみを見つけたら拾い、ごみを捨てないようにする。(個人レベル)</p>	<p>I think people should pick up the garbage for loggerheads. My group members said it is good to do volunteer work. So, I think we should join the volunteer work to clean the beach.</p> <p>個人的に拾う意見は残しつつ、友達が言ったボランティア活動を取り入れ、大勢を巻き込むアイデアを付け加えた。(個人→社会)</p>
	<p>Dさん</p> <p>We should keep places which all animals live in clean. Not to dump garbage into a river, the sea, or a forest.</p> <p>きれいにする箇所を海に限らず、自然環境を守るべき。(地球規模)</p>	<p>I said that we kept the nature clean, but I think not to enter the beach is good.</p> <p>友達の意見に動かされ、「海岸に入らない」というだけの意見にまつまってしまった。(地球→海)</p>
狙った成果をほぼ全員の生徒が達成しているが、大きく分けて4つの意見の表れとなった。		
解決したい課題や問い	問いが what kind of role should <u>Japan/Japanese people</u> play だったため、だれがその活動を行うかについて、生徒によりまちまちになってしまった。 <u>we young people</u> としておけば、自分の立場での答えが多くなったはずだ。	
活動	まずは自分で考え、相手の意見を聞き、その意見について質問をし、もう一度自分の意見をまとめる、というステップを踏んだため、対話を通して考える時間が確保された。しかし、Q-A の時間は相手の意見を本当に聞いてみたいと思って例に示した質問をするのではなく、質問しなければいけないから、という指示されたことのみをやるような形になってしまったグループもあった。	
学習の成果	自分の意見を述べるという課題は全員クリアしている。しかし、今回の問いであるアカウミガメのことをきっかけに、もっと大きな枠で問題を考えてみるというところまでは指導が及ばなかった。「政府が」、と社会の枠で考える生徒もいれば、「私が」という個人の考えもあり、グループで意見を聞くことにより比較しながら考える点はよかったと思うが、その先へもう一歩進める工夫が必要だ。	

4 国内外の大学・企業・国際機関等との連携

(1) 教員支援

機関・団体名	日程	職名・氏名	内容
静岡大学	10/23	准教授 河崎 美保	論理的思考力テストの評価
ベネッセコーポレーション	11/14 2/23	初等中等教育事業本部 加納 学	授業・学習支援クラウドサービス利用研修

(2) 1年生課題研究支援

機関・団体名	職名等	日程	内容
慶應義塾大学 環境情報学部生 1人 静岡大学 教育学部生 3人 静岡県立大学 国際関係学部生 1人 東京外国語大学 言語文化学部生 1人 明治大学 文学部生 1人 明治大学 情報コミュニケーション学部生 1人		5/22 6/7 11/29 1/31	グループのテーマ決めとテーマの再考 " 英語版ポスター・発表原稿作成 英語ポスターセッションクラス代表決め
東京大学	生産技術研究所沖大幹教授	8/3	世界の水問題に関する講義（希望者80人対象）
公益財団法人 河川財団	プロジェクトWETジ ャパン事務局職員 1人	4/14	水問題に関する講義
		4/19	課題研究のテーマ発見補助①
		4/26	課題研究のテーマ発見補助②
NPO法人グラウン ドワーク三島	理事長	4/14	水問題に関する講義（三島の水と市民活動）
		6/28	チームの課題設定への助言、研究資料の紹介
		8月	生徒フィールドワーク支援
		9/20	課題研究補助（課題の主旨と内容の整合性確認）
沼津河川国道事務 所	調査課 2人 （水防調整係）	4/27	水問題に関する講義（豪雨対策）
		6/22	チームの課題設定への助言、研究資料の紹介
		8/24	生徒フィールドワーク支援
		9/28	課題研究補助（課題の主旨と内容の整合性確認）
八千代エンジニア リング	環境グループ社員 7人	4/11	水問題に関する講義（富士山の地下水）
		6/28	チームの課題設定への助言、研究資料の紹介
		9/28	課題研究補助（課題の主旨と内容の整合性確認）
雨水活用市民の会	代表	3/13	次年度GW I 課題研究テーマ発見補助
JICA	専門員	3/13	次年度GW I 課題研究テーマ発見補助
NPO法人ウォータ ーエイドジャパン	事務局長	4/19	課題研究のテーマ発見補助
		3/13	次年度GW I 課題研究テーマ発見補助
アクアスフィア	代表	随時	授業支援
Buddy Cafe		2月	課題研究支援

(3) 2年生課題研究支援

機関・団体名	職名等	日程	内容
東京外国語大学	留学生1人	10/28・11/4	英語版ポスター作成補助
		1/12	英語版ポスターセッション練習補助
静岡大学	留学生2人	1/12・1/18	英語版ポスターセッション練習補助
栗田工業株式会社	新事業推進部1人	6/23	研究計画策定支援（課題設定補助、支援等）
		9/22	ポスター作成支援（発表内容の整理等）
東レ株式会社	環境保安部1人	6/23	研究計画策定支援（課題設定補助、支援等）
		9/21・9/22	ポスター作成支援（発表内容の整理等）
JICA	専門員	6/22・6/23	研究計画策定支援（課題設定補助、支援等）
		9/21・9/22	ポスター作成支援（発表内容の整理等）
アクアスフィア	代表	6/22・6/23	研究計画策定支援（課題設定補助、支援等）
		9/21・9/22	ポスター作成支援（発表内容の整理等）
NPO法人ウォーターエイドジャパン	事務局長	6/22・6/23	研究計画策定支援（課題設定補助、支援等）
		9/21・9/22	ポスター作成支援（発表内容の整理等）

(4) 海外研修での連携

ア ベトナム研修（平成29年8月20日～24日）

機関・団体名	職名等	内容
水資源大学	ドン教授	ベトナムの水問題に関する講義
在ベトナム日本国大使館	二等書記官 他	現地高校との連絡調整、大使館表敬訪問
JICA	現地コーディネーター	JICA訪問連絡調整、事業説明
	チーフアドバイザー	ハノイ市街水問題の講義、フィールドワーク

イ シンガポール研修（平成29年10月8日～13日）

機関・団体名	職名等	内容
シンガポール大学	学生	シンガポールの水問題に関する意見交換
静岡県東南アジア事務所	所長	研修旅行全般、現地高校との連絡調整

5 海外研修

(1) シンガポール修学旅行

ア 仮説 シンガポール修学旅行の事前研修と、現地での水関連の施設訪問や水問題についての聴講、現地高校生や大学生との交流、フィールドワーク等をとおして、GWIの学習意欲を高めるとともに、社会問題への興味関心・国際的視野からの課題解決能力を高めることができる。

イ 日程 平成29年10月8日(日)～10月12日(木) (第1団)
平成29年10月9日(月)～10月13日(金) (第2団)

ウ 渡航先 シンガポール

エ 参加者 2年生288人 引率教員16人

オ 事前研修

(ア) 1学期末～夏休み

- ・B&Sプログラム(シンガポールの大学生との交流)で用いる質問事項の準備
GWIで研究しているテーマに関する英語での質問事項の準備。
- ・シンガポールに関するポスター作成
班でテーマを決定(歴史、法律、宗教、風習、食事等)。個人でレポートを作成。

(イ) 夏休み～2学期

- ・個人レポートの内容を班、クラスで共有。班でポスターを作成し掲示。

カ SGH関連研修

(ア) ニューウォーター・ビジター・センター(NEWater Visitor Centre)訪問

日程 10月10日(火) 午前・午後

参加者 午前137人・午後52人

内容 英語ガイドの案内で見学。シンガポールの浄水過程や水の使用方法、NEWaterという下水を真水化する

シ

システムについて学習。



(イ) リバーバレーハイスクール(River Valley High School)訪問

日程 10月10日(火) 午前

参加者 海外研修生徒14人

内容 本校生徒が3チームに分かれ、英語で水問題に関するプレゼンテーションを実施。リバーバレーハイスクールからも2チームが環境問題に関するプレゼンテーションを

実施。その後、相手校生徒とペアになり、英語による説明をしながら施設見学・意見交換をし、交流。教員間でも探究学習の指導体制等についての意見交換を実施。

(ウ) ジュロンウェストセカンダリースクール(Jurong West Secondary School)訪問

日程 10月10日(火) 午後

参加者 昨年度本校SGH事業報告会参加生徒37人

内容 本校生徒からは、昨年度事業報告会で発表した課題研究について、英語でプレゼンテーションを実施。相手校からも2チームが環境問題に関するプレゼンテーションを

施。その後、相手校生徒とペアになり、英語による説明をしながら施設見学・意見交換をし、交流。教員間でも探究学習の指導体制等について意見交換。

(エ) ニーアンポリテクニック (Ngee Ann Polytechnic) 訪問

日程 10月10日(火) 午前
 参加者 文系特別進学クラス・理系特別進学クラス 48人
 内容 本校生徒が8チームに分かれ、英語で日本文化に関するプレゼンテーションを実施。相手校からもシンガポールの文化に関するプレゼンテーションを実施。その後、相手校生徒とペアになり、英語による説明をしながら施設見学・意見交換をし、交流。



(オ) B&Sプログラム

日程 10月10日(火) 午前・午後
 参加者 2年生 288人
 内容 シンガポールの大学生と本校生徒が少人数のグループに分かれて、英語で交流及び市内見学。事前準備として、GWIでの研究テーマに関する質問を用意し、当日大学生から意見を聞き、帰国後の研究につなげた。

キ 評価

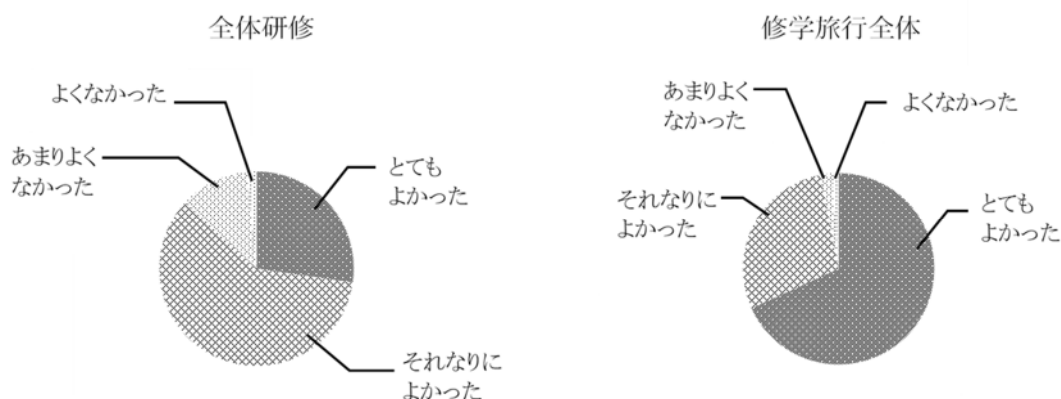
生徒のアンケートによれば、全体研修に対する満足度は約87%であった。現地の人との話とおして実情を知ることができたといった意見がみられたが、一方では、事前研修が十分に生かせず、水問題に関することもあまり聞けなかったという意見もみられた。また、シンガポール修学旅行全体に対する満足度は約97%であった。ただ、昨年度に引き続き、安全性への配慮から、マレーシア訪問を取りやめ、シンガポール側からみた国境の見学にとどまった。GWIと修学旅行をより関連させるためには、研修や行程等のさらなる工夫が必要である。

<参考>・全体研修に対するアンケート結果

1	とてもよかった	27%
2	それなりによかった	60%
3	あまりよくなかった	12%
4	よくなかった	1%

・修学旅行全体に対するアンケート結果

1	とてもよかった	68%
2	それなりによかった	29%
3	あまりよくなかった	2%
4	よくなかった	1%



(2) ベトナム海外研修

ア 仮説 ベトナムの水問題についての事前・事後研修や、現地の高校生とのプレゼンテーション・意見交換、フィールドワーク等を通じて、LWI・GWIの学習意欲を高めると同時に、社会課題への興味関心・国際的視野からの課題解決能力を向上させることができる。

イ 日程 平成29年8月20日(日)～21日(月)

ウ 渡航先 ベトナム ハノイ

エ 参加者 2年生2人 1年生11人 引率教員2人

オ 事前研修 前年度参加の2年生をファシリテータとしてSDGsに関わるベトナムの事情を学習すると共に、現地でプレゼンをするためのチーム作り、課題探究を行った。

カ 研修

(ア) Chu Van Ann 高校訪問

日程 8月21日(月) 午前

内容 ベトナム国内に3つある国立高校の1つ。国内有数の進学校で、海外進学者も多い。外国語教育も盛んで、英語や数学の特別クラスはかなりレベルが高く、ベトナムでは珍しく、外国語として日本語選択がある。今年度は教頭先生の計らいもあり、日本語選択者と交流を持つ時間もとっていただけた。英語の授業において、本校の生徒が4チームに分かれ、事前研修で行ってきた水に関するプレゼンを実施。Chu Van Ann 高校生も水に関するプレゼンを行い、互いに質疑応答を英語で実施し、その後短い時間であったが、交流を深めることができた。

(イ) 在ベトナム日本国大使館訪問

日程 8月21日(月) 午後

内容 中馬書記官から、ベトナムの諸事情や大使館での仕事等について説明をしていただき、質疑応答にも丁寧に対応していただいた。

(ウ) 水資源大学 (University of Water Resource) 訪問

日程 8月22日(火) 午前

内容 水利科学分野に関する全ての専門領域(水工学、灌漑工学、水文学、防災科学等)を学部から博士教育にわたる教育課程で網羅し、卒業生の大半は政府及び地方行政の技師や行政官として活躍。日本の大学とも教育研究提携をしている。日本に留学経験もあるドン先生による講義の聴講。今年度は事前に生徒のプレゼン内容をお知らせし、それぞれの課題に関してベトナムの現状や歴史に触れながら説明をしていただいた。また、学生との交流もかない、講義を学生たちと一緒に受けることができ、大学生からの貴重な意見をもらうこともできた。昨年できたばかりというラボにも立ち寄らせていただき、特別実験もしていただいた。



(エ) フィールドワーク①

日 程 8月22日(火) 午後

内 容 ロンビエン橋のたもとに暮らす水上生活者の村訪問

今年度は「水」の研究の1つの研修として、水上生活者の村を訪問するというプログラムを取り入れた。戦争の名残であるロンビエン橋を半分ほど渡り、暑さ厳しい中、中洲にある村の道とはいえないような道を通り、水上生活者の家を訪問した。最貧困層となる現状を見ることで、写真や映像、伝え聞くことからわからない現実を目の当たりに、生徒たちにとって大変印象に残る活動となった。



(オ) JICA 訪問及び市内フィールドワーク②

日 程 8月23日(水) 午前

内 容 JICA ベトナム事務所を訪問し、安達専門員よりハノイ市内の上下水道の移り変わりや水質や環境に関するお話をいただき、質疑応答にも丁寧に対応していただいた。その後、市内の西湖やトゥーリック川の水質調査に同行いただき、いかに汚れているかを実際に数値で見せていただいた。市内の商店のある路地や下水路に蓋をしただけの道路を歩き、生活の様子も理解できた。



キ 事前・事後研修

(ア) 時 間 毎週水曜日 午後4時30分～

(イ) 指導者 橋本淳司氏、SGH 推進室担当教員、海外交流アドバイザー

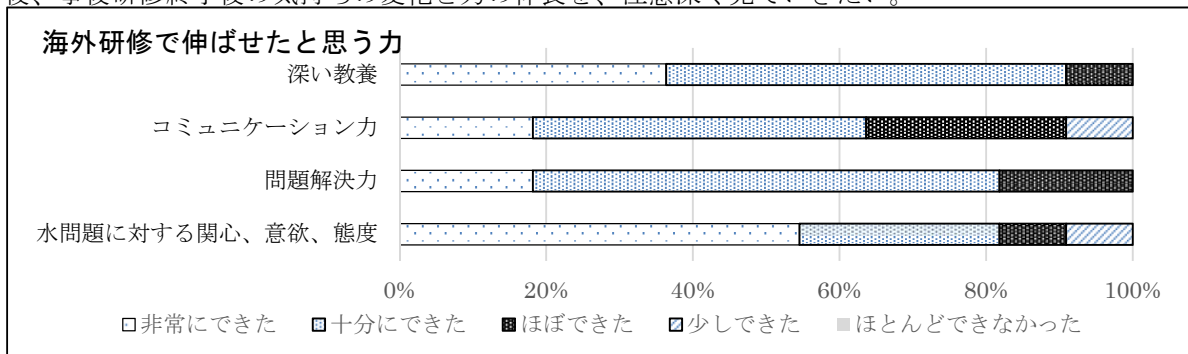
(ウ) 対象者 ベトナム海外研修参加生徒13人、シンガポールプレゼン代表生徒14人

※シンガポールプレゼン代表にはベトナム研修参加生徒2年生2人が含まれる

(エ) 内 容 オリエンテーションを研修のスタートと位置づけ、前年度参加者からと情報共有をし、その後、ベトナムの研究課題を見つける段階で2年生の生徒をファシリテータとして授業を行うことで、生徒のファシリテーション力の向上も狙いつつ、2年が1年に受け渡していくという授業のスタイルを構築したかった。現地研修の前にプレゼンを完成させ、その後、修正を重ねてポスターを作成し、各ポスター発表の場を経験していく。

ク 評 価

ベトナム海外研修の自己評価は非常に高く、意欲的に取り組んだことが見て取れる。自由記述では「実際に現地に行くことで意見の違いや生活を生で感じる事ができた」「自分がいかに恵まれているか感じた」「プレゼンをしたり、質問をしたり、多くの知識を得た」「積極的な姿勢を高める事ができた」など肯定的な意見が多い。また、「研修に行き終わりではなく、その後の活動の充実が魅力的だ」「仲間と協力すること、よいチームワークを築くことの大切さを改めて感じ今後活かしたい」「環境全体を大切にしたい」という記述もあり、生徒たちの社会課題への興味関心の表れである。今後、事後研修終了後の気持ちの変化と力の伸長を、注意深く見ていきたい。



6 教育課程外の取組

(1) 異文化理解講座

ア 目的・概要

SGH事業の一環として、日本滞在中の留学生などの外国人や海外で活躍している日本人の専門家などが出身国・滞在国の水問題等をテーマに講演を行い、生徒の異文化理解の一助とすることを目的とする。講座は、ワークショップのかたちをとることにより、生徒の好奇心を積極的な発言と行動に発展させる双方向的な「場」の形成を期待した。今年度は、3回開催した。

イ 内容

(ア) 第1回「ベトナム」

日時 平成29年7月20日（木）15:00～16:00

講師 チャン・ティ・バオ・ニユン（Ms. Tran Thi Bao Nhung）

所属 静岡県立大学大学院 国際関係学研究所（修士課程）

テーマ 都市部と農村部の水問題、JICAによる水道整備支援

(イ) 第2回「シエラレオネ」

日時 平成29年12月8日（金）15:00～16:00

講師 カロン・エマヌエル・ヴィンセント・ネルソン（Mr. Kallon Emmanuel Vincent Nelson）

所属 東京外国語大学大学院 総合国際学研究所

Peace and Conflict Studiesコース（博士課程）

テーマ：地理・文化・食生活、日本で平和構築について研究する理由

(ウ) 第3回「ウガンダ」

日時 平成30年3月16日（金）（予定）

講師 山崎暢子

所属 京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究所（博士課程）

テーマ 海外フィールドワークにおけるセキュリティと健康管理

ウ 評価

本講座は国際交流部が主催している。参加生徒は同部員とともに、SGH海外研修の受講生、「トビタテ！留学JAPAN」などによる海外留学希望者が多数を占める。そのため、講師の使用言語が英語であっても、積極的に質問することによって、相手の話を理解しようとする姿勢がみられた。

(2) エンパワーメントプログラム

ア 主催 株式会社 ISA

イ 日程 平成29年8月7日（月）から8月11日（金）

ウ 参加者 52人（三島北高校、韮山高校、沼津東高校）

エ グループリーダー ハーバード大学2名、ブラウン大学1名、イエール大学1名

カリフォルニア大学バークレー校1名、クラモント・マッケナ大学1名

スミスカレッジ2名、マウント・ホリヨーク大学1名、東京大学3名

オ ファシリテータ Mr. Simon Butler

カ 主旨 グローバル時代を生きる上で必要な人間力を鍛える。具体的には「自分の考えや意見をしっかりと持つ」「自分に自信を持つ」「ポジティブシンキングへのマインドシフト」「多様性を

知る」「多様な文化の人々とのコラボレーション力」「自分の人生を自分で選択し、その決断に責任を持つ」「コミュニケーション力」「問題解決に向け行動を起こせる」といった力を身に付けることを目標とする

キ 主な内容 1日目 開校式 自己紹介 グループ討議

2日目～4日目 グループ討議 プロジェクト(各テーマについて)

5日目 参加生徒によるプレゼンテーション 閉会式

ク 評価 事後に行ったアンケート結果では「非常に満足」と回答した生徒が87%、その他の生徒は「満足」と回答しており、充実感のあるプログラムであった。主旨の目標にもあるように、参加生徒のほぼ全員が役に立ったレッスンの内容として「英語でのコミュニケーション活動」「英語でのプレゼンテーション」を挙げており、満足感を高めている。さらに、自分をポジティブシンカーだと思うか、という項目に関しては、事前アンケートでは35%だったものが、事後には83%の生徒が「そう思う」と回答しており、自分は価値ある存在であると感じる生徒の割合(94%)とあわせ、自己肯定感の高まった傾向である。

(3) ワールドランチ（学校食堂との連携）

国際交流部の生徒が世界各国のメニューを、後援会が運営する学校食堂（業務担当(株)東日クッキング）に提案し、12月から月2回の頻度で昼食時に提供。隣接する県立三島長陵高校（昼間定時制）の食堂でも同じメニューが提供され、この食堂を利用する近隣企業の職員からも好評を博した。併せて食堂利用者向けに、その料理のふるさと由来を説明する新聞も発行した。

12月	12日	メキシカンシチュー (メキシコ)	15日	メキシカンタコライス (メキシコ)
1月	15日	チキンシュニッツェル (オーストラリア)	22日	バーニャカウダ (南アフリカ)
2月	15日	チキンライス (シンガポール)	21日	ジンジャービーフ (カナダ)

(4) 英語ディベート大会参加

ア 目的・概要

コミュニケーション能力、課題設定能力、発信力などを涵養することを目的とし、国際交流部に所属する1、2年生28人が、海外交流アドバイザーと顧問の指導の下、英語ディベートに取り組んだ。平成29年度の全国高校生英語ディベート連盟 (HENDA) による論題は、“Resolved: That Japan should significantly relax its immigration policies.” (日本は移民政策を大幅に緩和すべきである。是か非か) であり、生徒は英語でのディベートの技術を身に付けるとともに、日本に滞在する移民が2067年までに50年間で1000万人を越える政策が取られた場合に生じるメリットとデメリットについて議論した。今年度は移民がテーマということもあり、ブラジルサンパウロに本社がある「ニッケイ新聞」による取材も入り、紙媒体及びネットによる記事が4回に渡り配信されるなど、分断が進む国際社会の中で注目を集めた論題であったと言える。

イ 活動内容

HENDAによるアカデミック・ディベートでは、自分の主張を述べるだけでなく、根拠となるエビデンスに基づき、強固な立論を作成することから始まる。さらに、相手の主張を批判的に理解し、反論する必要がある。生徒は、書籍、新聞、インターネットなどを使って情報を収集した上で、信頼性、客観性のあるものを活用して立論を作成し、練習試合や部内の紅白戦を通じて実戦体験を重

ねた。通常の活動時には、ウォーミングアップとしてごく身近な話題による即興ペアディベートを行い、「Assertion / Reason / Example (Evidence) / Assertion」すなわちAREAを意識して論理的に相手に伝えるという、ディベートの基礎的な技術の向上に努めた。

【国際交流部の英語ディベート活動】

4月	「外国人と結婚したいかどうか」をテーマに簡単な日本語によるディベートを新入部員が体験し、論拠に基づいて議論することの楽しさを味わった。
5月	HEnDAによる今年度の論題定義解説を詳細に読み込むと共に、2年生には課題図書、1年生には関連するネット記事を読んでもくる課題を与えた。
7月	4チームに分かれて、立論（肯定・否定の両方）を準備した。
8月	静岡県英語教育研究会主催の英語ディベート学習会（会場：掛川）に参加し、参加者全員の前で浜松北高校と対戦するモデルディベート試合を実施した。
10月	本校国際交流部主催で、東部地区を中心とした6校による練習試合大会を初開催した。 静岡県大会（会場：掛川）には2チームが参加した。9校16チーム中、本校Aチームは1敗3引き分け、Bチームは3勝1敗。Bチームが2位となり、HEnDAの全国大会出場選考を経て全国大会出場決定
12月	第12回全国高校生英語ディベート大会in埼玉に静岡県代表として参加した。 第一試合 茨城代表竹園（肯定） 2－0 三島北（否定） 第二試合 三島北（肯定） 0－2 沖縄代表那覇国際（否定） 第三試合 岡山代表清心（肯定） 1－1 三島北（否定） 第四試合 三島北（肯定） 0－2 高知県代表土佐（否定） 第五試合 新潟県代表長岡（肯定） 0－2 三島北（否定） 以上予選5試合の結果、64校中55位（得票数、相手得票数、コミュニケーションポイント、ベストディベーター得票数による）。



ウ 評価

HEnDAのアカデミック・ディベートは、1年間通じて同じ論題によって全国で行われる。強固な立論作成のためには、入念なリサーチと論理的な構成が必要である。想定されるアタックを様々な可能性から考えることにより、異なる立場で多角的にものごとを捉える力が鍛えられた。また、チーム内でのスピーカーの役割を理解しないとジャッジを説得できないため、効果的な論理構成とはどういうものかについて、教員のアドバイスはもとより、生徒自らが考えて実践に移す場面も多く見られた。単に流暢な英語を話すだけでなく、論理的で分かりやすい内容のスピーチを作成するためにはどうしたらいいか、選手だけでなく国際交流部員全員が何度も意見を交換した。以上を

繰り返し振り返り、楽しみながら経験できる場としての英語ディベートを通して、コミュニケーション能力、課題設定能力、発信力のさらなる向上が期待できる。

(5) 海外進学・留学情報の提供と海外短期留学支援

ア 海外特別派遣事業

(ア) 一般社団法人 静岡県立三島北高等学校後援会

趣 旨：本校創立百周年記念事業として開始。より多くの生徒が異文化との共生・交流をとおりして国際感覚を磨くことができるように奨学金（一人あたり10万円・上限5人）を支給。

参加者：2年女子（アメリカ 26日間）

その他：参加者は帰国後、校内で図書課主催の「せせらぎ講座」で体験談を紹介した。

(イ) 静岡県 高校生の海外体験促進事業

趣 旨：高校生の国際化を推進し、グローバル化が進む県内産業界の求める国際的な役割を担う人材の育成を図るため、県民・民間企業等の寄付金により創設した、ふじのくにグローバル人材育成基金を活用して、高い意欲・関心を有し、将来国際的な役割を担えると認められる人材に対し、予算の範囲内において、補助金（上限30万円）を交付する。

参加者：2年女子（カナダ 14日間）

2年女子（ニュージーランド 12日間）

その他：参加者は帰国後、校内で図書課主催の「せせらぎ講座」で体験談を紹介した。

イ 「トビタテ！留学JAPAN」高校生コース応募支援

(ア) 第3期

以下の4人が合格し、7～8月に留学した。

コース	学年	性別	渡航先	期間
アカデミック(テイクオフ)	2年	女子	カナダ	20日間
	2年	女子	アメリカ	19日間
国際ボランティア	2年	女子	カンボジア	14日間
	2年	女子	フィリピン	21日間

(イ) 第4期

1年生全員に向けて広報し、応募を希望する生徒17人（女子16人、男子1人）に海外交流アドバイザーがカウンセリングを実施するとともに、留学計画書の作成に際して指導を行った。最終的に、第1次審査に16人が応募した。

(6) 留学生等の受入

ア ソニア・カリザレス（アメリカ国籍・女性、AFS派遣留学生）

平成29年3月来日、平成30年2月4日帰国 15HRに所属し、通常の授業を受けた。

女子バレー部、国際交流部、茶道部の活動にも参加し、日本語もかなり上達した。

イ シンガポール ジュロンウェストセカンダリースクール生徒来校

平成29年11月8日・9日

10月のシンガポール修学旅行で知り合った生徒も来日し、交歓会や茶道体験を行った。

校長も来校し、これからの連携について協議を行った。

7 校外への活動の広がり 他

(1) 三島・世界の水問題を考えるワークショップ

ア 日程 平成29年10月22日（日）午後1時～3時30分

※当日は衆議院選投票日と重なり、また台風のため予定していた内容を短縮して実施した。

イ 場所 三島北高校紫苑荘会議室

ウ 主催 NPO法人ウォーターエイドジャパン

エ 生徒参加者 ウォーターエイドジャパンのジュニアスピーカーの1、2年生の生徒20人

オ 出席者 一般市民24人

カ 内容

- ・三島北高校のSGHの取り組み紹介

授業や海外研修でのこれまでの取り組みについてスライドを用いて紹介した。

- ・日本・三島の水事情／世界の水事情

1年生のジュニアスピーカーが「ハッピーサークル」という教材を用いて参加者に体験型授業を実施した。災害時に水の使用が限られている場合にどのような配分で水を使用するかについて参加者に意見交換や、安全で安定した水の供給が得られないことによる負の連鎖が、水を得られることでどう変わるかというシミュレーションに関する考察を促した。参加者から活発な意見が上がるよう、工夫した運営が見られた。

- ・高校生によるオリジナル授業

2年生の3チームによるミニ授業を同時進行で実施した。グリーン・インフラをテーマに研究しているチームは、フラワーアレンジメントなどに使うオアシスをアルミ箔で包んだものと包んでいないものに水を注ぎ、水が浸み込む作用があるグリーン・インフラを体験する実験を行い参加者の興味を引いていた。バーチャル・ウォーター（仮想水）をテーマに研究しているチームは、貿易の中で仮想水を意識できるようなカードを用いた体験型ゲームを開発し、参加者に実際にゲームに参加してもらいながら現状の問題点をわかりやすく解説した。水処理の新たなシステムについて研究しているチームは、シンガポールにおける先進的な水処理の事例を紹介した。



(2) ラジオ出演

ア 日程 9月30日（土）、12月30日（土）午後零時から零時30分

イ 収録会場 コミュニティFMみしま・かなみ ボイス・キュースタジオ（三島市大社町）

ウ 出演者 9月30日はベトナム研修に参加した1年生2人、12月30日は同1年生2人

エ 内容

- ・清水町のNPO法人ウォーター・ビジョンによる毎週土曜日の番組である。
- ・8月にベトナム研修に参加した数名ずつが、第5土曜日の放送番組に定期的に出演する。
- ・番組はパーソナリティーの方とNPO法人ウォーター・ビジョンの理事長の進行のもと、ゲストである生徒と対話する形で進行する。
- ・ベトナム研修で実際に見てきた水事情や、学校交流の様子など、感じたことや考えたことを素直な言葉で語る事ができた。
- ・SGHの活動にどのような気持ちで参加しているか、またベトナム研修を経てどのように研究を進めているかなど、普段学校に足を運ぶ機会のないラジオ聴取者に広く伝わる表現を心がけることができた。
- ・平成30年も第5土曜日のある月に定期的なゲスト出演が決定している。



(3) 清水町「泉のまちカレッジ」でプレゼンテーション発表

- ア 日程 1月13日(土) 午後2時から3時30分
- イ 会場 清水町地域交流センター研修室
- ウ 主催 NPO法人ウォーター・ビジョン
- エ 生徒参加者 ベトナム研修参加生徒12人
- オ 出席者 清水町民を中心とした地域住民20人
- カ 内容

- ・SGHとしての三島北高校の紹介(1年生生徒)
生徒自身の取り組みの感想を交えながら紹介した。
- ・ベトナム研修旅行紹介(2年生生徒)
体験してきたベトナムの文化や交流先で学んだことなどを紹介した。
- ・3つのチームの研究発表(1年生生徒)
「ベトナムの発展に隠された影」Team May
「マイクロプラスチックによる海洋汚染」Health & Food
「守ろう環境! 減らそう生活排水!」4 girls
- ・出席した地域住民の皆さんからは、研究を深めるためのアドバイスや日々の生活に根付いたアクションの必要性についてのコメントなどをいただいた。環境問題や地域の課題に対して高い関心を持つ一般の大人からいただいた指摘は、これまでの研究を客観的に振り返る貴重な材料となった。



(4) 地元小学校での講座

ア 日程 平成29年10月13日（金）、16日（月）

イ 場所 三島市立山田小学校

ウ 参加生徒 2年生（カンボジア トンレサップ湖の課題に取り組むチーム4人）

エ 内容

- ・三島市立山田小学校6年生2クラス、4年生1クラスを対象とした水問題の授業を実施
- ・カンボジアにおける安全な水を確保できないことを要因として起こる問題に係り、その解決方法の1つとして、ゲームを通じて現地にある問題、また環境について考えてもらうという指導案
- ・授業を受けた児童、そして、その保護者に対してアンケートを実施し、授業が狙い通りだったかの分析も行い、ポスターに反映させた。



(5) S G Hフォーラム、甲子園等への参加

ア 第3回高校生国際ESDシンポジウム@東京及び第3回全国S G H校生徒成果発表会

主催 筑波大学附属坂戸高校

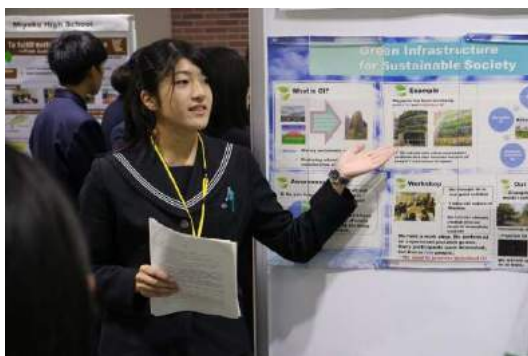
日程 平成29年11月9日（木）

参加校 全国のS G H校及びS G Hアソシエイト校の生徒及び教員、教育関係者

場所 筑波大学東京キャンパス

参加生徒 2年生 海外研修受講者のうち、GIに関する研究チーム5人

内容 海外の高校生の取り組む課題研究に関するプレゼンテーション、参加生徒によるポスターセッション、および、筑波大学附属坂戸高校生ファシリテーションによる分科会



イ 2017年度SGH全国高校生フォーラム

主催 文部科学省、筑波大学（SGH幹事校管理機関）

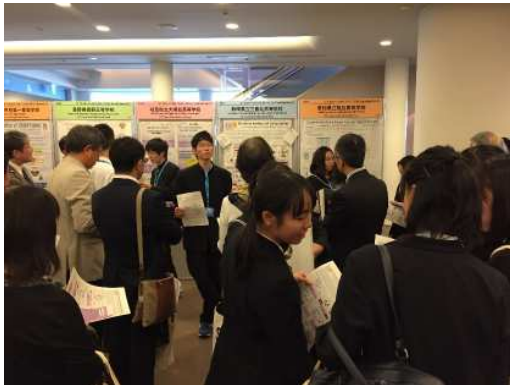
日程 平成29年11月25日（土）

参加校 SGH指定校全国123校 アソシエイト

場所 パシフィコ横浜

参加生徒 2年生 海外研修受講者のうち、wastewaterに関する研究チーム4人

内容 京都大学大学院創造生存学館河合江理子教授による基調講演、
生徒によるポスターセッション、代表生徒によるディスカッション



ウ 第2回関東甲信越静地区 SGH課題研究発表会

主催 立教大学

日程 平成29年12月23日（土）

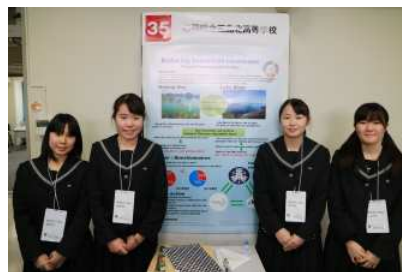
参加校 関東甲信越静地区SGH指定校19校他

プレゼンテーション44チーム ポスター発表48チーム

場所 立教大学 池袋キャンパス

参加生徒 海外研修受講生徒1・2年生 24人

内容 本校からは英語によるプレゼンテーション2チーム、ポスター発表4チームが参加。プレゼンテーションでは大学教授より内容に関する質疑応答があり、ポスター発表はセッションを行った。ポスター発表英語部門において、wastewater研究チームが金賞、生活排水研究チームが銀賞を受賞し、金賞のチームは「グローバルリンクシンガポール」への推薦枠を獲得した。



エ S G H甲子園

主催 関西学院大学・大阪大学・大阪教育大学

日程 平成30年3月24日(土)

参加校 研究成果プレゼンテーション25校 ポスタープレゼンテーション97校

ラウンドテーブル形ディスカッション14校 (複数ジャンルにわたる参加校あり)

場所 関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

参加生徒 2年生 海外研修受講生徒のうちGIの研究チーム 5人

(6) 墨田区水の循環講座 第6回「すみだと世界の水循環について考える授業を体験しよう」

ア 日程 平成30年3月11日(日)

イ 主催 墨田区、運営協力NPOウォーターエイドジャパン)

ウ 場所 東京都墨田区 すみだリバーサイドホール

エ 参加生徒 海外研修受講者1、2年生 virtual waterに関する研究チーム 5名 生活排水に関する研究チーム4名 GWIでカンボジアのトンレサップ湖の研究チーム4名

オ 内容 各チームが準備している水循環に関するオリジナル授業を行う。また、ウォーターエイドスピーカーとしての授業の講師も務める。

(7) S G H報告会

ア 日程 平成30年2月7日(水) 午前10時から午後2時40分

イ 場所 三島商工会議所

ウ 出席者 高校教育課、運営指導委員、県内外教育関係者、保護者等

エ 内容

- ・報告 平成29年度事業報告、平成29年度研究開発の成果報告
- ・講演「ビジネス現場で求められるグローバル人材像とは」
静岡銀行国際営業部国際営業統括グループグループ長 齋藤一史氏
- ・生徒課題研究ポスターセッション(英語)
1年生・2年生HR代表14チーム
ベトナム研修参加者3チーム、シンガポール研修参加者3チーム

オ 参加者アンケートの意見・感想(抜粋)

- ・生徒の発表がとても良かった。目の付け所が面白く、県内唯一のS G H校として頑張ってほしい。
- ・2年生のポスターは昨年度までと比べさらに精度が上がり、これまでの先輩の作品から改善していったと思う。成果を蓄積すること、継続することの大切さを感じた。
- ・質問に臆することなく一生懸命答えてくれた。目的意識の大切さを実感。科学的、論理的な展開になっており、自校での次年度課題研究の参考にしたい。
- ・全校体制でグローバル人材を育てるとはどのようなことなのか実践発表や生徒の発表から学べた。
- ・S G H事業の取組が着実に生徒の力を伸ばし学校全体のレベルを上げていると感じる。
- ・Think Globally, Act Locally が実践されている。
- ・校内生徒だけでなく、近隣の高校生も参加できるようにすると互いに刺激されて良いと思う。
- ・日本語から英訳というプロセスを省略したい。プレゼンの前の深める段階を英語で行わせたい。
- ・論理的思考をもっと進めて論理的思考を何に用いるか、どんな場面で発揮するかを考えたい。

1 平成29年度教育課程表

学校番号		12	学校名		静岡県立三島北高等学校			課程等	全日制		
平成29年度 教育課程表 (甲)											
教科	科目	単位数	種類	普通科					週当たり授業時数		
				学年	2年		3年				
				1年	普通	文系	理系	文系	理系	科目別	教科別
国語	国語総合	4	5 (7)							35	112
	現代文B	4		2 (4)	2 (3)	3 (4)	2 (3)			32	
	古典B	4		3 (4)	2 (3)					18	
	国語総合演習	3				(1)→2	3 (3)			11	
	古典演習	4				4 (4)				16	
地理歴史	世界史A	2	2 (7)							14	77
	世界史B	4		3 (4)		(2)→3				18	
	日本史B	4		3 (4)	(1)→3 ※	(3)→	(1)→3 ※			27	
	地理B	4			(3)→		(3)→			18	
公民	現代社会	2	2 (7)							14	34
	倫理	2				2 (4)				8	
	政治・経済	2				3 (4)				12	
数学	数学Ⅰ	3	3 (7)							21	130
	数学Ⅱ	4	1 (7)	4 (4)	4 (4)					39	
	数学Ⅲ	5			1 (4)		3 (4)			16	
	数学A	2	1 (7)							7	
	数学B	2		2 (4)	2 (4)					16	
	数学演習α	2					(3)→			6	
	数学演習β	3					(3)→3	(1)→4		13	
数学演習γ	4						(3)→		12		
理科	物理基礎	2	2 (7)							14	109
	物理	4			(2)→3 ※		(3)→4 ※			18	
	化学基礎	2		2 (4)	2 (3)					14	
	化学	4			2 (3)		4 (3)			18	
	生物基礎	2	2 (7)							14	
	生物	4			(2)→		(2)→			14	
	化学基礎演習α	2				2(3)→				6	
	化学基礎演習β	1				1(0)→	3			0	
	生物基礎演習α	2		2 (4)		1(3)→				8	
生物基礎演習β	1				(0)→				3		
生物演習	3								0		
保健体育	体育	7-8	3 (9)	2 (12)	2 (文系へ)	2 (10)	2 (文系へ)			71	92
	保健	2	1 (9)	1 (12)	1 (文系へ)					21	
	ライフスポーツ	3				(0)→				0	
芸術	音楽Ⅰ	2	(4)→2							8	24
	美術Ⅰ	2	(4)→							8	
	書道Ⅰ	2	(4)→							8	
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3 (7)							21	141
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		4 (4)	4 (3)					28	
	コミュニケーション英語Ⅲ	4				2 (4)	2 (3)			14	
	英語表現Ⅰ	2	2 (7)							14	
	英語表現Ⅱ	4		2 (4)	2 (3)	3 (5)	3 (4)			41	
	英語演習α	3				(2)→				6	
	英語演習β	3				(1)→				3	
英語演習γ	2				2 (4)	2 (3)			14		
家庭	家庭基礎	2	2 (7)							14	14
SGH	LWI	1	1 (7)							7	21
	GW	2		2 (4)	2 (3)					14	
教科合計				32	32	32	32	32		754	
羅針盤		3-6	1<	1<	1<	1>	1>			21	21
合計				33	33	33	33	33		775	
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	1	1	1		0	
備考				1年次数学は、10月まで数学Ⅰ、10月から12月までを数学A、その後数学Ⅱを履修する。 2年次文系数学は、11月まで数学Ⅱ、その後は数学Bを履修する。 2年次理系数学は、10月まで数学Ⅱ、10月から1月まで数学B、その後数学Ⅲを履修する。 2年次理系理科は、9月まで化学基礎、その後化学を履修する。 3年次理系数学は、7月まで数学Ⅲ、その後数学演習βまたは数学演習γを履修する。 3年次外国語は、9月までコミュニケーション英語Ⅲ、その後英語演習γを履修する。2年次SGHのGWは、社会と情報の代替科目として履修する。							

2 学校設定科目シラバス 平成29年度

LWI (Local Water Issues)

教科	SGH	単位数	1単位	学年	1年	集団	必修・全クラス
使用教科書	橋本淳司『通読できてよくわかる 水の科学』（ベレ出版）						
副教材等	沖 大幹『水の世界地図 第2版』（丸善）						

1 学習の目標

- 「富士山の恵みの水を守る・生かす」をテーマに、地域と水問題に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して「SGH課題研究」の目標に示された能力と態度を育てる。

2 科目の特色

SGH課題研究では、学習方法として課題基盤型学習（PBL）、反転学習、アクティブラーニングを活用する。

3 学習の計画

（次ページに掲載）

4 評価の観点・方法

評価は、次の4つの観点から行います。

社会課題に対する関心	地域的な水についての問題に関心をもち、主体的に問題の解決をしようとする意欲とともに、他者とコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。
問題解決力	水についての問題を自ら設定し、その解決策を創造的に探究する過程を通して論理的・批判的な思考力を活かしている。また、他者と協働して問題を解決している。
コミュニケーション能力	コミュニケーションの基礎的・基本的な技能を身に付け、考えを言語やデータを用いて論理的に伝えている。また、非言語的な要素を取り入れて共感的に表現し、聴いたことに対して質問などを適切にしている。
深い教養	教科横断的に、水に関する科学的な基礎知識を身に付け、自ら設定した水についての問題に関する国際的、社会的、文化的な背景を理解している。

評価は、具体的には次のものを対象とします。

- グループディスカッション、アクティビティ（観察）
 - 相互評価・自己評価（振り返りシート）
 - 地域と水問題（日本語レポート）
 - フィールドワーク（レポート・プレゼンテーション）
 - 地域と水（日本語レジュメ・日本語ポスター・日本語ポスターセッション）
 - 地域と水（英語ポスター・英語ポスターセッション）
- これらを総合的に判断して評価します。

5 特に強調しておきたい点

授業は主に話し合いなどの言語活動を中心に行われる。家庭学習として事前に授業に関する資料等を読んだり、調べたりして理解しておく必要がある場合がある。

H29 LWI年間授業予定表

Time	Date			特記	Phase	Theme	Skill	
1	1	4	14	金	初期指導	1課題発見の準備とチームビルディング	LWIの発見（上下水道）	①,②
	2					1課題発見の準備とチームビルディング	LWIの発見（富士山の地下水）	①,②
	3					1課題発見の準備とチームビルディング	LWIの発見（河川・豪雨対策）	①,②
	4					1課題発見の準備とチームビルディング	LWIの発見（水生生物・町興し）	①,②
	5	4	19	水	通常授業	1課題発見の準備とチームビルディング	LWIの発見（水循環）	①,②
	6	4	26	水	通常授業	1課題発見の準備とチームビルディング	LWIの発見（節水）	①,②
	7	5	10	水	水4～7限	1課題発見の準備とチームビルディング	LWIの発見（気候変動の影響?）	①,②
	8	5	17	水	体育祭予備日	1課題発見の準備とチームビルディング	LWIの発見（振り返りとグループ決め）	①,②
2	9	5	22	月	水曜授業	2課題設定とフィールドワーク	グループテーマ決めと発表	①,②,③
	10	6	7	水	通常授業	2課題設定とフィールドワーク	グループテーマの再考と発表	①,②,③
	11	6	14	水	通常授業	2課題設定とフィールドワーク	英語版プレゼン大会までの計画策定	①,②,③
	7	6	16	金	水1～3限	2課題設定とフィールドワーク	（英語版プレゼン大会までの計画策定2）	①,②,③
	12	6	21	水	通常授業	2課題設定とフィールドワーク	フィールドワークの作法	①,②,③
	13	6	28	水	通常授業	2課題設定とフィールドワーク	外部有識者による課題策定指導	①,②,③
	14	7	12	水	通常授業	2課題設定とフィールドワーク	フィールドワークの準備	①,②,③
3	15	7	19	水	通常授業	2課題設定とフィールドワーク	フィールドワークの準備	①,②,③
	16	9	6	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	フィールドワークのまとめと計画の修正	①,②,③,④
	17	9	13	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	日本語プレゼン・ポスター・レジュメ作成1	①,②,③,④
	18	9	20	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	日本語プレゼン・ポスター・レジュメ作成2	①,②,③,④
	19	9	27	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	日本語プレゼン・ポスター・レジュメ作成3	①,②,③,④
	20	10	4	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	日本語プレゼン・ポスター・レジュメ作成4	①,②,③,④
	21	10	18	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	日本語プレゼン練習	①,②,③,④
	★	10	23	月		3課題・解決方法のグループ発表	日本語プレゼン大会（クラス）	①,②,③,④
	22	10	25	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	プレゼン振り返り/ポスター作成5	①,②,③,④
	23	11	1	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	日本語ポスターセッション練習1	①,②,③,④
	24	11	7	火	水曜4～7限授業	3課題・解決方法のグループ発表	日本語ポスターセッション練習2	①,②,③,④
	24	11	8	水	水曜1～3限授業	3課題・解決方法のグループ発表	日本語ポスターセッション練習2	①,②,③,④
	★	11	13	月		3課題・解決方法のグループ発表	日本語ポスターセッションクラス代表決め	①,②,③,④
	25	11	15	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	セッション振り返り/英語ポスター・発表原稿作成1	①,②,③,④
	★	11	18	土	オープンスクール	3課題・解決方法のグループ発表	日本語ポスターセッション（クラス代表）	①,②,③,④
	26	11	22	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスター・発表原稿作成2	①,②,③,④
	27	11	29	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスター・発表原稿作成3	①,②,③,④
	28	12	13	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスター・発表原稿作成4	①,②,③,④
	29	12	20	木	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語プレゼン練習	①,②,③,④
	30	1	17	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語プレゼン練習	①,②,③,④
	★	1	22	月		3課題・解決方法のグループ発表	英語プレゼン大会（クラス）	①,②,③,④
	31	1	24	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスターセッション練習	①,②,③,④
	32	1	31	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスターセッションクラス代表決め	①,②,③,④
	4	-	2	5～9		総合	4課題・解決方法の個人発表	個人レポート
5	33	2	7	水	通常授業	5GWIへ向けて	GWIへ向けて	②,③
	-	2	7	水	事業報告会		英語ポスターセッション（クラス代表）	①,②,③,④
	34	2	14	水	通常授業	5GWIへ向けて	GWIへ向けて	①,②,③,④
	35	2	21	水	通常授業	5GWIへ向けて	GWI個人レポート	②,③
	-	3	13	火	特別授業	GW I プレフォーラム	GWI	①,②,③,④

※ Skills : ①Communication, ②Recognize an issue, ③Logical thinking, ④Presentation

教科	SGH	単位数	2単位	学年	2年	集団	必修・全クラス
使用教科書	沖 大幹『水の未来』（岩波新書）						
副教材等	パーフェクトガイド情報（実教出版）						

1 学習の目標

- ・世界の水問題に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して「SGH課題研究」の目標に示された能力と態度を育てる。
- ・情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させる。
- ・情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得させる
- ・情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる。

2 科目の特色

- ・SGH課題研究では、学習方法として課題基盤型学習（PBL）、反転学習、アクティブラーニングを活用する。
- ・文書作成・デザイン（ワードソフト）、統計分析（エクセルソフト）、プレゼンテーション（パワーポイントソフト）などのパソコン演習や情報通信ネットワークを活用した情報モラル・セキュリティと情報分析の演習などを行う。

3 学習の計画 （次ページに掲載）

4 評価の観点・方法

評価は、次の4つの観点から行います。

社会課題に対する関心	国際的な水についての問題に関心をもち、主体的に問題の解決をしようとする意欲とともに、他者とコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。
問題解決力	水についての問題を自ら設定し、その解決策を創造的に探究する過程を通して論理的・批判的な思考力を活かしている。また、他者と協働して問題を解決している。
コミュニケーション能力	英語・日本語によるコミュニケーションの技能を身に付け、考えを言語やデータを用いて論理的に伝えている。また、非言語的な要素を取り入れて共感的に表現し、聴いたことに対して質問などを適切にしている。
深い教養	教科横断的に、水に関する科学的な基礎知識を身に付け、自ら設定した水についての問題に関する国際的、社会的、文化的な背景を理解している。

評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・グループディスカッション、アクティビティ（観察）
 - ・相互評価・自己評価（振り返りシート）
 - ・世界の水問題（英語レポート）
 - ・フィールドワーク（レポート・プレゼンテーション）
 - ・世界の水（英語レジュメ・日本語レジュメ・英語ポスター・英語ポスターセッション）
- これらを総合的に判断して評価します。

5 特に強調しておきたい点

授業は主に話し合いなどの言語活動を中心に行われる。家庭学習として事前に授業に関する資料等を読んだり、調べたりして理解しておく必要がある場合がある。

H29 GWI年間授業予定表（金曜日）※

	Time	Date	特記	Phase	Theme	Skill
1	1	4/14	通常授業	1課題・解決方法の個人発表	GWIテーマ個人課題策定	①,②
	2		情報	PCの基本操作とWeb検索	ルールとマナー	
	3	4/21	通常授業	1課題・解決方法の個人発表	個人探究（英文レポート作成）	②,③
	4		情報	文書作成	Wordの操作・レポートの組み立て方	
	5	4/28	通常授業	1課題・解決方法の個人発表	個人探究（英文レポート作成）	②,③
	6		情報	文書作成	Wordの操作・レポートの組み立て方	
	7	4/19	通常授業	1課題・解決方法の個人発表	個人探究（英文レポート作成）	②,③
	8		情報	文書作成	Wordの操作・レポートの組み立て方	
2	9	5/26	通常授業	2課題策定とチームビルディング	チームテーマ決めと発表	①,②,③
	10		情報	文書作成	Wordの操作・レポートの組み立て方	
	11	5/29	金1～6限	2課題策定とチームビルディング	チームテーマの再考と発表	①,②,③
	12		金1～6限・情報	文書作成	Wordの操作・レポートの組み立て方	
	13	6/2	通常授業	2課題策定とチームビルディング	フィールドワークの作法	①,②,③
	14		情報	表作成	Excelの操作：関数・グラフ・データ並べ替え	
	15	6/9	通常授業	2課題策定とチームビルディング	チーム研究（ポスターセッションまで）の計画策定	①,②,③
	16		情報	表作成	Excelの操作：関数・グラフ・データ並べ替え	
	17	6/23	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	外部有識者による課題策定指導	①,②,③
	18		情報	プレゼンテーションの方法	PowerPointの操作	
	19	6/30	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	フィールドワークの準備	①,②,③
	20		情報	プレゼンテーションの方法	PowerPointの操作	
21	7/7	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	フィールドワークの準備	①,②,③	
22		情報	プレゼンテーションの方法	PowerPointの操作	①,②,③	
23	7/14	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	シンガポール研修課題設定	①,②,③	
24		通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	シンガポール研修課題設定	①,②,③	
-	8月			フィールドワーク：異文化理解講座、県・市町の国際交流協会主催の研修会への参加、実験・観察等		
25	8/8	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	フィールドワークまとめとクラス発表	①,②,③,④	
26		通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	日本語レジュメ作成・日本語プレゼン制作に向けて	①,②,③,④	
27	8/15	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	日本語レジュメ作成・日本語プレゼン制作	①,②,③,④	
28		情報	プレゼンテーションの方法	PowerPoint（画像や動画の活用）		
29	8/22	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	外部有識者によるレジュメ・プレゼン制作前指導	①,②,③,④	
30		通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	日本語レジュメ作成・日本語プレゼン制作	①,②,③,④	
31	8/29	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	日本語レジュメ作成・日本語プレゼン制作	①,②,③,④	
32		通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語レジュメ作成・英語プレゼン制作	①,②,③,④	
修学旅行10月8日（日）～13日（金）						
3	33	10/20	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ作成・英語プレゼン制作	①,②,③,④
	34		通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ作成・英語プレゼン制作	①,②,③,④
	35	10/27	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ作成・英語プレゼン制作	①,②,③,④
	36		通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ作成・英語プレゼン制作	①,②,③,④
	37	10/10	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語プレゼン練習	①,②,③,④
	38		通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語プレゼン練習	①,②,③,④
	★	10/13		3課題・解決方法のグループ発表	英語プレゼン大会（クラス代表決め）	①,②,③,④
	39	10/17	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語プレゼン大会振り返り	①,②,③,④
	40		通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ修正・ポスター制作	①,②,③,④
	★	10/18	オープンスクール	3課題・解決方法のグループ発表	英語プレゼン（クラス代表）	①,②,③,④
	41	10/24	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ修正・ポスター制作	①,②,③,④
	42		通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ修正・ポスター制作	①,②,③,④
	43	10/1	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ修正・ポスター制作	①,②,③,④
	44		通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ修正・ポスター制作	①,②,③,④
	45	10/8	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ修正・ポスター制作・練習	①,②,③,④
	46		通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ修正・ポスター制作・練習	①,②,③,④
47	10/15	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ修正・ポスター制作・練習	①,②,③,④	
48		通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ修正・ポスター制作・練習	①,②,③,④	
49	10/12	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスターセッション練習	①,②,③,④	
50		通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスターセッション練習	①,②,③,④	
51	10/19	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスターセッションクラス代表決め	①,②,③,④	
52		通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスターセッションクラス代表決め	①,②,③,④	
53	10/26	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	ポスターセッション振り返り	①,②,③,④	
4	54	通常授業	4課題・解決方法の個人発表	SDGs個人レポート（日本語）説明と作成	①,②,③,④	
	55	通常授業	4課題・解決方法の個人発表	SDGs個人レポート（日本語）作成	①,②,③,④	
5	-	10/2	情報	(5 2月プレゼン大会に向けて)	英語プレゼン修正	①,②,③,④
	56	7/金	事業報告会		英語ポスターセッション（クラス代表）	①,②,③,④
	57	2/9	情報	(5 3月プレゼン大会に向けて)	英語プレゼン修正	①,②,③,④
	58	2/9	通常授業	(5 3月プレゼン大会に向けて)	英語プレゼン発表練習	①,②,③,④
	59	2/16	通常授業	(5 3月プレゼン大会に向けて)	英語プレゼンクラス代表決め	①,②,③,④
	60		情報	(5 3月プレゼン大会に向けて)	英語プレゼンクラス代表決め	①,②,③,④
★	3/月		特別時間割	プレゼン大会	英語プレゼン（クラス代表）	①,②,③,④

※ GWIは実施曜日が木曜日と金曜日に分かれる。この計画は、金曜日に実施するクラス用。

※ Skills：①Communication, ②Recognize an issue, ③Logical thinking, ④Presentation

3 生徒対象アンケート

(1) アンケート用紙

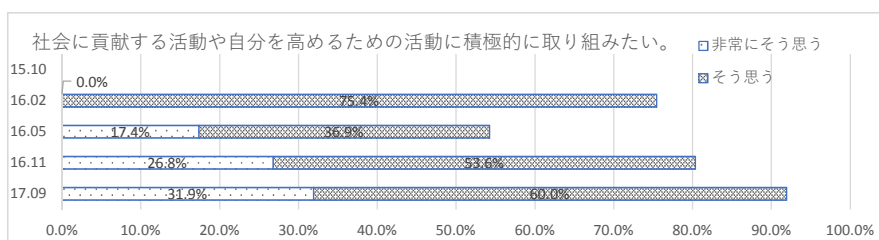
三島北高校 S G H 活動に関する調査（平成29年 月 日実施）			
HRNo. () 氏名 ()			
以下の1～16の項目について、自分の気持ちを「思わない」「あまり思わない」「そう思う」「非常にそう思う」の4段階から選び、該当する欄に○をつけてください。 また17、18の質問に対し、自分の考えを自由に記述してください。		非 常 に そ う 思 う	あ ま り 思 わ な い
1	社会に貢献する活動や自分を高めるための活動（読書等も含む）に積極的に取り組みたい。		
2	高校在学中に留学や、海外への研修に行きたい。		
3	高校卒業後、留学や海外への研修に行きたい。		
4	将来、国際関係や英語を使う職業に就きたい。		
5	社会問題に対して興味や関心を持ち、ニュースや新聞を意識してみるようになった。		
6	地域課題に対する興味や関心を持ち、ニュースや新聞を意識してみるようになった。		
7	自分で設定した水に関する課題が、その他の国際的・社会的・文化的課題と関係していることがわかった。		
8	S G H の学習で身に付けた思考のプロセスを、他の学習や日常といった様々な場面でも応用するようになった。		
9	考える力が身に付いた。（洞察力、発想力、論理力）		
10	課題解決をしていく上で、物事を多面的に見る姿勢が身に付いた。		
11	自分の考えを他者が理解できるよう伝える力が身に付いた。		
12	日本語で自分の意見や考え、探究の成果を多くの人に伝える力が身に付いた。 （レポート作成、プレゼンテーション）		
13	英語で自分の意見や考え、探究の成果を多くの人に伝える力が身に付いた。 （レポート作成、プレゼンテーション）		
14	周囲と協力して取り組む姿勢が身に付いた。（協調性、リーダーシップ）		
15	学習に対して、自分から意欲的に取り組む姿勢が身に付いた。		
16	学習以外のことに対して、自分から意欲的に取り組む姿勢が身に付いた。 （自主性、やる気、挑戦心）		
17	（自由記述）あなたが思うグローバル人材とは、どのような人ですか？		
18	（自由記述）17番で記述したような人あなた自身になるためには、どのような行動や考えが必要だと思いますか？		

1 SGH構想において実現する 成果目標に関する項目			2 課題研究の目標に関する項目（LW I・GWIの学習目標に関連するもの）				3 本校生徒の課題に関連し 高校3年間で 養いたい力に関する項目				
ア 組 む 自 己 研 究 活 動 に 取 り 組 む 生 徒 数	イ 自 主 的 に 留 学 又 は 海 外 研 修 に 行 く 生 徒 数	ウ 割 合 で 来 留 学 し た り 、 国 際 的 に 活 躍 し た り 、 考 え る 生 徒 の 数	ア 社 会 課 題 に 関 心	イ 問 題 解 決 力	ウ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力	エ 深 い 教 養	ア コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力 (再 掲)	イ 問 題 解 決 力 (再 掲)	ウ 課 題 設 定 力	エ 発 信 力	オ 行 動 力
○			○								
	○										○
		○									○
		○				○					
			○			○					
			○			○					
			○			○					
				○				○	○		○
				○				○			
				○				○	○		
					○		○			○	
					○		○			○	
					○		○			○	
					○		○				○
									○		○
									○		○

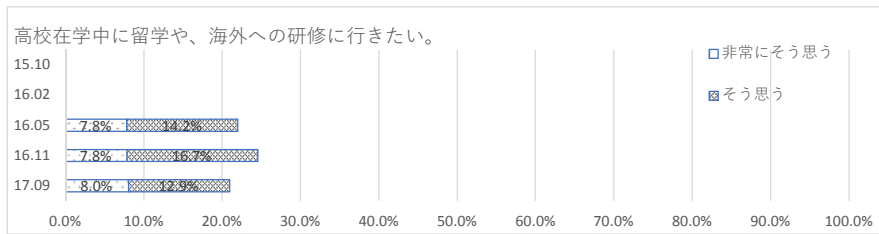
(2) アンケート集計結果

ア 平成27年度入学生

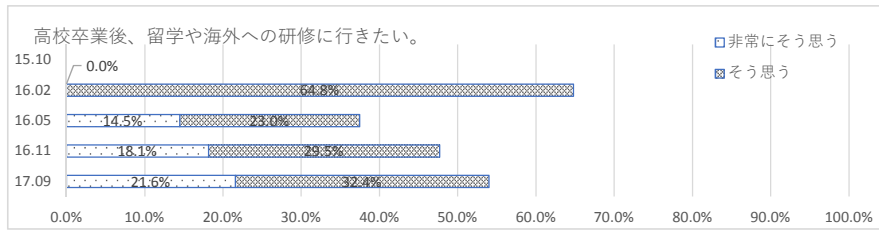
1	17.09	16.11	16.05	16.02	15.10
非常にそう思う	31.9%	26.8%	17.4%	0.0%	
そう思う	60.0%	53.6%	36.9%	75.4%	
どちらでもない			35.5%	0.0%	
あまり思わない	6.3%	16.1%	9.9%	24.6%	
思わない	1.8%	3.6%	0.4%	0.0%	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	



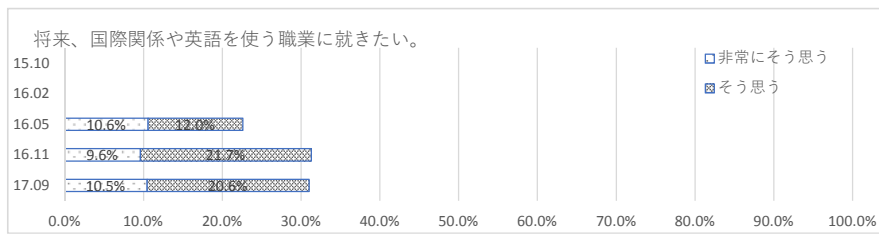
2	17.09	16.11	16.05	16.02	15.10
非常にそう思う	8.0%	7.8%	7.8%		
そう思う	12.9%	16.7%	14.2%		
どちらでもない			25.5%		
あまり思わない	35.7%	37.4%	22.7%		
思わない	43.4%	38.1%	29.8%		
	100.0%	100.0%	100.0%		



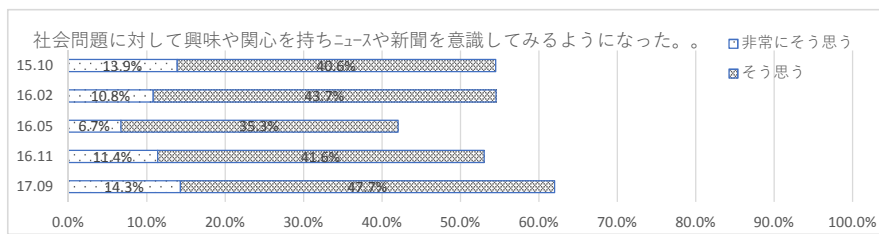
3	17.09	16.11	16.05	16.02	15.10
非常にそう思う	21.6%	18.1%	14.5%	0.0%	
そう思う	32.4%	29.5%	23.0%	64.8%	
どちらでもない			21.9%	0.0%	
あまり思わない	25.1%	31.0%	20.1%	35.2%	
思わない	20.9%	21.4%	20.5%	0.0%	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	



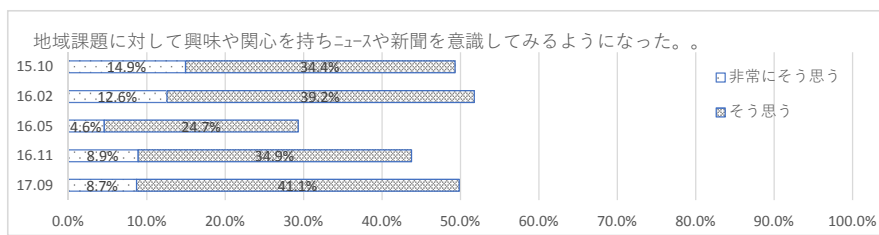
4	17.09	16.11	16.05	16.02	15.10
非常にそう思う	10.5%	9.6%	10.6%		
そう思う	20.6%	21.7%	12.0%		
どちらでもない			28.3%		
あまり思わない	38.0%	38.1%	27.9%		
思わない	31.0%	30.6%	21.2%		
	100.0%	100.0%	100.0%		



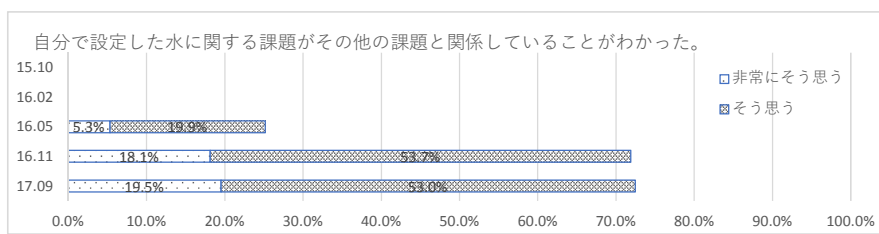
5	17.09	16.11	16.05	16.02	15.10
非常にそう思う	14.3%	11.4%	6.7%	10.8%	13.9%
そう思う	47.7%	41.6%	35.3%	43.7%	40.6%
			42.8%	31.5%	35.1%
あまり思わない	30.0%	39.1%	12.0%	12.2%	9.4%
思わない	8.0%	7.8%	3.2%	1.7%	1.0%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



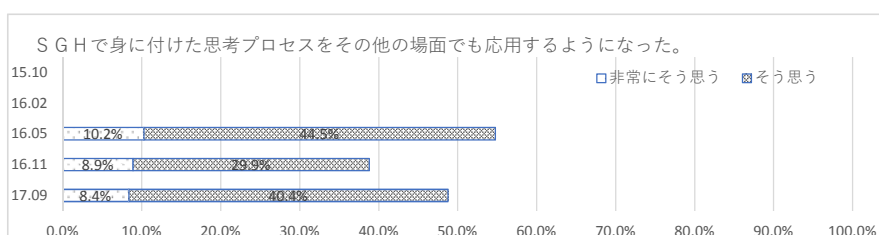
6	17.09	16.11	16.05	16.02	15.10
非常にそう思う	8.7%	8.9%	4.6%	12.6%	14.9%
そう思う	41.1%	34.9%	24.7%	39.2%	34.4%
どちらでもない			53.0%	33.6%	37.8%
あまり思わない	38.3%	43.1%	13.4%	12.2%	11.5%
思わない	11.8%	13.2%	4.2%	2.4%	1.4%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



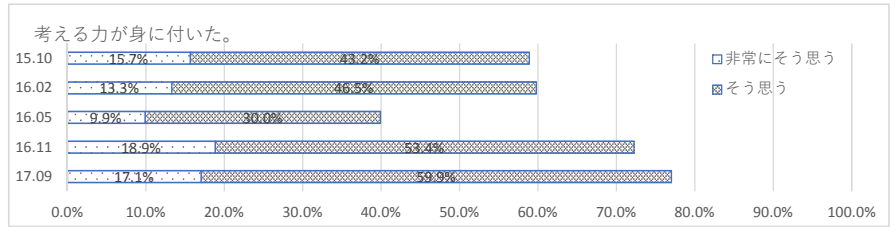
7	17.09	16.11	16.05	16.02	15.10
非常にそう思う	19.5%	18.1%	5.3%		
そう思う	53.0%	53.7%	19.9%		
どちらでもない			45.4%		
あまり思わない	20.6%	23.1%	22.7%		
思わない	7.0%	5.0%	6.7%		
	100.0%	100.0%	100.0%		



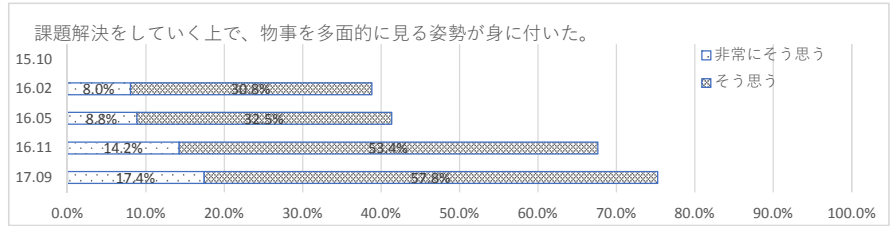
8	17.09	16.11	16.05	16.02	15.10
非常にそう思う	8.4%	8.9%	10.2%		
そう思う	40.4%	29.9%	44.5%		
どちらでもない			34.6%		
あまり思わない	38.0%	46.3%	9.5%		
思わない	13.2%	14.9%	1.1%		
	100.0%	100.0%	100.0%		



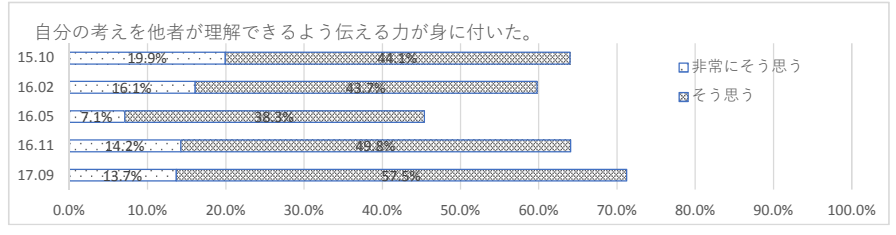
9	17.09	16.11	16.05	16.02	15.10
非常にそう思う	17.1%	18.9%	9.9%	13.3%	15.7%
そう思う	59.9%	53.4%	30.0%	46.5%	43.2%
どちらでもない			47.3%	31.8%	34.5%
あまり思わない	17.1%	22.4%	12.0%	6.6%	5.9%
思わない	5.9%	5.3%	0.7%	1.7%	0.7%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



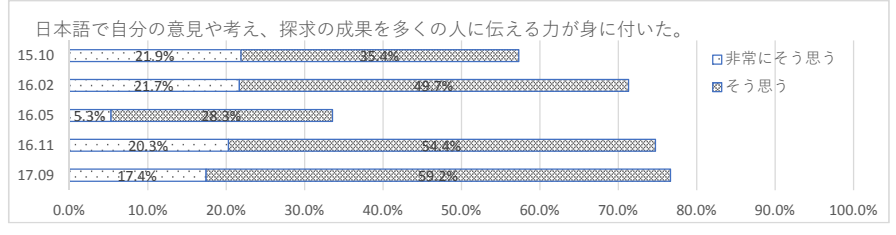
10	17.09	16.11	16.05	16.02	15.10
非常にそう思う	17.4%	14.2%	8.8%	8.0%	
そう思う	57.8%	53.4%	32.5%	30.8%	
どちらでもない			46.6%	45.1%	
あまり思わない	19.2%	26.0%	11.0%	13.6%	
思わない	5.6%	6.4%	1.1%	2.4%	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	



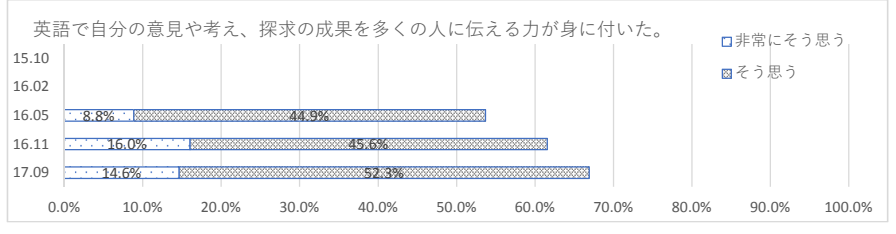
11	17.09	16.11	16.05	16.02	15.10
非常にそう思う	13.7%	14.2%	7.1%	16.1%	19.9%
そう思う	57.5%	49.8%	38.3%	43.7%	44.1%
どちらでもない			44.3%	31.5%	28.3%
あまり思わない	24.9%	31.0%	8.9%	8.4%	6.6%
思わない	3.9%	5.0%	1.4%	0.3%	1.0%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



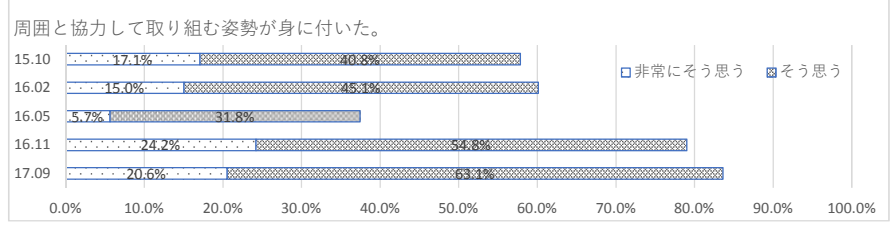
12	17.09	16.11	16.05	16.02	15.10
非常にそう思う	17.4%	20.3%	5.3%	21.7%	21.9%
そう思う	59.2%	54.4%	28.3%	49.7%	35.4%
どちらでもない			44.5%	21.3%	33.7%
あまり思わない	19.9%	22.4%	19.8%	5.9%	8.0%
思わない	3.5%	2.8%	2.1%	1.4%	1.0%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



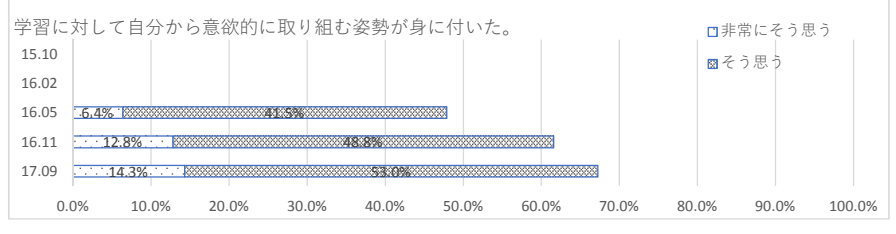
13	17.09	16.11	16.05	16.02	15.10
非常にそう思う	14.6%	16.0%	8.8%		
そう思う	52.3%	45.6%	44.9%		
どちらでもない			37.1%		
あまり思わない	27.5%	33.1%	8.5%		
思わない	5.6%	5.3%	0.7%		
	100.0%	100.0%	100.0%		



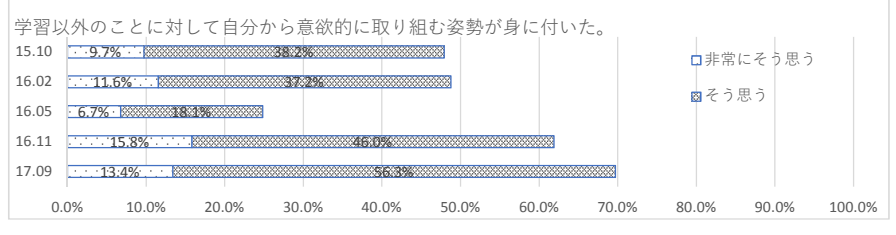
14	17.09	16.11	16.05	16.02	15.10
非常にそう思う	20.6%	24.2%	5.7%	15.0%	17.1%
そう思う	63.1%	54.8%	31.8%	45.1%	40.8%
どちらでもない			45.6%	31.1%	35.5%
あまり思わない	12.9%	18.1%	12.0%	7.7%	5.2%
思わない	3.5%	2.8%	4.9%	1.0%	1.4%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



15	17.09	16.11	16.05	16.02	15.10
非常にそう思う	14.3%	12.8%	6.4%		
そう思う	53.0%	48.8%	41.5%		
どちらでもない			40.1%		
あまり思わない	26.5%	30.6%	10.3%		
思わない	6.3%	7.8%	1.8%		
	100.0%	100.0%	100.0%		



16	17.09	16.11	16.05	16.02	15.10
非常にそう思う	13.4%	15.8%	6.7%	11.6%	9.7%
そう思う	56.3%	46.0%	18.1%	37.2%	38.2%
どちらでもない			39.7%	37.2%	41.3%
あまり思わない	25.0%	31.3%	25.5%	13.0%	9.7%
思わない	5.3%	6.8%	9.9%	1.1%	1.0%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



	18.01	17.09	16.11	16.05
1	18.01	17.09	16.11	16.05
非常にそう思う	24.4%	20.8%	22.0%	26.0%
そう思う	62.2%	62.2%	65.5%	40.8%
どちらでもない				26.3%
あまり思わない	11.7%	13.8%	9.4%	4.5%
思わない	1.8%	3.2%	3.1%	2.4%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	18.01	17.09	16.11	16.05
2	18.01	17.09	16.11	16.05
非常にそう思う	8.5%	11.3%	14.9%	11.8%
そう思う	12.7%	13.8%	19.1%	18.1%
どちらでもない				21.9%
あまり思わない	36.3%	41.7%	37.8%	24.3%
思わない	42.6%	33.2%	28.1%	24.0%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	18.01	17.09	16.11	16.05
3	18.01	17.09	16.11	16.05
非常にそう思う	20.4%	21.9%	23.3%	18.2%
そう思う	25.0%	26.5%	26.7%	19.9%
どちらでもない				24.5%
あまり思わない	29.6%	29.7%	28.1%	17.8%
思わない	25.0%	21.9%	21.9%	19.6%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

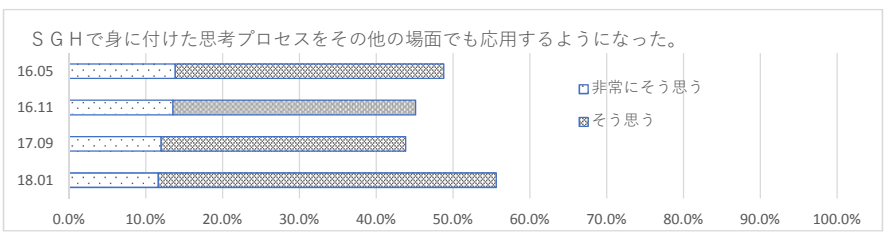
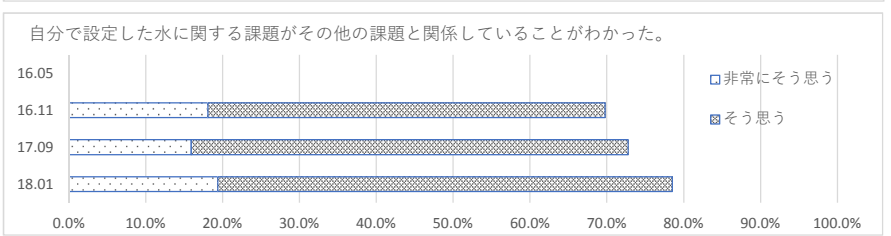
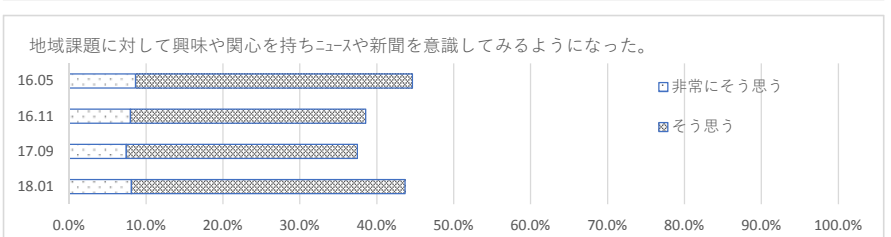
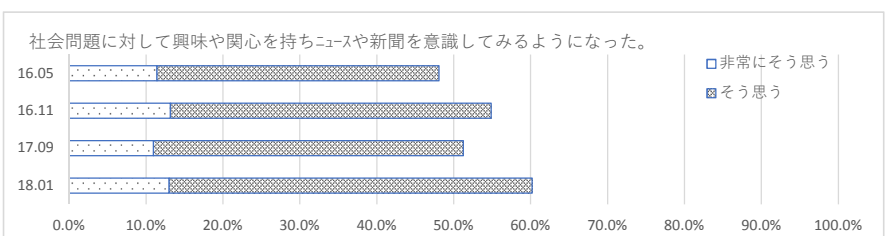
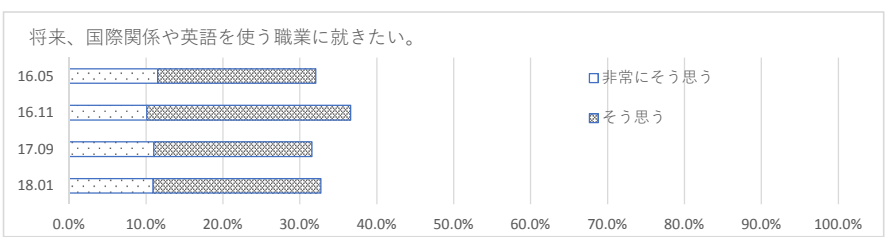
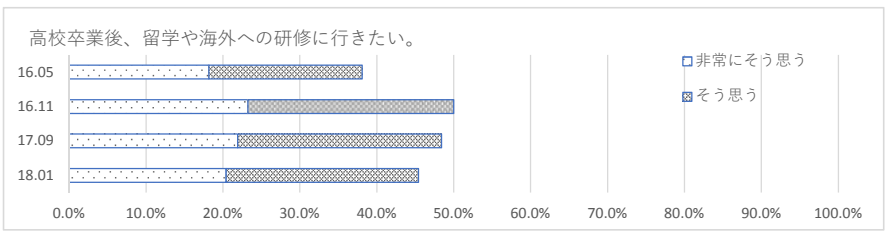
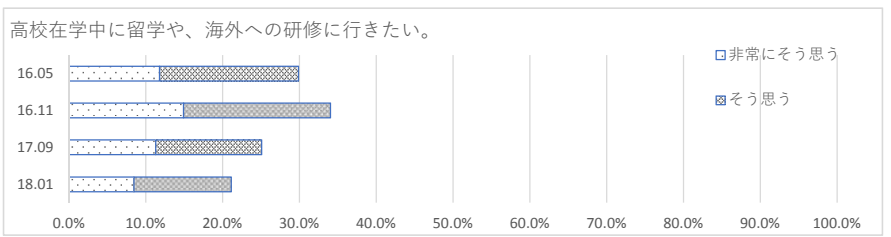
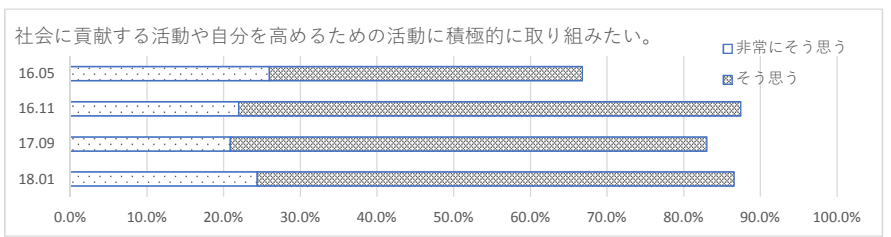
	18.01	17.09	16.11	16.05
4	18.01	17.09	16.11	16.05
非常にそう思う	10.9%	11.0%	10.1%	11.5%
そう思う	21.8%	20.6%	26.5%	20.6%
どちらでもない				30.3%
あまり思わない	39.1%	44.7%	40.4%	24.4%
思わない	28.2%	23.8%	23.0%	13.2%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	18.01	17.09	16.11	16.05
5	18.01	17.09	16.11	16.05
非常にそう思う	13.0%	11.0%	13.2%	11.4%
そう思う	47.2%	40.3%	41.7%	36.7%
どちらでもない				39.4%
あまり思わない	31.3%	39.2%	34.4%	10.7%
思わない	8.5%	9.5%	10.8%	1.7%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	18.01	17.09	16.11	16.05
6	18.01	17.09	16.11	16.05
非常にそう思う	8.1%	7.4%	8.0%	8.7%
そう思う	35.6%	30.0%	30.6%	36.0%
どちらでもない				36.7%
あまり思わない	43.3%	48.8%	45.8%	14.9%
思わない	13.0%	13.8%	15.6%	3.8%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	18.01	17.09	16.11	16.05
7	18.01	17.09	16.11	16.05
非常にそう思う	19.4%	15.9%	18.1%	
そう思う	59.2%	56.9%	51.7%	
どちらでもない				
あまり思わない	15.5%	20.5%	24.3%	
思わない	6.0%	6.7%	5.9%	
	100.0%	100.0%	100.0%	

	18.01	17.09	16.11	16.05
8	18.01	17.09	16.11	16.05
非常にそう思う	11.6%	12.0%	13.5%	13.8%
そう思う	44.0%	31.8%	31.6%	34.9%
どちらでもない				38.8%
あまり思わない	35.9%	44.2%	43.8%	9.0%
思わない	8.5%	12.0%	11.1%	3.5%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9	18.01	17.09	16.11	16.05
非常にそう思う	23.9%	25.8%	24.7%	8.7%
そう思う	58.8%	47.0%	51.7%	49.8%
どちらでもない				33.6%
あまり思わない	14.4%	21.6%	19.1%	6.6%
思わない	2.8%	5.7%	4.5%	1.4%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

10	18.01	17.09	16.11	16.05
非常にそう思う	20.5%	19.8%	21.3%	9.8%
そう思う	59.0%	51.9%	53.0%	31.9%
どちらでもない				46.0%
あまり思わない	17.3%	23.3%	22.3%	9.5%
思わない	3.2%	4.9%	3.5%	2.8%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

11	18.01	17.09	16.11	16.05
非常にそう思う	18.7%	15.5%	14.9%	9.3%
そう思う	57.0%	47.7%	53.5%	37.4%
どちらでもない				43.9%
あまり思わない	20.4%	30.4%	27.8%	7.3%
思わない	3.9%	6.4%	3.8%	2.1%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

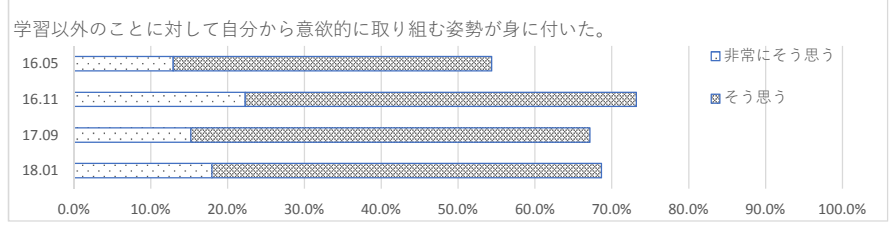
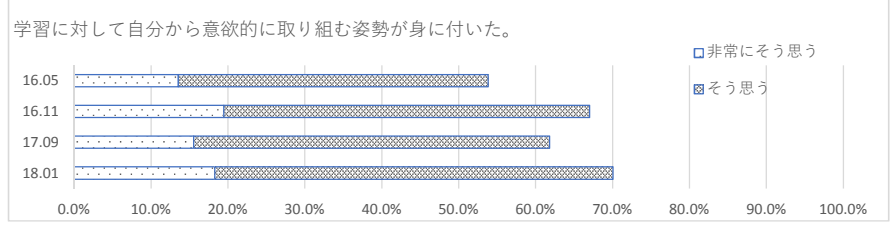
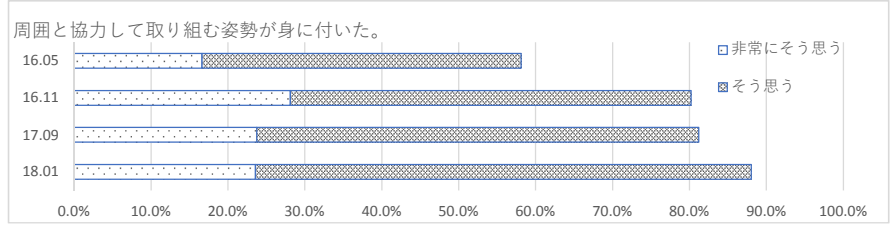
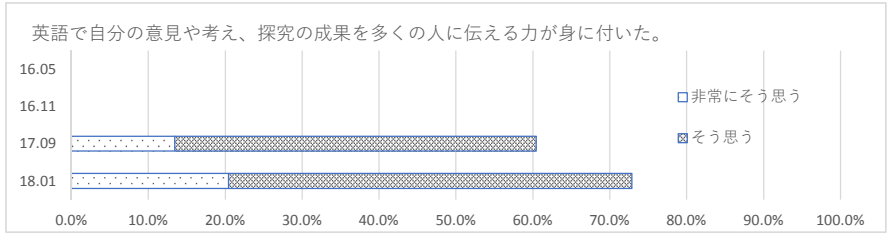
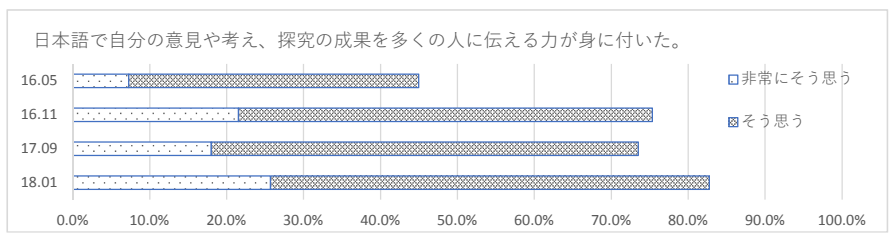
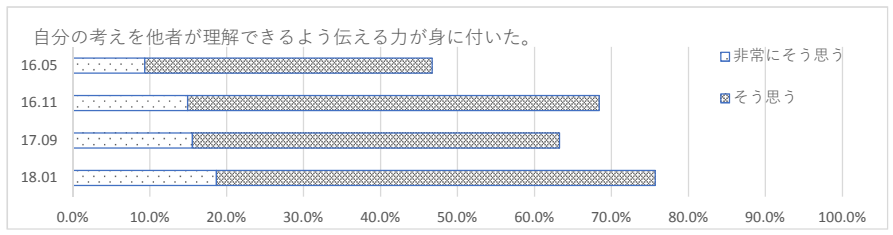
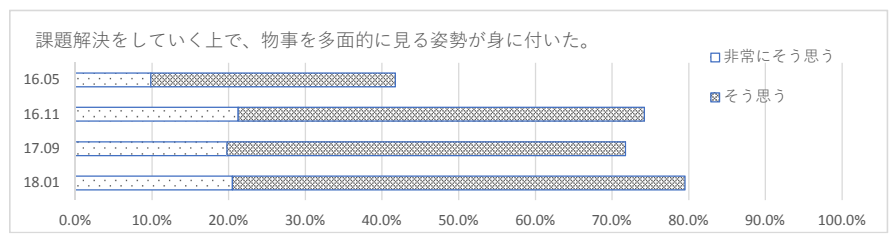
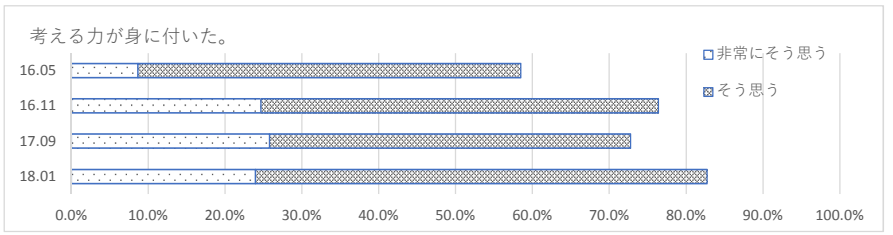
12	18.01	17.09	16.11	16.05
非常にそう思う	25.7%	18.0%	21.5%	7.3%
そう思う	57.0%	55.5%	53.8%	37.7%
どちらでもない				43.3%
あまり思わない	15.1%	20.5%	22.6%	9.0%
思わない	2.1%	6.0%	2.1%	2.8%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

13	18.01	17.09	16.11	16.05
非常にそう思う	20.4%	13.4%		
そう思う	52.5%	47.0%		
どちらでもない				
あまり思わない	22.5%	32.5%		
思わない	4.6%	7.1%		
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

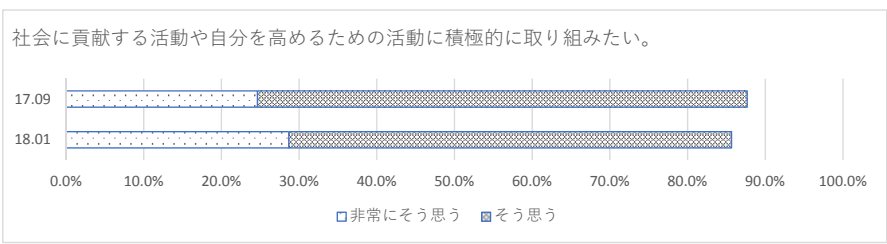
14	18.01	17.09	16.11	16.05
非常にそう思う	23.6%	23.8%	28.1%	16.6%
そう思う	64.4%	57.4%	52.1%	41.5%
どちらでもない				33.9%
あまり思わない	9.2%	14.5%	16.7%	5.9%
思わない	2.8%	4.3%	3.1%	2.1%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

15	18.01	17.09	16.11	16.05
非常にそう思う	18.3%	15.5%	19.4%	13.5%
そう思う	51.8%	46.3%	47.6%	40.3%
どちらでもない				35.4%
あまり思わない	26.1%	31.8%	28.8%	8.3%
思わない	3.9%	6.4%	4.2%	2.4%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

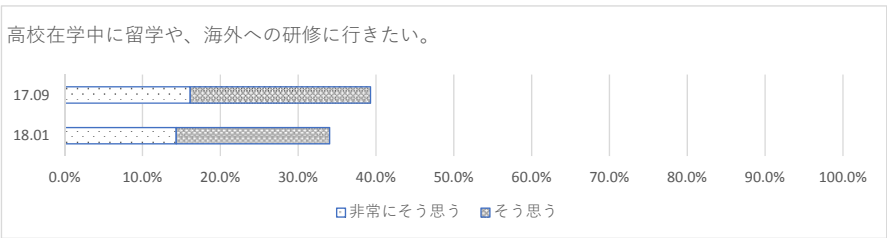
16	18.01	17.09	16.11	16.05
非常にそう思う	18.0%	15.2%	22.3%	12.9%
そう思う	50.7%	51.9%	50.9%	41.5%
どちらでもない				36.2%
あまり思わない	25.7%	26.5%	21.6%	7.0%
思わない	5.6%	6.4%	5.2%	2.4%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



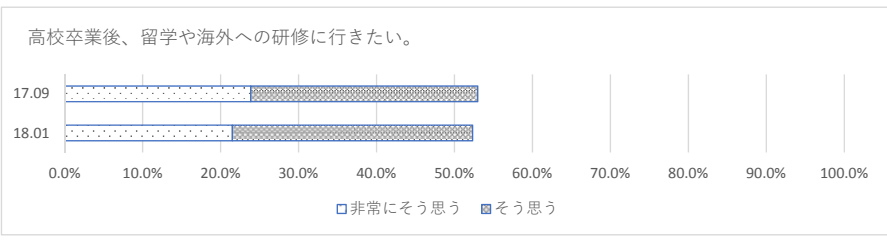
	18.01	17.09
1	18.01	17.09
非常にそう思う	28.7%	24.6%
そう思う	57.0%	63.0%
あまり思わない	13.6%	10.9%
思わない	0.7%	1.4%
	100.0%	100.0%



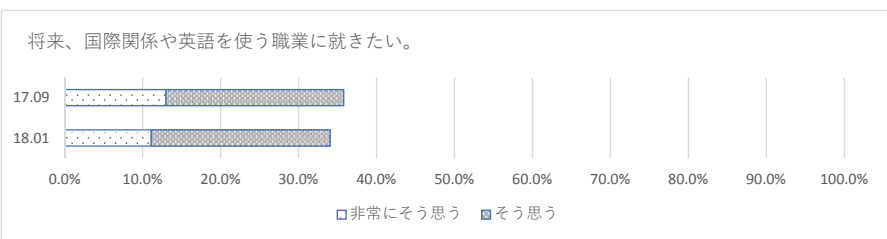
	18.01	17.09
2	18.01	17.09
非常にそう思う	14.3%	16.1%
そう思う	19.7%	23.2%
あまり思わない	44.1%	44.2%
思わない	21.9%	16.5%
	100.0%	100.0%



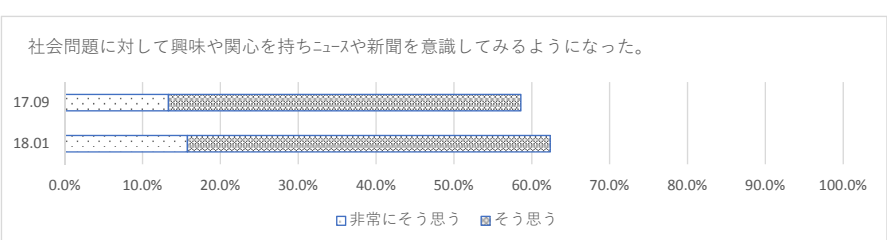
	18.01	17.09
3	18.01	17.09
非常にそう思う	21.5%	23.9%
そう思う	30.8%	29.1%
あまり思わない	32.3%	33.3%
思わない	15.4%	13.7%
	100.0%	100.0%



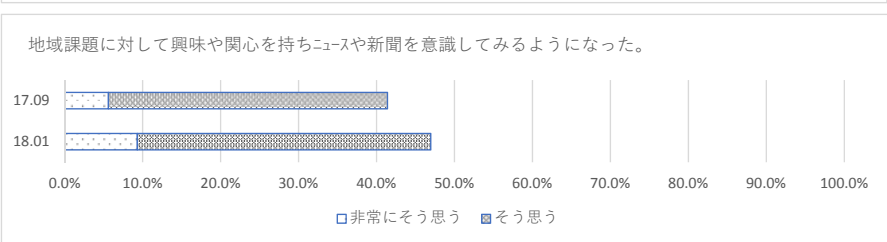
	18.01	17.09
4	18.01	17.09
非常にそう思う	11.1%	13.0%
そう思う	22.9%	22.8%
あまり思わない	43.7%	42.1%
思わない	22.2%	22.1%
	100.0%	100.0%



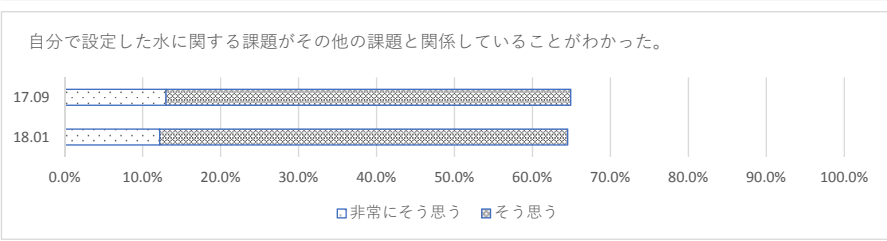
	18.01	17.09
5	18.01	17.09
非常にそう思う	15.8%	13.3%
そう思う	46.6%	45.3%
あまり思わない	30.8%	35.1%
思わない	6.8%	6.3%
	100.0%	100.0%



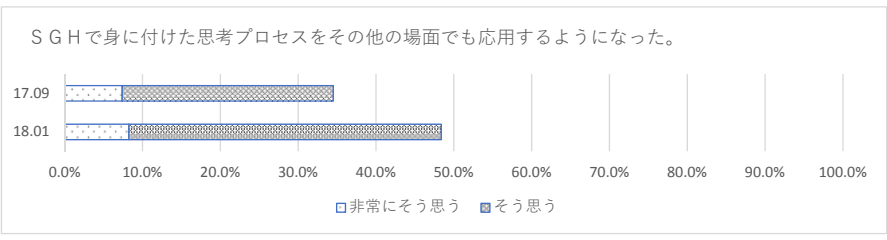
	18.01	17.09
6	18.01	17.09
非常にそう思う	9.3%	5.6%
そう思う	37.6%	35.8%
あまり思わない	43.7%	47.7%
思わない	9.3%	10.9%
	100.0%	100.0%



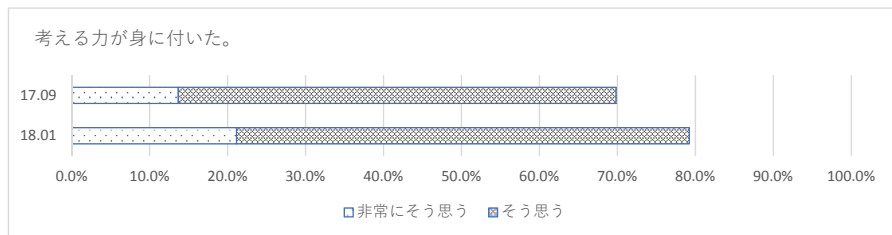
	18.01	17.09
7	18.01	17.09
非常にそう思う	12.2%	13.0%
そう思う	52.3%	51.9%
あまり思わない	31.2%	30.9%
思わない	4.3%	4.2%
	100.0%	100.0%



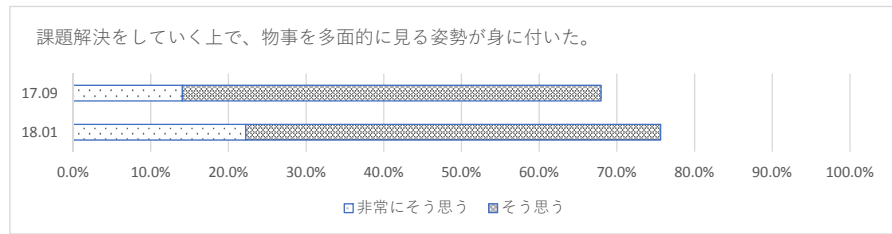
	18.01	17.09
8	18.01	17.09
非常にそう思う	8.2%	7.4%
そう思う	40.1%	27.1%
あまり思わない	41.2%	53.5%
思わない	10.4%	12.0%
	100.0%	100.0%



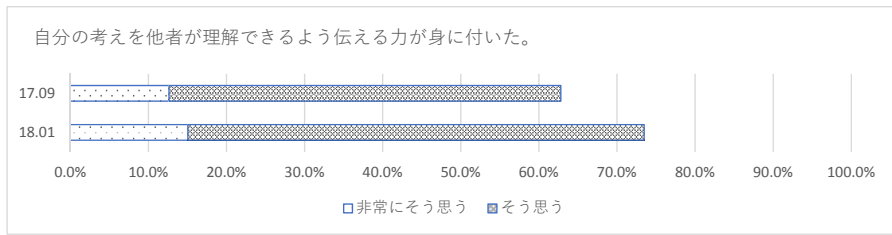
	18.01	17.09
9		
非常にそう思う	21.1%	13.7%
そう思う	58.1%	56.1%
あまり思わない	17.2%	25.6%
思わない	3.6%	4.6%
	100.0%	100.0%



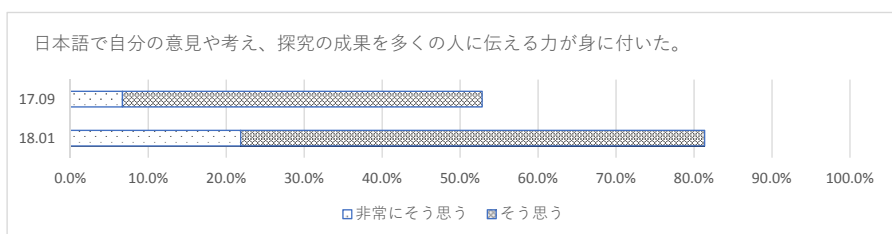
	18.01	17.09
10		
非常にそう思う	22.2%	14.1%
そう思う	53.4%	53.9%
あまり思わない	21.9%	27.1%
思わない	2.5%	4.9%
	100.0%	100.0%



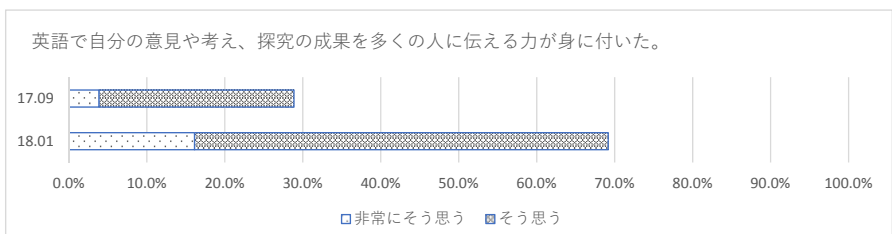
	18.01	17.09
11		
非常にそう思う	15.1%	12.6%
そう思う	58.4%	50.2%
あまり思わない	23.3%	30.5%
思わない	3.2%	6.7%
	100.0%	100.0%



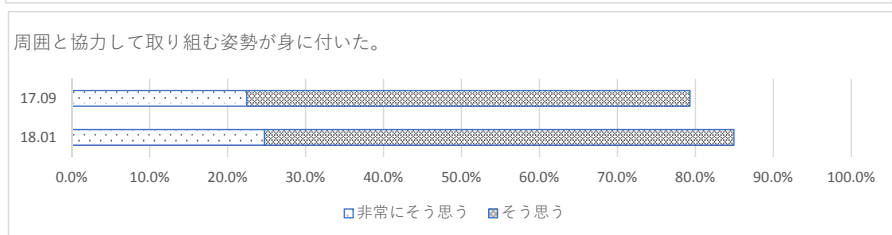
	18.01	17.09
12		
非常にそう思う	21.9%	6.7%
そう思う	59.5%	46.1%
あまり思わない	16.5%	36.6%
思わない	2.2%	10.6%
	100.0%	100.0%



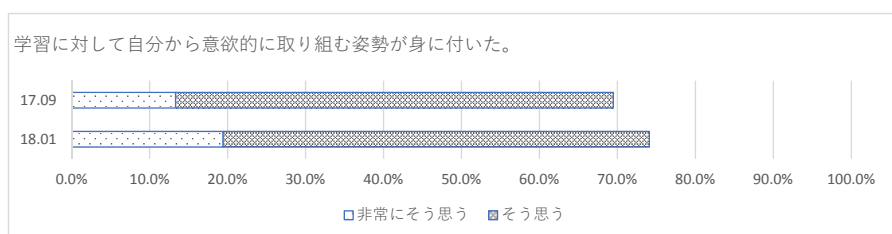
	18.01	17.09
13		
非常にそう思う	16.1%	3.9%
そう思う	53.0%	25.0%
あまり思わない	26.9%	44.7%
思わない	3.9%	26.4%
	100.0%	100.0%



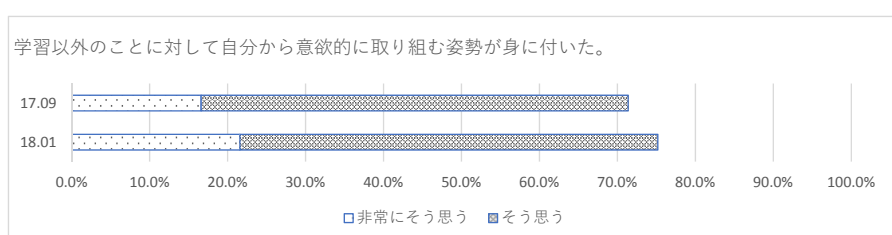
	18.01	17.09
14		
非常にそう思う	24.7%	22.5%
そう思う	60.2%	56.8%
あまり思わない	12.5%	16.8%
思わない	2.5%	3.9%
	100.0%	100.0%



	18.01	17.09
15		
非常にそう思う	19.4%	13.3%
そう思う	54.7%	56.1%
あまり思わない	21.2%	24.6%
思わない	4.7%	6.0%
	100.0%	100.0%



	18.01	17.09
16		
非常にそう思う	21.6%	16.6%
そう思う	53.6%	54.8%
あまり思わない	20.5%	25.1%
思わない	4.3%	3.5%
	100.0%	100.0%



4 教員対象アンケート

先生御自身について

あなた自身の信念や実績について伺います。以下の1～14の項目は、**あなた自身にどの程度あてはまりますか？**

「まったく当てはまらない」「当てはまらない」「当てはまる」「非常によく当てはまる」の4段階から選び、該当する欄に○をつけてください。

また15は、あなた自身の感想を自由に記述してください。

		回答の割合	(参) 昨年度
1	教員としての私の役割は、生徒自身の探究を促すことだと思う。	93.8%	88.6%
2	生徒は、問題に対する解決策を自ら見出すことで、最も効果的に学習すると思う。	87.5%	94.3%
3	他の教員の授業を見学し、感想を述べることもある。	50.0%	48.6%
4	同僚と教材をやり取りしたり、共有したりすることがある。	90.6%	94.3%
5	特定の生徒の学習の向上について議論することがある。	80.6%	74.3%
6	生徒に勉強ができると自信を持たせるようにしている。	81.3%	80.0%
7	生徒が学習の価値を見出せるよう手助けをしている。	81.3%	88.6%
8	生徒のために発問を工夫している。	93.8%	91.4%
9	勉強にあまり関心を示さない生徒に動機付けをしている。	71.9%	74.3%
10	自分が生徒にどのような態度や行動を期待しているか明確に示している。	68.8%	77.1%
11	生徒の多面的思考・批判的思考を促している。	71.9%	50.0%
12	多様な評価方法を活用している。	53.1%	57.1%
13	生徒が理解できていないようなときには、別の説明のしかたを工夫している。	90.6%	88.6%
14	アクティブ・ラーニングの手法を取り入れて授業を行っている。	68.8%	71.4%
15	(自由記述) 本校がSGH指定校となり、あなた自身の意識の変容はありましたか？(1～14の項目の内容の補足でも、それ以外の内容でも構いません。)		
<ul style="list-style-type: none"> ・あまり変容はないです。 ・1～14のことを意識してやるようになりました。上手くできているかはわかりませんが、やろうという気持ちはあります。 ・生徒の自主的な活動を促すように気を配るようになった。 ・無理矢理にでも「水」に対して興味がわくように、SGH授業では意図的に取り上げるようにしていた。 ・教員自身が「探究」について理解しているのか？たとえば「探究」の一般的な過程を説明できるのか？が疑問です。理科という教科では小学校から「追究」として行われていることです。 ・SGHの授業は大学の推薦・志望理由書に使えます。これからはこの傾向はもっと強まってきます。 ・課題の提示をはっきりさせて、授業をすすめる。 ・水の分析方法や安全な水の取得方法など、実験・実習を通し、生徒と一緒に学ぶことができた。 ・LWIの「問題解決の流れ」をCEの教材に当てはめて生徒に考えさせるなど、授業のやり方に幅が出ました。 ・本年度の授業について、生徒は基本的にまじめなのでよく取り組んでいると思うが、やっていることを客観的に見ていると、「授業のための研究」をしているような気がしてならない。本当に「問題となる事柄」を見つけて探究できれば良いと思います。 ・SGHのお陰だと思うが、クラスの中で意見を言ったり、行事の役割を決めたりスムーズにできるようになった。授業の中でも意見を聞いた場面や互いに意見を言わせる場面を作るようにはしているが、SGHをやる前からそれはあまり変わっていない。 ・アクティブラーニングを意識してSGH担当教科の授業を行うようにしている。SGHの授業では課題解決に近づけたり、探究を深めたりする方法がなかなか見つからず戸惑いもある。 ・自分自身も課題解決型の活動を取り入れるようになり、同教科・他教科の先生方と授業を見学しあう中でも意識の変化は感じました。名城高校のSGH担当の先生が新テストや新しい入試を睨んでSGHに手を挙げたとおっしゃっていましたが、地域の中学生の保護者に自身も保護者と言う立場で接する機会があると、オープンスクールなどから感じる三島北高のSGHのねらいは英語力という印象を持たれる方が多いようです。 			

4 教員対象アンケート

生徒の変容について 以下の16～30の項目について、SGH事業をとおして、どの程度の割合の生徒に変化があったと思いますか？「ほとんどの生徒（100～70%程度）に変化があった」「ある程度の生徒（70～40%程度）に変化があった」「一部の生徒（40～10%程度）に変化があった」「変化はほとんどなかった（10～0%）」の4段階から選び、該当する欄に○をつけてください（感覚で構いません。また空欄でも結構です）。また31は、あなた自身の感想を自由に記述してください。	ほとんどの生徒	ある程度の生徒	一部の生徒	ほとんど変化なし
16 社会貢献活動や自分を高めるための活動（読書等も含む）に積極的に取り組むようになった。	3.8%	26.9%	69.2%	0.0%
17 進路選択に影響を与えた。	0.0%	8.0%	80.0%	12.0%
18 社会問題に対して興味や関心を持つようになった。	0.0%	34.6%	53.8%	11.5%
19 地域課題に対する興味や関心を持つようになった。	0.0%	34.6%	57.7%	7.7%
20 SGHの学習で身に付けた思考のプロセスを、他の学習や日常といった様々な場面でも応用するようになった。	3.8%	19.2%	65.4%	11.5%
21 考える力が身に付いた。（洞察力、発想力、論理力）	3.8%	38.5%	53.8%	3.8%
22 課題解決をしていく上で、物事を多面的に見る姿勢が身に付いた。	0.0%	42.3%	53.8%	3.8%
23 自分の考えを他者が理解できるよう伝える力が身に付いた。	7.7%	42.3%	50.0%	0.0%
24 日本語で自分の意見や考え、探究の成果を多くの人に伝える力が身に付いた。（レポート作成、プレゼンテーション）	7.7%	61.5%	26.9%	3.8%
25 英語で自分の意見や考え、探究の成果を多くの人に伝える力が身に付いた。（レポート作成、プレゼンテーション）	0.0%	34.6%	57.7%	7.7%
26 周囲と協力して取り組む姿勢が身に付いた。（協調性、リーダーシップ）	19.2%	69.2%	11.5%	0.0%
27 学習に対して、自分から意欲的に取り組む姿勢が身に付いた。	0.0%	32.0%	64.0%	4.0%
28 学習以外のことに対して、自分から意欲的に取り組む姿勢が身に付いた。（自主性、やる気、挑戦心）	0.0%	24.0%	68.0%	8.0%
29 大学生や外部指導者の支援により、生徒の心的態度（主体性、意欲等）が高まった。	15.4%	46.2%	34.6%	3.8%
30 大学生や外部指導者の支援により、生徒の能力（論理的思考力、課題設定力、表現力等）が高まった。	19.2%	26.9%	50.0%	3.8%
31 （自由記述）あなたは、SGH活動の生徒への効果は、どのようなものがあると思いますか？（16～30の項目の内容の補足でも、それ以外の内容でも構いません。） ・自主性、計画性、協調性を高めると思います。 ・英語で長めに話すこと（原稿があればさらに長く）に抵抗がなくなった生徒が多くなったように思う。 ・コミュニケーション能力が向上したと思う。 ・おとしの卒業生と比べると、授業等で不明な点を生徒同士で自発的に教えあう場面が増えたように感じます。 ・自分の考えを他者に向けて発信することができるようになったと思う。 ・大学に入ると行うようなことを先取りして経験できているのは、とても貴重なことだと思う。 ・SGHの活動が必要になった時もっとまじめにやっておけばよかったと言っています。一度経験させておくことが大切です。SGH委員を中心に行っていくことが必要です。委員の皆さん、御苦労様です。 ・26番：チームで取り組まないと達成できない。ただ、一部の生徒に任せきりの生徒も少なからずいるので、主体的に、というのはなかなか難しい。 ・一部の生徒には（特に語学分野や国際的な分野に興味関心を持つ生徒）効果があるように感じるが、もしかしたらそういう生徒はSGHの活動がなくても能力を高めていけるのかもしれない、とも感じる。また、その他の生徒にはSGHの活動はSGHの中だけで完結しており、他の様々なことに応用していくほどの効果は期待できないように感じる。 ・グループワークや話し合いをするのにすぐ取り組める。 ・プレゼン能力の向上、資料調査・作成力の向上 ・意見を出しあってホワイトボードやふせんを使って互いにシェアする。意見を言い合う姿勢は身についたと思う。勉強に対してはSGHの影響があったのかはわからない。学年が上がっていけば、意識が変わっていくのは、SGHをやっていない学年でもふつうにあったので。 ・新しい入試にあわせた学力が得られることだと思います。				

5 論理的思考力テスト

(1) 論理的思考力テスト

問1 (配点 40)

この Web テストは、1～3年生の全員に配信します。9月に行われるテストの練習も兼ねています。他の人と相談せず、解答してください。

三島北高校のSGHの取り組みでは、問題解決の流れの枠組みを用いて、現状を分析したり原因を突き止めたりする練習を重ねてきました。しかし、うまく問題解決できていなかったり、問題を見失ってしまうことにも気を付けなければなりません。問題解決の流れについて、以下の設問に答えなさい。

なお、設問1は【例題】です。続いて設問2～4をやしましょう。

設問1

【例題】A Grave Mistake (重大な過ち)の活動では、アメリカのある町で原因不明の症状に苦しむ人が発生した問題を題材として、問題解決の流れを学びました。次のように問題解決を試みました。しかし、これでは問題解決をしていません。なぜでしょうか。

患者が原因不明の症状に苦しむ

→医師に相談するも原因解明できず

→役所に相談した

→井戸水の水質調査を実施した

→工場の周りで高濃度のヒ素が検出された

→工場を閉鎖した

※ ここで解答の選択肢ア～ウから自分の答えを決めましょう。

工場を閉鎖しても、病気が治らなかったのです。これは、工場を汚染源と断定した前提となった調査が不十分だったことに原因があります。調査は、現存する井戸のみを対象としたもので、井戸のない場所のデータは取れていなかったのです。

確かに、「犯人」扱いされた工場は閉鎖され、失職する人が増えたのにもかかわらず、肝心の症状が治まらず、町の活気がさらに失われてしまったかもしれません。しかしそれは、この間違った解決策の結果であり、問題解決につながらなかった理由ではありません。

その後、この町では平均的にどの場所からもデータが得られるように、町全体を格子状に区切り、採水地点を定め、ボーリング調査を行いました。そうして得られたデータにより、ヒ素で防腐処理をした遺体が埋まる墓地こそが、本当の汚染源であることがわかったのです。つまり、適切な調査がなされない限り、問題は解消されなかったのです。正解は「ア」です。

解答

選択してください。

- ア 調査が不十分で、工場を閉鎖しても病気が治らないから。
- イ 工場閉鎖により患者である工場労働者が失業し、治療費を払えなくなってしまったから。
- ウ 症状を緩和する薬を医師が患者に処方しなかったため病気が治っていないから。

設問2

次のように問題解決を試みましたが、これでは解決できていません。それはなぜですか。

英語のテストの点数が悪かった

→反省をした

→家庭学習を毎日2時間やると決め、1週間実行した

→おうちの人に褒められてうれしかった

解答

選択してください。

- ア テストの点数が悪かったのは、当日体調が悪かったせいだったから。
- イ 褒めてもらって満足しているから。
- ウ 反省が不十分だったから。

設問3

次のように問題解決を試みましたが、これでは解決できていません。それはなぜですか。

ダイエットしたい

→「牛乳と運動を組み合わせるとよい」と友達からアドバイスされた

→とりあえず毎朝1か月牛乳を飲んだ

→とりあえず毎晩1か月腕立て伏せを20回やった

解答

選択してください。

- ア 適切な牛乳の量や運動の種類や量を知らずにやったから。
- イ 半信半疑で真剣さが不足していたから。
- ウ 栄養のバランスがよくなかったから。

設問4

AさんとBさんが次のように言っています。

Aさん「小学校の昼食は、お弁当より給食が良い。給食は栄養のバランスが優れているからだ。」

Bさん「いや、給食よりお弁当の方が良い。お弁当には親の愛情がこもっているからだ。」

Bさんの発言は、Aさんの意見に対する「反論」になっていません。なぜでしょうか。

解答

選択してください。

- ア 愛情の量という、明確に測れないもので主観的に判断しているから。
- イ 給食にも作った人の愛情はこもっていることを見落としているから。
- ウ 栄養の良し悪しの論点を愛情の論点にすり替えているから。

問2（配点60）

論理的なものの考え方は、問題を解決したり、建設的な議論をするうえで大切です。次の設問のそれぞれの場面について、適切なものを選びなさい。

設問1

警察官が増えると、犯罪件数が減るという意見があります。その理由として論理的に説明しているものを1つ選びなさい。

解答

- ア 警察官に就職した人たちによる消費活動により、町が経済的に潤うから。
- イ パトロールに従事する警察官が増え、犯罪者がその目を気にして犯罪行為をしなくなるから。
- ウ 治安の向上を期待して他の町から流入する人が増えるから。（正答 イ）

設問2

7人が丸いテーブルの周りに座ろうとしています。ただし、それぞれの人が話せる言語は次のように限られています。両隣に座った人と全員が通訳なしで話せるための座席の配置が必要です。

- ①英語
- ②英語、中国語
- ③英語、スペイン語、フランス語
- ④日本語、中国語
- ⑤ドイツ語、スペイン語
- ⑥イタリア語、日本語、中国語
- ⑦ドイツ語、イタリア語

適切な座席配置を選びなさい。

解答

- ア ①から時計回りに③⑤②④⑥⑦
- イ ①から時計回りに②④⑥⑦⑤③
- ウ ①から時計回りに②④⑦⑥③⑤
- エ ①から時計回りに③②④⑥⑦⑤

設問3

＜秋の旅行企画～今行くべきはここ！＞という特集を雑誌ですることになりました。編集員たちが話し合っています。論点がずれた発言をしている人は誰ですか。

解答

- ア「秋か～。カキがおいしい季節だよね～。カキ食べたいなあ。」
- イ「今年は紅葉が例年よりもきれいだと天気予報で言っていたよ。きれいな紅葉の写真を使おう。」
- ウ「新しい大型ショッピングセンターがオープンするハワイのホノルル特集にしよう。」

設問4

Aさんは昨日本屋さんで「英検の参考書」を買いました。とても良い本だったので、友人のBさんにも勧めることにしました。よい説明になっていないものはどれでしょうか。

解答

- ア「全体的な対策をするならこれ。読解だけでなくリスニングの解説が詳しかったよ。」
- イ「君は基礎ができているから、あとは演習だろう？ この本は練習問題がたくさんあったよ。」
- ウ「これは、僕がやってみた限りわかりやすく、他より内容がよかったよ。」
- エ「もう1次試験は受かっているなら、面接試験の過去問が載っているこれがおすすめだよ。」

SGH 論理的思考力テスト (平成29年9月実施)【A】

解答は全てマークシートに濃く丁寧にマークしなさい。□の番号のところに、選んだ ~ をマークすること。マークシートは明日も同じものを続けて使います。
マークシートにHRNOをマークするのを忘れないこと。

【A】 次のように問題解決を試みましたが、これでは解決できていません。それはなぜですか？

1	自転車通勤する人の交通事故が去年よりも増えた。 事故防止キャンペーンで交通事故の映像を視聴した。 ショッキングな映像が多く、自転車で通勤する人が減った。 自転車事故が少なくなった。 ショッキングな映像がトラウマになって、不眠を訴える生徒が増えたから。 安全な自転車運転についての知識が身についたわけではないから。 自転車事故と自転車通勤者の割合は変わっていないから。
2	市内の小学生の学力学習状況調査の平均点が、隣の市よりも低い。 先生たちが過去問題を分析して、問題の傾向をまとめた。 分析をもとに模擬試験を作成し、授業時間中に何度も練習した。 学力学習状況調査の平均点が、隣の市よりも高くなった。 同じ傾向の問題なら解けるが、問題の傾向が変わると点数が取れなくなったから。 隣の市も同じような対策をとり、この次の年はまた追い越されてしまったから。 先生たちが分析したのは問題だけで、市内の小学生の実態や、市内の小学生の身につけていない学力についての分析をしたわけではないから。
3	ペットを飼いたいけど、住んでいるマンションの管理組合規則でペットは禁止されている。 鳴き声や、においがペット禁止の理由らしい、と隣の人に聞いた。 鳴いたり、におったりしない動物を飼うことにした。 ウサギを飼い始めた。 管理組合の規則に違反していることに変わりはないから。 本当は犬を飼いたかったのに、ウサギで我慢することにしたから。 ウサギも鳴くことがあり、夜になるとうるさいから。
4	日本の女性国会議員が少なく、世界の中でも割合が低いため、国連から是正が求められている。 各選挙区等で、女性の候補を探し、積極的に立候補させた。 当選した女性議員を閣僚として積極的に登用した。 女性国会議員の存在がアピールされた。 候補選びの際に、タレントなど容姿も考慮にいれながら選んだので、政策提言ができない議員が多くなってしまったから。 女性閣僚の不祥事が続き、「やっぱり女性は議員に向いていない」という世論が強くなったから。 成人女性全体の政治に関する関心度や期待度はあまり高まらず、自ら主体的に立候補しようとする女性の割合は増えていないから。
5	独裁国家Aでは、独裁者B将軍の圧政により、民主化運動の指導者が処刑されている。 国外に亡命した民主化運動の活動家たちが、対策を話し合った。 協議の結果、ゴルゴ13を雇い、B将軍の暗殺を依頼することになった。 超一流のスナイパーであるゴルゴ13は、B将軍の暗殺に成功した。 将軍暗殺後の国内政情が不安定になり、内戦が勃発したから。 民主化運動の活動家のひとりがゴルゴ13に支払うべき依頼料を持ち逃げしたから。 B将軍のひとり息子が跡を継ぎ、父親の蓄えた財産を利用してゴルゴ13を雇い、国外の民主化運動活動家たちの暗殺を計画することにしたから。

マークシートを汚したり折ったりしないように気をつけて提出。明日続けて使います。

SGH 論理的思考力テスト (平成29年9月実施)【B】

【B】論理的なものの考え方は、問題を解決したり、建設的な議論をする上で大切です。次の設問のそれぞれの場面について、適切なものを選びなさい。

6

テニス部の団体戦のオーダーを組んでいます。条件は5つあります。

【条件1】試合は、シングルス2試合とダブルス1試合を、シングルス1、ダブルス1、シングルス2の順で行い、先に2勝した方が勝ちです。

【条件2】シングルス1の選手の市内順位は、シングルス2の選手の市内順位よりも高くなければなりません。

【条件3】ランキングの逆転は起きない＝市内順位の低い選手が高い選手に勝つことはありません。

【条件4】ダブルスの強さはペアの選手の市内順位を足したものに等しいと考えます。

【条件5】引き分けはなく、必ず勝敗を決めなければなりません。

相手チームの予想オーダーと各選手の市内順位、自分たちのチームの選手の市内順位は以下のとおりです。この団体戦で勝つためのオーダーを考える場合、**間違っているものを** ~ より選んで答えなさい。

オーダー	選手名	市内順位
シングルス1	木村	1
ダブルス1	中居	4
	香取	5
シングルス2	稲垣	8

自校チームの各選手の市内順位

選手名	市内順位
松本	2
相葉	3
大野	6
桜井	7

シングルス1は絶対に勝てないので、松本・相葉・大野の誰でもよい。
桜井はシングルス2とする。
松本はダブルス1とする。

7

家に友達を呼んでパーティーをすることにし、次のようなメニューを考えています。どういう順番で調理すると、すべてのメニューを一番おいしい状態で、テーブルに載せることができるでしょうか。 ~ より選んで答えなさい。

【メニュー1】 から揚げ：調理時間30分・揚げたてがおいしい。

【メニュー2】 ポテトサラダ：調理時間40分・できたては熱いので冷蔵庫で30分以上冷やしたい。(冷蔵庫で冷やす時間は、調理時間に含まれない。)

【メニュー3】 ハムサラダ：調理時間30分・お皿に載せてから冷蔵庫で冷やしたいが、ポテトサラダよりは冷やす時間は短くてもよい。

【メニュー4】 ミニホットドッグ：調理時間30分・揚げものだが、冷めてもおいしい。

【メニュー5】 フルーツポンチ：調理時間10分・器が大きく、サラダと同時に冷蔵庫に入れるのは難しいが、冷やした状態でテーブルに出したい。食後でよい。

2 3 4 5 1 5 2 3 4 1 3 4 2 1 5

8

「お昼ごはんはサンドイッチがいい」という友達に対して、自分は「おむすびがいい」と思っています。友達の意見をまず読み、その友達を「おむすび派」にするための説得方法を考えたいのですが、下の ~ から、説得力のなさそうなものを選んで答えなさい。

友達の意見：サンドイッチは、炭水化物であるパンに野菜とハム・ツナ・卵などの具をはさむことで、栄養のバランスがとれる。また、パンは消化がいいので、すぐに栄養になり、午後の活動での脳の活性化に役に立つ。パンにはいろいろな種類があるので、バラエティにとんだサンドイッチを作ることができるし、甘いものをはさめばおやつにもなる。

ご飯のデンプン質の方が、パンのデンプン質よりもブドウ糖に変わりやすく、脳の栄養分として適切である。
おむすびの具は、魚介類や肉類など色々なものが選べるし、混ぜご飯をおむすびにすれば野菜を多く摂取できる。
サンドイッチにはさむツナはマヨネーズ味だけだが、おむすびの具のツナはしょうゆ味でもおいしく食べられる。

第2回SGH論理的思考力テスト (平成30年1月実施)【A】

解答は全てマークシートに濃く丁寧にマークしなさい。□の番号のところに、選んだ選択肢の番号をマークすること。マークシートは明日も同じものを続けて使います。

マークシートにHRNOをマークするのを忘れないこと。

9

9月に実施した第1回の論理的思考力テストでは、「お昼ごはんはサンドイッチがいい」という友達に対して、「おむすび派」にするための説得方法として不適切なものを選ぶ問題がありました。覚えていますか？ 十分な論拠とはどのようなものかを理解しているかどうか、相手を論理的に説得する力があるかどうかを測る問題でした。質問の仕方は変わっていますが、今回も同様の力を測る問題です。

【A-1】ある主張に対する意見がいくつかあります。(1)～(10)のそれぞれの意見は、次のどれに当てはまるでしょうか。選択肢～からひとつ選び、マークしてください。

主張：犬をペットとして飼うことは良いことである。

選択肢

賛成論として有効だ。

賛成論だが、客観的な事実や論理的なつながりがないため、有効ではない。

賛成論とも反対論ともいえる/いえない。

反対論として有効だ。

反対論だが、客観的な事実や論理的なつながりがないため、有効ではない。

- | | |
|------|-----------------------------------|
| (1) | 犬は鳴き声や抜け毛などが近所迷惑になる。 |
| (2) | 犬はかわいい。 |
| (3) | 犬を飼うと、散歩が習慣となり、身体的に健康になる。 |
| (4) | 飼い主が飼育放棄したらかわいそう。 |
| (5) | 犬も他の野生動物と同じように自然の中で暮らす方が良い。 |
| (6) | すべての命は大切だ。 |
| (7) | 隣の家の人は、犬を飼い始めたら運気が上がったそう。 |
| (8) | 人気のある種を育てるために、無理な繁殖をさせる業者がいる。 |
| (9) | 飼育しきれない犬の殺処分が増加している。 |
| (10) | 犬の世話を通じて、餌をやったり散歩をしたりという責任感が育まれる。 |

【A-2】ある課題解決のために、何らかの「対策」をとり、その対策の効果を検証する「データ」を集めたいと思います。課題解決のために最も有意義な「対策」と「データ」の組合せはどれでしょうか。選択肢～からひとつ選び、□(11)の欄にマークしてください。

課題：学校でSNSトラブルが頻発している。

【対策】	【データ】
A 先生がSNSサイトで学校名を検索し、怪しい投稿がないかチェックする。	a スマートフォンの契約率
B クラスでSNSへの投稿のマナーについて話し合う。	b SNSへの投稿数
C 校則でスマートフォンの契約を禁止する。	c 投稿内容を投稿前に再確認する生徒数

選択肢 A-a A-b A-c B-a B-b B-c C-a C-b C-c

マークシートを汚したり折ったりしないように気をつけて提出。明日続けて使います。

第2回SGH論理的思考力テスト (平成30年1月実施)【B】

昨日使用したマークシートを続けて使用すること。

【B-1】ある主張に対する意見がいくつかあります。(12)～(21)のそれぞれの意見は、次のどれに当てはまるでしょうか。選択肢～からひとつ選び、マークしてください。

主張：オリンピックは国別対抗をやめるべきだ。

選択肢

賛成論として有効だ。

賛成論だが、客観的な事実や論理的なつながりがないため、有効ではない。

賛成論とも反対論ともいえる / いえない。

反対論として有効だ。

反対論だが、客観的な事実や論理的なつながりがないため、有効ではない。

(12) 国ごとに出場枠が割り振られる国別対抗では、有力選手が出場できないことがある。

(13) 日の丸を見られなくなるのはいやだ。

(14) ドーピング問題で国が処分されると、同じ国のドーピングに関係のない選手まで参加できなくなる。

(15) 国家を代表するという選手のモチベーションがなくなってしまう。

(16) 韓国と北朝鮮が統一チームで参加するのは良いことだ。

(17) オリンピックに国家の威信をかけるような時代は終わった。

(18) 国籍にかかわらず好きな選手のいるチームを応援できる。

(19) 国家の補助がなければ、メジャーではないスポーツの選手が育たない。

(20) 国ごとのメダル数を競うより、より多くの人に参加できるオープンな大会にする方が、開催地のスポーツ振興のためになる。

(21) 各競技の世界選手権をオリンピックにしまえば、余計なお金を使わなくて済む。

【B-2】ある課題解決のために、何らかの「対策」をとり、その対策の効果を検証する「データ」を集めたいと思います。課題解決のために最も有意義な「対策」と「データ」の組合せはどれでしょうか。選択肢～からひとつ選び、(22)の欄にマークしてください。

課題：軽装での富士登山によるケガ人が増えている。

【対策】

A 各登山口に、救急車を常時配備する。

B 富士山関連のHPに、登山用品販売サイトへのリンクをはる。

C 各登山口で、トレッキング・ウェアのレンタルを始める。

【データ】

a トレッキング・ウェアの売上高

b 軽装の登山者数

c 救急車の出動回数

選択肢

A-a

A-b

A-c

B-a

B-b

B-c

C-a

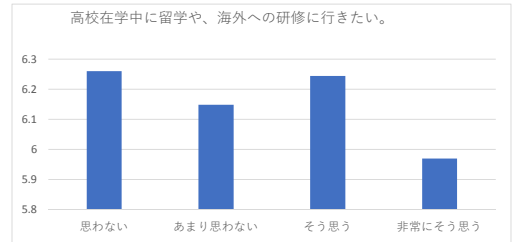
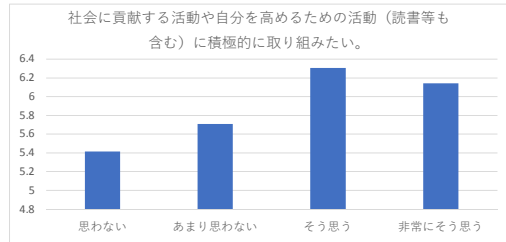
C-b

C-c

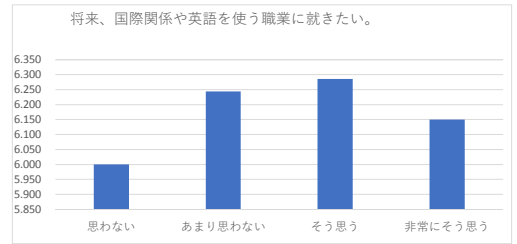
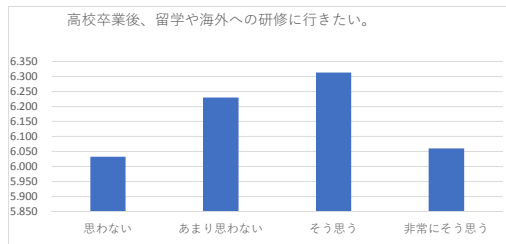
正解:【A】4 2 1 5 5 3 2 3 5 1 6 【B】1 5 1 5 3 2 2 4 3 3 8

第1回論理力テスト回答別平均点

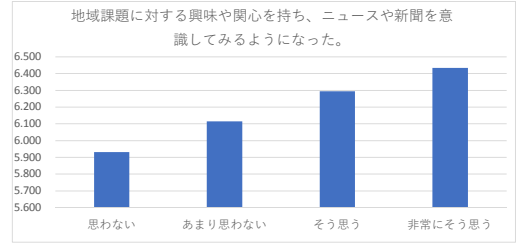
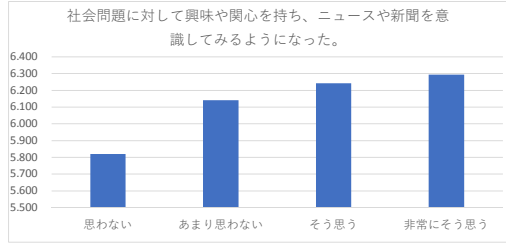
社会に貢献する活動や自分を高めるための活動（読書等も含む）に積極的に取り組みたい。	
思わない	5.412
あまり思わない	5.706
そう思う	6.304
非常にそう思う	6.139



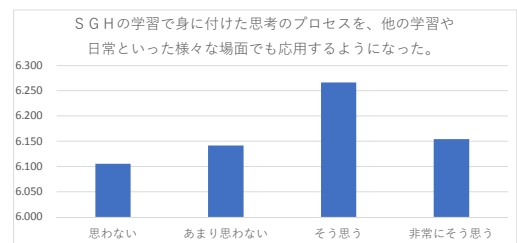
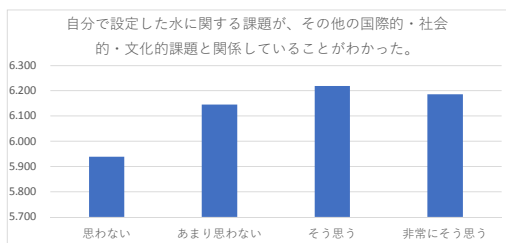
高校在学中に留学や、海外への研修に行きたい。	
思わない	6.260
あまり思わない	6.148
そう思う	6.245
非常にそう思う	5.969



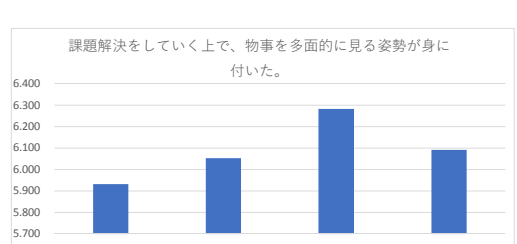
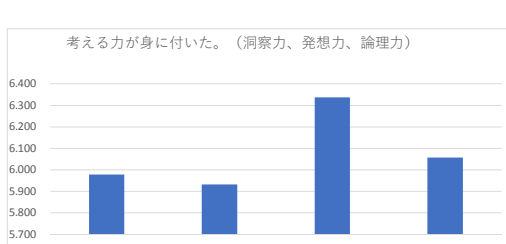
高校卒業後、留学や海外への研修に行きたい。	
思わない	6.032
あまり思わない	6.230
そう思う	6.313
非常にそう思う	6.059



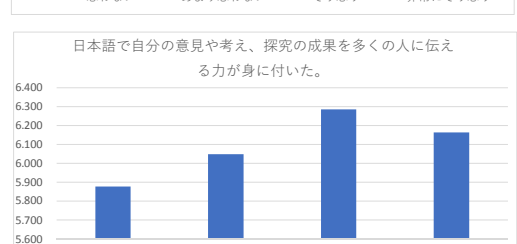
将来、国際関係や英語を使う職業に就きたい。	
思わない	6.000
あまり思わない	6.244
そう思う	6.285
非常にそう思う	6.149



社会問題に対して興味や関心を持ち、ニュースや新聞を意識してみるようになった。	
思わない	5.818
あまり思わない	6.140
そう思う	6.241
非常にそう思う	6.292



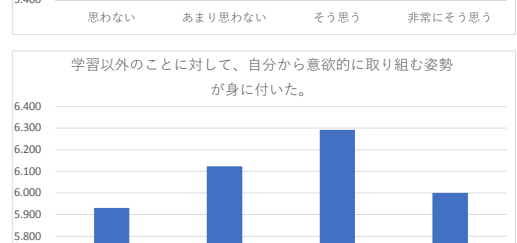
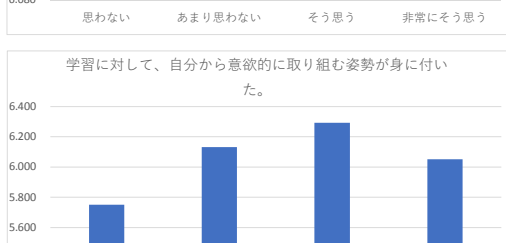
地球課題に対する興味や関心を持ち、ニュースや新聞を意識してみるようになった。	
思わない	5.931
あまり思わない	6.114
そう思う	6.294
非常にそう思う	6.433



自分で設定した水に関する課題が、その他の国際的・社会的・文化的課題と関係していることがわかった。	
思わない	5.938
あまり思わない	6.144
そう思う	6.219
非常にそう思う	6.185



SGHの学習で身に付けた思考のプロセスを、他の学習や日常といった様々な場面でも応用するようになった。	
思わない	6.105
あまり思わない	6.141
そう思う	6.266
非常にそう思う	6.154



考える力が身に付いた。（洞察力、発想力、論理力）	
思わない	5.978
あまり思わない	5.932
そう思う	6.336
非常にそう思う	6.057



課題解決をしていく上で、物事を多面的に見る姿勢が身に付いた。	
思わない	5.932
あまり思わない	6.053
そう思う	6.282
非常にそう思う	6.090

自分の考えを他者が理解できるよう伝える力が身に付いた。	
思わない	5.956
あまり思わない	6.123
そう思う	6.236
非常にそう思う	6.137

日本語で自分の意見や考え、探究の成果を多くの人に伝える力が身に付いた。	
思わない	5.877
あまり思わない	6.047
そう思う	6.284
非常にそう思う	6.162

英語で自分の意見や考え、探究の成果を多くの人に伝える力が身に付いた。	
思わない	6.209
あまり思わない	6.218
そう思う	6.130
非常にそう思う	6.211

周囲と協力して取り組む姿勢が身に付いた。	
思わない	5.697
あまり思わない	5.886
そう思う	6.273
非常にそう思う	6.211

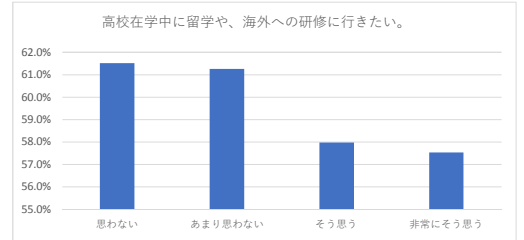
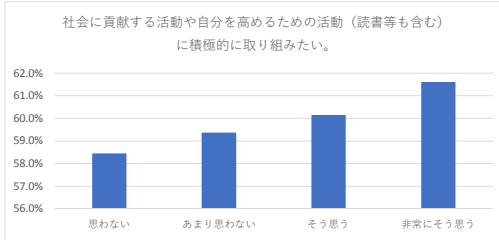
学習に対して、自分から意欲的に取り組む姿勢が身に付いた。	
思わない	5.750
あまり思わない	6.130
そう思う	6.291
非常にそう思う	6.051

学習以外のことに対して、自分から意欲的に取り組む姿勢が身に付いた。	
思わない	5.930
あまり思わない	6.123
そう思う	6.292
非常にそう思う	6.000

第2回論理力テスト回答別正答率平均

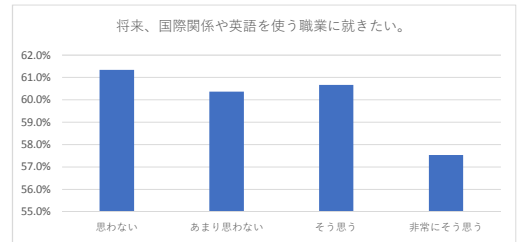
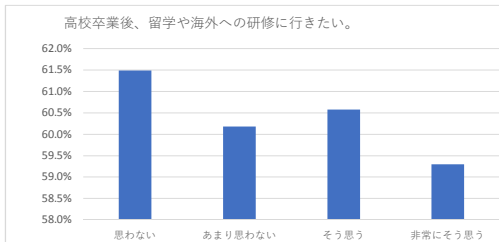
社会に貢献する活動や自分を高めるための活動（読書等も含む）に積極的に取り組みたい。

思わない	58.4%
あまり思わない	59.4%
そう思う	60.1%
非常にそう思う	61.6%



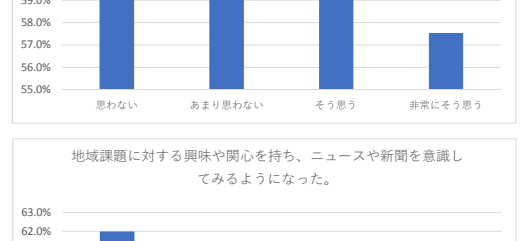
高校在学中に留学や、海外への研修に行きたい。

思わない	61.5%
あまり思わない	61.2%
そう思う	58.0%
非常にそう思う	57.5%



高校卒業後、留学や海外への研修に行きたい。

思わない	61.5%
あまり思わない	60.2%
そう思う	60.6%
非常にそう思う	59.3%

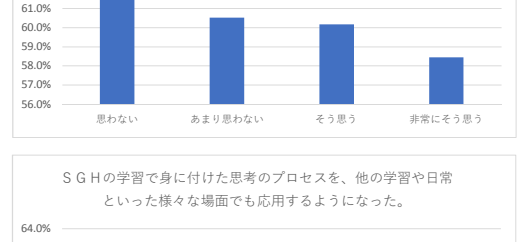
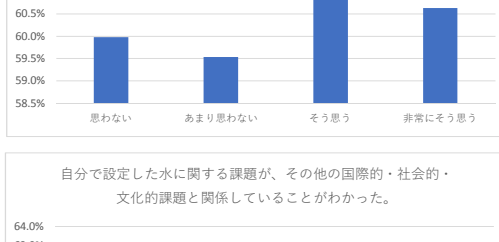


将来、国際関係や英語を使う職業に就きたい。

思わない	61.3%
あまり思わない	60.4%
そう思う	60.7%
非常にそう思う	57.5%

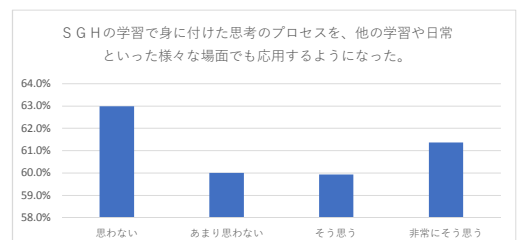
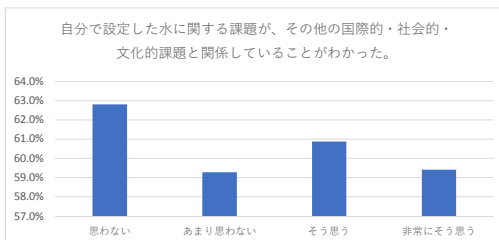
社会問題に対して興味や関心を持ち、ニュースや新聞を意識して見るようになった。

思わない	60.0%
あまり思わない	59.5%
そう思う	60.9%
非常にそう思う	60.6%



地域課題に対する興味や関心を持ち、ニュースや新聞を意識して見るようになった。

思わない	62.0%
あまり思わない	60.5%
そう思う	60.2%
非常にそう思う	58.4%



自分で設定した水に関する課題が、その他の国際的・社会的・文化的課題と関係していることがわかった。

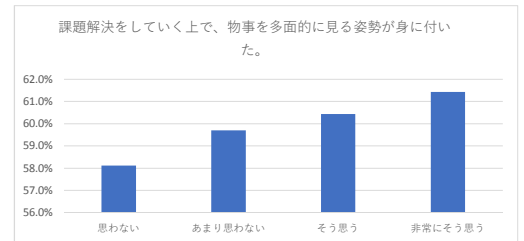
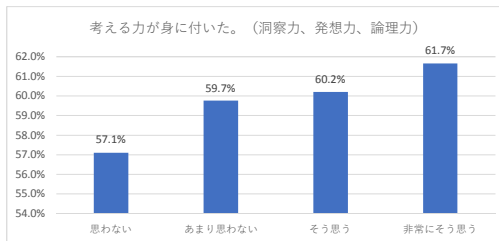
思わない	62.8%
あまり思わない	59.3%
そう思う	60.9%
非常にそう思う	59.4%

SGHの学習で身に付けた思考のプロセスを、他の学習や日常生活といった様々な場面でも応用するようになった。

思わない	63.0%
あまり思わない	60.0%
そう思う	59.9%
非常にそう思う	61.4%

考える力が身に付いた。（洞察力、発想力、論理力）

思わない	57.1%
あまり思わない	59.7%
そう思う	60.2%
非常にそう思う	61.7%

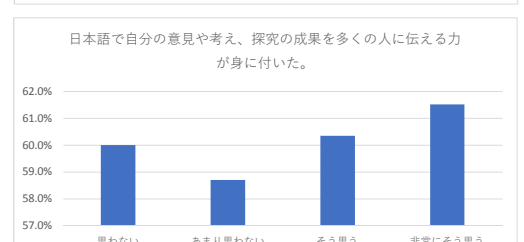
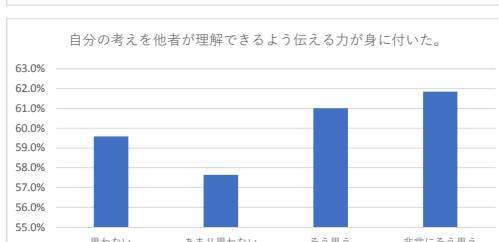


課題解決をしていく上で、物事を多面的に見る姿勢が身に付いた。

思わない	58.1%
あまり思わない	59.7%
そう思う	60.4%
非常にそう思う	61.4%

自分の考えを他者が理解できるよう伝える力が身に付いた。

思わない	59.6%
あまり思わない	57.6%
そう思う	61.0%
非常にそう思う	61.8%

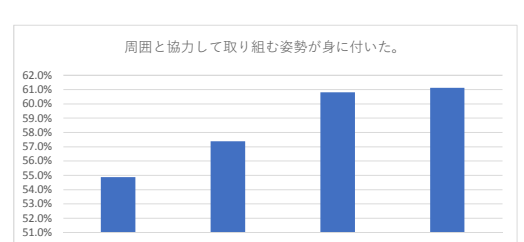
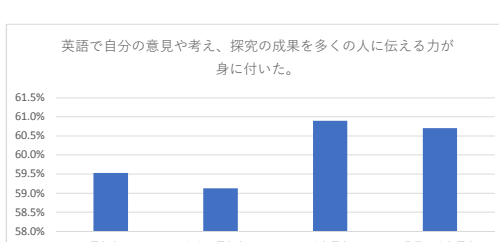


日本語で自分の意見や考え、探究の成果を多くの人に伝える力が身に付いた。

思わない	60.0%
あまり思わない	58.7%
そう思う	60.3%
非常にそう思う	61.5%

英語で自分の意見や考え、探究の成果を多くの人に伝える力が身に付いた。

思わない	59.5%
あまり思わない	59.1%
そう思う	60.9%
非常にそう思う	60.7%

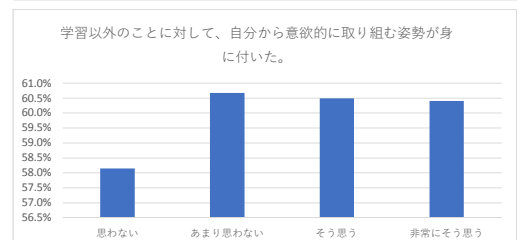
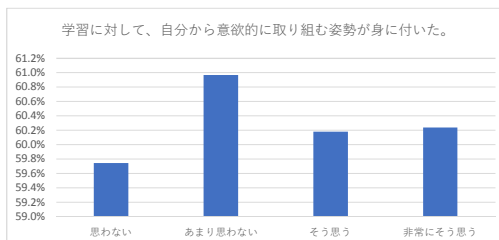


周囲と協力して取り組む姿勢が身に付いた。

思わない	54.9%
あまり思わない	57.4%
そう思う	60.8%
非常にそう思う	61.1%

学習に対して、自分から意欲的に取り組む姿勢が身に付いた。

思わない	59.7%
あまり思わない	61.0%
そう思う	60.2%
非常にそう思う	60.2%



学習以外のことに対して、自分から意欲的に取り組む姿勢が身に付いた。

思わない	58.1%
あまり思わない	60.7%
そう思う	60.5%
非常にそう思う	60.4%